# 【目次】

（付録、著作集第８巻『詩歌集』より）

# 「西独ハンブルクだより」（書簡日記）

**──妻順子（家族、また武蔵野幕屋一同）へ当てた手紙──**

**（１９６１年４月２９日～１９６２年３月３０日）**

小池辰雄

私は１９６１年５月から翌１９６２年４月まで〔東京大学（駒場）から〕、ハンブルク大学哲学部門の日本学ゼミナール（日本学講義）の一端を担当させられた。講師（Lektor）または客員教授（Gastprofessor）などといわれる職で、こちらの公務員となったわけです。

こちらの大学は夏学期、冬学期の二期制で、夏休暇は８月、９月、１０月の３ヵ月、夏といっても、日本の内地で考えるような夏とはおよそちがい、暑いと感じ汗を流すような日は数えるくらいしかありません。日本学（Japanologie）を専攻する学生は勿論少なく、寺小屋的な感じで、授業としてはやり易く、親しみ深い気持のよいものです。夏学期では、初歩者と既習者に、それぞれ語学的及び文学的なものを主として会話形態で講じ、冬学期ではその他に「日本の精神史概説」（Einleitung in die Geistgeschichte Japans）を講じました。日本学専任教授にはベンル先生（Prof. Dr. Benl）とヴェンク先生（Prof. Dr. Wenck）とが居られます。〔著作集第９巻『感想と紀行』／Ｂ　海外旅行／一、ドイツだより〕

＊

【発信１９６１年４月２９日／小池順子様、外一同、及び幕屋の皆様／小池辰雄（アンカレッヂより）】

快適な月夜のたびと雲の上につづけ、睡眠は５時間くらい。１２時頃お夜食。アンカレッヂにおりてまた朝食（ただし１０時こちらの）でながめる食事というものをとりつつあり。あんがい寒くない北国。雪山と針葉樹が印象的。アンカレッヂ飛行場にて。ＫＯＩＫＥ　ＴＡＴＳＵＯ

【発信１９６１年４月２９日／小池順子様及び一同、武さしの集会の皆様／小池辰雄（アンカレッヂより）】

第二信。羽田での皆様のお見送りを心から感謝いたします。ＪＥＴは全く快適なものです。羽田での „Ein’ feste Burg ist unser Gott“ の讃美歌は力強い合唱でありお祈りでありました。何よりうれしく感謝でした。これから一年間のあなた方の心もちがあらわれていました。はるかに祈っています。アンカレッヂからハンブルクへの機上です。雪の山々がよく見えます。では！　Ｔ．ＫＯＩＫＥ

【発信１９６１年４月３０日／小池順子様（武蔵野市吉祥寺）／小池辰雄（ハンブルク・ウェリングスビュッテル・ヴァルディング通り　パウルス方）】

羽田でのみんなの見送りがまだ目の前にちらつく。飛行機の18番のＣ（中側）の席だったが、窓のところへ来てみんなを見たけれども、ライトの関係でわからなかった。翼のつけねのところで非常口のあるところだった。きいていたようにテューリストのせまい。荷物は２５キロだったが大目にみてくれた。交通公社の井出君におかげ様で荷物もパスしたことを自宅へ電話して礼を言って下さい。お礼のものは送ったね。

すさまじい勢いでのぼっていった様だが、飛行機の中ではそれほどにも感じなかった。たちまち３７０００という高高度に達したが、別に何ともない。きいていたように快適であった。狭いことだけが遺憾だけれども。月明かりの空、１２時頃にお夜食、ながめるだけ。歌子にたべさせたい様なビフテキもそのまま！　眠る如くさめる如くしているに４、５時間、ブラインドをかけて機内は暗くされていた。明け方の５時（日本時間）に太陽はずっとたかく、アラスカは１０時頃、上空から雪の針葉樹林、あんがい寒くない。朝食ものこす。１時間後に機内の人となり、ハンブルクへのみちにつく。機内のとなりは銀座の白馬車の取締まりの人、ケンチク技師であった。気持のいい人たちで チョイチョイはなしをしながらゆく。本をよむ気はおきない。北極のわきをすぎ、グリーンランドの上空をゆく。サスより西よりを走るらしい。グリーンランドまだ全くホワイトランドである。左手に太陽、右手に満月というすばらしい空！　はるか下に雲海、やがて機体がさがってゆくのを感ずる。ドイツが近い。雲海をつき破っていると、眼下に海岸線がみえる。エルベ川も。ぐんぐんおりてゆく。やがてまた雲、霧。どうなるかと思っていたら、もう真下にドイツの赤い屋根と緑の林や芝生！　絵の様に美しい。日本の家屋と大分ケタがちがう。どんどんおりて実に手にとる様に見えて来た。その印象ははじめてだけに深い。自動車も人も見えてくる。やがて低空、面白い様にうつってゆく。と車輪が地面に接触。着陸だな！　となりの白馬車さんが「先生、おめでとうございます。ハンブルクですね」と挨拶。これでまず第一歩！　飛行場のバスにのって、旅券ケンサ場まで。トランクをうけとって、そこに出迎えに来ていたロッテ・パウルス夫人、レナーテ嬢、フォルカー（次男）の三人に迎えられて、アウト（くるま）で自宅まで。東京とちがって人かげが少ないのでちょっと妙な気持。緑が本当に美しい。ちりほこりがないからだ。このアウトは望月君のような上等ではないが、道がいいので無難。並木路のカスターニエンや桜や林檎が花さいている。パウルスさんの家はあのスライドより更に美しい。私の書斎（この室）は二間半と三間のひろさ、ゆったりしたもの。しきもの類はすべておばさんの作ったもの。

安藤君のいった通り食べきれない。照雄たちなら大丈夫、ハムもでっかい一きれだ。野菜は東京の方がはるかに豊かである。コーヒーはおいしいが、紅茶はまあまあ。

この室の前はひろい芝生。今、娘さんがモーター芝かり機で刈っている（４月３０日午前１１時）。林檎が２本満開でとても美しい。白に淡い紅がまじっている。左手におばあさんの家。感じのいい、人のよいおばあさんだ。パウルス夫人も親切にしてくれる。

（４月３０日、日付はおなじです）。日曜の朝はみんな一緒に朝食をたべた。聖書にサインをしてもらった。Frieda Stein（フリーダ・シュタイン）、Lotte Paulus（ロッテ・パウルス）、Tim（ティム）君、Renate（レナーテ）嬢、Volker（フォルカー）君、Rudiger （リュデイガー）君。三人の男の子の性格もほぼつかめた。末っ子はやはり末っ子らしい。みんなしかし、それぞれ家のことも手伝っている。ロッテ夫人は戦後すぐ夫をなくなしてから独力でよくやって来た。夫は園庭技師であたった由。

昨日からロッテさんとは一番よく語ったが、私がドイツへ来たことがなくてよくそんなに語れるといってほめられた。やっぱりしかし来てみると、言葉がいかに不自由であるかも内心は感ぜざるを得ない。彼らがはや口でベラベラ言っているのはどうもわからない。それがわかるには半年はかかるだろう。日本語も本よむときと会話とちがうように。彼らの会話では、言葉の発音が適当にながされている。それで、よめばわかる言葉も語れるとわからぬというわけだ。

洗面場の湯と水のきりかえは、マッチなしでうまく出来ている。将来はうちの洗面場もお勝手もあの様な機械がほしい。バスは未だとらない。大きな湯船である。うちのとほぼ同じくらいかな。以上が大体の様子。ベッドは心地よい。ハイツング（暖房）があるので、昨晩はあつくてねまきをぬいだ。

さて、あわてて来たので、もってくるべきものを大分忘れた。何さますべては辞典がたたった。そのうち思いついたものを書くから、送ってもらいたい。本のこと（身のまわりのものも、もう少し考えた方がよかった。がそちらではケントーがつかないふしもあったわけ）。どのみち、あれ以上は量的に無理だった。すでに超過していたのだから。まあよかったというよりしかたがない。

◎君に杉並区天沼の丹羽紀子さんのドイツ語の家庭教師をたのんでおいたから、連絡する様に。地図をこっちへもって来てしまった。電話できいてたずねてくれるように。これは幕屋のほかの青年にはわからぬ様に上田君に伝えた方がよい。ゴタゴタしたくないから。

◎文部省総務班の増子事務官に旅券で、欧州諸国を廻れる様にとりはからってくれたことを電話で感謝して下さい。そして私宅をきいて５、６００円、１０００円までのもののお礼をしておいて下さい（日本の切手と切符を封入）。

◎福生さんの家庭教師のことをきまりをつけずに来てしまったので、

第１候補、渋谷区代々木西原町の鶴田久雄方、藤崎正敏（福岡市出身、将来大学教授志望）。

第２候補、千代田区神田三崎町の松本豊彦（将来貿易商か教授志望）。

第３候補、吉祥寺の荒井邦寿（将来貿易商志望、父、武蔵高校校長）。

◎望月からの５０００円の切手、白水社の１万数千円の為替、共にタンスの上の左の小さな引き出しにあり。忘れぬ様に現金にしなさい。

◎上田君にスピーリの校正をたのむこと。原本は書斎の真ん中の本棚の上段にあり。

４月３０日朝（今朝）は小鳥で目がさめた。１０時には（日曜）教会のカネがなるのがかすかにきこえた。朝は一番はやく目がさめた。１０時にねたから８時間は眠った。全く別荘にきている気持。郊外でよかったと思っている。昨日、ハガキや切手を買いに夫人が自動車でつれてくれた。勿論、彼女はいろいろ買物をした。日曜は買物ができないからである。日本もこうなるといいと思う。（ジェット機の音がしている）。

忘れた本は次の如し（思いつくまま）。

◎小英和辞典（研究社か岩波のもの但しひょっとしたら船便の中に入れたものもあるかも知れない）。

○ドイツ語の小聖書（これはこちらで買う）。

○内村鑑三『余はいかにしてキリスト者にありしか』（岩波文庫版）とその独訳の本。

◎親鸞の『歎異抄』の独和対訳の本。

◎朝日ジャーナルを朝日ジャーナル編集部川口信行君にすぐ航空便で送ってくれる様にたのんで下さい毎回。朝日新聞東京本社。学校ではなく、このパウルスさんのところへ。これは私のあてなをもって信雄がぢかに行ってたのんでもらいたい。料金は送料とも一部１００円位になるかと思う。

◎山本有三著『真実一路』の独訳と、日本語文庫版。この二つはそろえておいたからわかると思う。信雄にみてもらって下さい。

◎藤井武『羔の婚姻』の選集版、岩岡書店から出したもの。

◎藤村の散文『千曲川のほとり』か何かうすいのを一冊。

◎内村鑑三の『一日一生』の文庫版。（以上を一括して小包で。宛名にProf.〔教授〕をおとさぬ様に。DRUCKSACH 印刷物という文字を必ず入れるように）

あだちサンの住所をおしえて下さい。

サワは帰って来たですか、解雇はすみましたか。

◎集会の皆さんにこの手紙のうちのさしつかいないようをしらせて下さい。よまなくてもいいから。よんでもいい。適宜に。とてもあたらめて書けないから。

○市川先生から２０マルクのお餞別をいただいたからよろしく感謝申し上げて下さい。

○パウルス家の皆さんは親切である。お世辞はドイツ人は言わないが、私がキリスト者ときいておどろきました。昨夜、一席やりましたよ。

【発信１９６１年５月５日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク・ウェリングスビュッテル）】

今日は５月５日（今は午前１１時）そちらの午後４時頃。どうもずれがピンと来ないです。パウルスおばさん（５６才）１９０５年生が今、順子の手紙をもって来てくれました。昨日は、私のこの書斎の左前に見える家にひとり住まいしている。この夫人のお母さん８３才の誕生日で３マルクのプレゼント（お菓子）をしましたら、よろこんでいました。到着のときは紺色、桜の花のテーブルセンター贈りました。順子と同様、社会問題、政治問題に興味のあるファイトのあるおバアさんです。しかも、人柄はいかにもニコニコしていて気持がいい人です。リンゴの樹は相変わらず花咲き、鳥うたいで全くいい気分です。ドイツは芝生が多いです。清子が鼻を高くするでしょう。ゴミは全くたたぬといっていいですから、ワイシャツは汗をかかぬかぎりよごれません。ドイツの女の歩くことの速いのにあきれます。僕は日本で速い方ですが、こちらの若い女性にしばしばまけるほどです。５月１日に末っ子のリュデイガー君と市内へ行ったときも（照雄と同じくらい）、スタコラ歩くので汗をかきました。家の人々とはなかよくやっています。その点、安藤君とはちょっと調子がちがう様に彼らは感じているようです。夕食はむしろ彼らと一緒に食べることが多いです。大いに談笑しています。昨晩なども、私がメンチボールの如きものにジャガイモにかけて笑われたら、そのうちに何かのひょうしに、娘さんが同じまちがいをして大笑い、「プロフェッサーに　影響された！」などといって。みんなは私のことを「ヘル・プロフェソール！」とよんで決して名前はよびません。これがドイツの礼儀なのでしょう。子供たちは大体ネクタイを食事のときもつけています。こちらはスポーツウェアーで失敬。すべてあまり気をつかわず、ノンキにやっていますから御安心下さい。そろそろ太って来つつあるかも知れません。何さま分量が多いので、いつものこします。安藤君が言った様にトアレットの音がちょっと聞こえるのと、ドアをドイツ人はガタンガタンと力強くしめるのがちょっと困ります。朝７時頃（少しまえから）子供たちの登校の頃、その音で眠りは破られます。もっともその前に小鳥のうたで。スティームは５月から入りません。夜はちょっと冷えますが大丈夫。

さて、お手紙の内容に対してお応えしておきましょう。船荷のこと御苦労様です。得男君か信雄が（或いは順子が）横浜まで行ってくれるわけですね。こちらの子供たちはよくお母さんをたすけていますが、そちらでもお父さんが不在のときは自明的にそうなると信じていますが。手紙類も衣類の中にさしはさんでおいて下さい。勿論、ドイツから返事は書きませんが。こちらでは順子へのたよりのほかは余り書けません。コストが生活費をおびやかしますから。なるべく本を買う方に重点をおきますから。たよりは航空でなければ、マガヌケて書くわけにもゆきませんから。二神さんには、日本人の生活の一端を英文でタイプしたノートをもらいましたが、役に立つと思っています。よろしく言って下さい。日本を立つ前にハガキで感謝状を書いたはずでしたが。辞典の原稿はこちらですでに続行しています。充分時間があります。日本で買わなかったドイツ語の聖書（便利な註のついたもの）、辞典の作製のための本、地図も買いました。安藤君がインキやちりがみや封筒、シーツ、石鹸等をのこしておいてくれて役にたっています。

白水社の為替は順子のいつも入れている（私の下着類タンスの）上の小さな左側の引き出しの中にたしかに入れたはずです。よく見て下さい。電話の料金のは同じ引き出しか、茶の間の整理箱かどちらかで私の室ではなかったはずです。

いずれ兄上にはおたよりしますが、今までに知ったこと、おついでのおりお伝え下さい。くれぐれも兄、姉によろしく。学校は昨日、主任のベンル、次のヴェンク両教授とあいました。気持よく語りました。ドイツ語の会話もあんがい楽で、自分で不思議に思うくらいです。パウルスさんたちも初めてドイツに来て、よくそんなにしゃべれると言ってくれていますから御安心。

信雄君、書斎にうつったらしく、大いにおちついて勉強をつづけて下さい。私の本も大体分類してありますが、貴君のつかいよいようにしてこの一年はつかって下さい。哲学の本もかなりあるはずです。こちらでドラマを見にゆくのはもう少しおちついてから。ブレヒトの参考書のこと、買っておきましょうから、贈られたときスラスラとよめるように内的準備をととのえておいて下さい。たのもしいことです。ドイツ語の勉強のためには私の書斎にはありあまるほどの文法書も読本もその他もありますから、充分御活用のほどを！

こちらの大学の研究室の日本語及び日本文学の文献のそろっているにおどろきました。こちらの研究室の椅子に坐っていると俄然、日本文学の勉強をしたくなりました。楽しい一年です。

照雄君。白水社の原稿料の為替は封筒から出して、むき出しで前記のところに入れてあるはず。よくひっくりかえしてさがして下さい。みつかったら一割かね……。白水社からスピリの原稿がきたら、先便でお母様に書いたと思うが、上田君に連絡して校正してもらう様に。上田君のはじめの原稿のノートはお座敷の（集会の室）つくりつけの棚の上段右手にあるはずです。上田君自身にさがしてもらって結構。貴君のこの一年の入試への御健闘を祈ります。楽しく勉強して下さい。こちらでは、子供たちは彼らに必要とするもののほかはテレビを見ません。そういうところはドイツ人は実に自覚がハッキリしています。

○朝日ジャーナルはとにかく送ってもらいます。そのうちにまたくわしいことは。

○宗教方面の講義は秋から。いずれまた。それらの本のことは。

◎授業は月、木、金の午後ときまりましたが、初級と中級の会話が主です。上級的なのはどうも一人くらいらしく、それが私と一人対一人で劇の翻訳をしたいらしいです。

○昨日は市の中心でアタカの会社の人、石山さんと井出さんをたずねました。市川先生からいただいたなにがしをマルクにかえてもらいました。本が買えます。

○教授たちのためとその一人の学生のために或いはもう一日出かけるようになるかも知れません。しかし、一時間の出勤は何でもありません。運動になっていいでしょう。

○バス（湯〔フロ〕）は水曜ごとに一回入ることにしました。こちらの子供たちは土曜日に入ります。フロばかりは全く東京がこいしくなりますが、こちらにいるとそれほど入りたくもなくなるわけです。

○昨日はまた池上君の甥にもあいました。いろいろ市内を教えてもらいました。今日はこれから総領事へゆきます。こちらの寄留届は一昨日すみました。パウルスさんにつれていってもらって。とにかく５月６日までがはじめの一週間、大体のケントーがつきました。

○万事好調ですから御安心下さい。

○おばあちゃんによろしく。

○近藤君には絵葉書類を５月２日にとどけました。ただし彼はドレスデンへ行っていて不在でした。あのオバサンによろしくおつたえ下さい。

歌子チャン。市川の野間君好調のよし、うれしい。どうかよろしく。充分大切にするように。そのうちにこちらのエハガキを書きます。たのしみにして下さい。もう一年のガンバリだね。どうか貴女も無理をしないように。ねーやがいないから、お母さんを助けてあげて下さい。お母さんのわきにねるね。こっちの娘さんも貴女にちょっと似ている。ドイツの娘さんだって、それは日本にちょっと見られない美人がいるさ……。見とれておちるドブもないから御安心！

ではこの辺で。はるかに皆さんのため祈っています。

【発信１９６１年５月９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク・ウェリングスビュッテル）】

渡欧だより

**１９６１年４月２８日（金）**。朝から出発準備。書籍小包（５キログラム以内）３個をつくって小暮得男君に出してもらう。出発準備の不備はすべてドイツ語固有名詞辞典作製のために生じた結果。辞典はハンブルクで続行の予定。望月君が自家用のくるまで羽田まで送ってくれる。自分と順子と歌子と照雄同乗。信雄は学校から電車とバスで。清子は得男君とアウトで。空港には荻窪の龍二兄上が旅すがたで見送って下さる。その他、山本保、隆、宏夫妻の親戚のほかは殆ど武蔵野幕屋の兄弟姉妹。市川房枝先生のお見送りには恐縮、貴重なおせんべつを賜る。「神はやぐら」のルッターの讃美歌合唱をもって見送られたことは何よりの力であった。ハレルヤである。最後的なサヨナラ！をして午後１０時、エア・フランスの機上の人となる。その前、徐君が手荷物をもって助けてくれたのは忘れられない。翼のつけねのところの18番Ｃの座席におさまる。窓から見送人のさんばし（陸橋）をみたがライトの関係でわからない。しかしみんなの見送りを感謝しながら、その方向を見ていた。１０時半、爆音すさまじく動きだす。さらばみなさん、サヨナラ、日本よサラバ！という気持が胸の中にうめいていた。機体が滑走路までくるといよいよ本式のスタートである。ぐんぐん上昇するのが感ぜられた。多分機体のあかりが見えなくなるまでみんなは見送ってくれたであろう。やがて３万７千フィートの高高度であることを知らされる。機内は動揺きわめて少なく楽である。１２時頃、夜食がでるが、ながめるばかり。食べられはしない。歌子にたべさせたいビフテキもそのまま。やがてブラインドがかかって旅客は眠りにつくのであるが、眠るが如くうつつの如くである。日本時間で朝の５時頃、アンカレッジの時間で午前１０時頃アンカレッジに到着。機上から雪の山々や針葉樹林がよく見えた。飛行場は休憩所で朝食、これも半分しか食べられない。一時間休憩の後、ハンブルクへの路につく。

左手に太陽がキラキラと輝き、右手に満月が浮かんでいる。高高度、下には雲海、陽と月と、西洋と東洋との融合を黙示するが如き景観。しばし瞑目してわが旅の目的の成就を心に祈る。北極のやや西側を通ってグリーンランドの上空にさしかかる。グリーンランドはホワイトランドである。しばらくしてドイツ北岸にさしかかる。地図を見るように湾岸線とエルベ河らしいのが見えてくる。やがて雲にさえぎられる。機体はぐんぐん下降して雲海につき入り、更につき破って下へ出る。俄然、ドイツの森と赤い屋根と赤い煉瓦の美しいコントラストの景観が展開してくる。忘れられぬ印象である、ドイツへ来たその最初の実感は！　午前６時４５分！（日本時間と５時間の時差）全く予定通りにエア・フランスは見事に着陸した。機内で知り合った新田氏が「先生おめでとうございます。ドイツにつきましたね」と言って祝福してくれた。この人はパリへ更にのりつづけた。天皇誕生日にドイツへついたのである。

飛行場にはパウルス夫人が次男フォルカー君と一人娘のレナーテ嬢を伴れて迎いに来てくれた。直ちに自家用車でパウルス家まで直行してくれた。安藤君にスライドで見せてもらった通りの環境。自分の室に案内されて、思ったより広くきれいなのでうれしく思った。机の前の庭は芝生、そこに２本のリンゴの樹が今正に満開、小鳥はさえずり、まるでおとぎの国へでもたどりついた感じであった。ロッテ夫人、ティム君、フォルカー君、レナーテ嬢、リュデイガー君という一家であるが、朝食を共にした。午前は夫人と駅の近所へ。郵便局でハガキを買う。午後は次男と５月の定期を買う。２０マルクである。ウェリングスビュッテルから大学のゼミナールのあるダムトーアまでの定期。

**１９６１年４月３０日（日）**。北方に向かってシュタイン夫人（パウルス夫人の母）、パウルス夫人、ティム君、フォルカー君（運転）とドライブ。小犬Ｅ、親戚の獣医ルッペルツ氏のところで注射をしてもらう目的で。ドイツの田舎の風景を満喫。いわゆるハイデ（エーリカの生ずる曠原）もみな日本と同じようなわらぶきの家もあった。勿論、すべてレンガづくりである。それでなければ寒気に耐えられない。獣医お奥さんは一生懸命で畠をたがやかしていた。素朴な光景である。家の中に入ってみると家具は日本の中流くらいである。バターやチーズがよくしみているおいしいクッキーである。ついた翌日にこんなドライブを味わうとは思わなかった。

**１９６１年５月１日（月）**祭日。４月の間代１２０マルクをはらう。パウルス夫人注文のキモノ４０９０円は４５マルクに計算した。さしひき７５マルクはらったことになる。お昼ごろレナーテとリュデイガーと三人でクロケットをして遊ぶ。芝生の上での家庭遊戯である。午後はリュデイガー君に案内されて、Ｓバーン（中央線の如き電車）で市内へゆく。ダムトールと中央ステイション（ハウプト・パーンホーフ）の付近の目ぬきの場所を一通り見てまわったが、東西はわからない。祭日で店はしまっている。有名なエルブ・トンネルに降りてみた。自動車も人間も一緒に降りる大きなエレベーターがある。アルスター湖を水蒸気船で縦断、湖上には帆船（ヨット）をうかべている連中が大分いたが、ハンブルクは空模様がつねに変わるので時雨にあうが、彼らは案外平気である。降りみ晴れみの空あいというわけだ。とにかく市の建築の重厚な味はちょっと日本にない。いかにもドイツ的である。アメリカ的とは味がちがう。stattliche Stattシュタットリヘ・シュタット（堂々たる市）としゃれてみたら、大いに笑って「そうだ」とよろこんでいた。汽車はどうみてもしかしヤボで２０世紀のはじめごろの外観だ。電車も大したことはない。ただ座席のとり方はいい。もっとも東京のようにこんだのでは、このドイツ的では間にあわない。喫煙車と禁煙車と、いずれも一等、二等にわかれている。公衆道徳はしっかりまもられている。おもしろいのは、船でも電車でも切符を買って降りるとき見せも渡しもしないことである。東京だったら、どういうことになるか。第一切符に駅名が書いてない。第何番目の駅までと書いてあるだけである。

家の中でも電車の中でもドアの開閉をえらくガタンピシャンとやるのはちょっと野暮に思われる。意志的なドイツ人はハッキリ音がしないと気がすまぬかも知れぬ。

**１９６１年５月２日（火）**。電話を大学やブルンさんにかけたがらちがあかない。留守居の人もいないのか。ロックして出たらかからないのがあたりまえというわけなのだろう。

**１９６１年５月３日（水）**。駅のそばまで散歩。駅までの片道は約２０分。本屋やＰＯＳＴや雑貨店やにたちよって一時間あまりとなる。辞典の仕事にかかる。

**１９６１年５月４日（木）**。１０時頃、DAMMTORのAlsterglacis３番地の日本学ゼミナールをたずねる。ベンル教授にもヴェンク教授にも心よくはなしをした。ヴェンク氏たちあいのもとに時間割がきまる。学生は十数名というところ。月、木、金の午後２時からである。

シュタインおばあさんの８３才の誕生日なので、３マルクのプレゼント（菓子）を買って帰る。夕食をみんなでたのしく。テレビもみる。

**１９６１年５月５日（金）**。順子から、家のみんなからの手紙。日本からの第一信、さすがにうれしいものである。清子の筆がみえないのがやはりちょっとさびしい。順子へと安藤君へ書いて投函。日本総領事たずねるべく市内へゆく。道をまごついた。電車にのれば方向は反対、大分まわりみちをしてやっとたどりついたが、２時間近くかかった。順子にわらわれるわけだ。日本婦人にあったので助かった。中川総領事は不在、高松氏と福田氏にあう。日本人会員の幹事に自明的になるのだそうだ。ドイツ語の教授というわけだからであろう。やれやれ。

書きおとしたが、４日には池上二良君にあって、市内をすこし案内してもらった。それより前にアタカ産業で石山氏と井出氏にあった。石山氏にドルをマルクにかえてもらった。大いにたすかる。

**１９６１年５月６日（土）**。午前は辞典のこと。午後は土曜なので来客もあり、みんなで例のクロケットあそび。夕食はパウルスのお母さんシュタインおばあさんのところで御馳走になる。このおばあさんの居間はなかなか立派である。日本でいったら上級である。暖房もよくできている。何といっても生活程度が高い。土足であがってくるのだが、靴がよごれていない。このへんが日本と道路がこんな田舎でもちがうというわけだ。来客とはパウルスさんの兄夫婦と親戚の誰かと女ともだち。私の家族の写真を見せたら、こんなに大きな子供たちがいるのかと大笑い。よほど私は若くか、子供に見えたのか。清子のウェディングドレス（和洋両方とも）えらくほめて、きれいだと言っていた。お母さんは日本人みたいでないと、歌子は可愛いと。やっぱり写真は女だけが問題になるらしい。

**１９６１年５月７日（日）**。フォルカー君とその恋人と一緒に車で、有名な墓地公園にゆく。多摩とどっちが広いか、多分こちらの方がさらに広そうだ。池あり、丘あり、森ありというようにあたりにひろがっている。ハンブルク大空襲の犠牲者の墓がある。宗教改革時代から生えている大きなかしの木があった。恋人たちの楽しみの邪魔にもなってすまないとも思った。夜はテレビでモーツァルトのオペラをみる。ウィーンからの中継である。

**１９６１年５月８日（月）**。はじめての授業。初学者数名、女子学生２名。「今日は」「アイウエオ」である。こんなことをドイツへ来て教えるとは夢おもわなかった。日本語の勉強のしなおし。日曜日にももって来た日本文法の勉強をした。たのしく出来そうである。学生の気分はよろしい。相当冗談もまぜてドイツ語でしゃべった。さっそく聖書もでてきた。私がキリスト者であることを第一時間目から彼らは感じたと思われる。夜はテレビでこちらの「ヨセ」の一席をみた。みんなわらうが、なかなかそれがわからない。これがわかったらドイツ語は卒義だろう。しかし、言葉のしゃれが、ところどころわかった。何さま言葉は不自由なものだ。いつになったらドイツ語がペラペラ言えるか、そののぞみはまずない。日本語ですらあやしい。所詮、書物の人間かな。兄上に手紙を書く。

**１９６１年５月９日（火）**。菊池さんに手紙を書く。東京でついに挨拶ができなかった（二度たずねたが不在であったので）お詫びと、こちら着任の挨拶。その他連絡のこと。午前はじめて入浴。今日から「世界」という新聞購読。

＊

上田豊日君の新住所を教えて下さい。丹羽さんの授業ははじまりましたか。ドイツ語を彼が教えるように。スピーリの上田君の校正ははじまりましたか。

佐藤得二著『仏教の日本的展開』普通便でおくって下さい。５キロまでのをまとめて。秋から日本思想史をやりますから。

岩波文庫、内村鑑三『一日一生』おくって下さい。独訳したいので。航空便で。

箱をつくってこれらの手紙は「日記書簡」または「書簡日記」として保存しておいて下さい。

この欄はよみにくいね。今度から中味だけ書いて、ここはあまりかかないことにしよう。

くすりは？　船荷は未だですか。どんな本を入れておいたでしょう。日本思想史、仏教関係の本、藤井先生の『聖書より見たる日本』『羔の婚姻』、キリスト新聞も荷の中に入れて下さい。5000grの普通便にて。

【発信１９６１年５月１３日／小池順子様、武さしの幕屋御一同様／小池辰雄（ハンブルク）】

東京武さしのの一角の集会のことは決して忘れません！　去る５月１０日にこちらの大学総長 Thielicke 博士に大学でお目にかかりました。巨人的です。しかし決して偉そうな格好はしません。とけた人です。こういうのが本当のクリスト者でしょう。Barthさんのちょうど７５年の誕生日でもありました。こちらの die Welt という新聞をとってよんでいますが、それに大きくでていました。そのバルトさんも「自分は神様のことを云々して書いているが、天使たちは „Dogmatik“ の中に神がつかみとれるものかと笑うだろう」といった冗談で本当のことを言う余裕のある神学者で、これをよんで気もちのいい人だと思いました。Brunner さんもそうです。いよいよパリサイ的な信仰はいやになります。こちらの教会 Lutherkirche をさっそくティリッケさんが紹介して下さったので行ってみました。訪ねたのは１１日の昇天祭でした。音楽的な面は何といってもドイツです。しかし礼拝の仕方は何といっても武さしの幕屋はいいですから、皆さんガンバッテ下さい。こちらの牧師さんのはなしなかなかよかったですが、まぁそれ以上はやめましょう。来る月曜１５日の晩、その教会の青年諸君の集まりで私は一席はなしをすることになりました。いずれおしらせします。５月２１日のペンテコステはるかに祈っています。お元気で！

私の学校は左上の絵の左のはずれの方にありますが見えてはいません。市はこのエハガキの通りです。集会所にはっておいて下さい。〔註：絵葉書にはハンブルク市の景色の写真が４枚載っている〕

【発信１９６１年５月１４日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

渡欧日記

**１９６１年５月１０日（水）**。午前、授業はないが学校へ来てくれというので本部へでかける。大学正門の建物のひたいとでもいいたいところに、Der Foschung, der Lehre, der Bildungと書いてある。「研究のため、教授のため、教養のために」というモットーで、大学の使命を簡単にあらわした言である。何の用かと思ったら、俸給の一部を受けとるためであった。署名をして簡単にもらった。キュスター夫人という事務の人は親切にも私がちょっとティーリッケ総長のことをはなしたら、会いたいかというから、会いたいといったらさっそく案内してくれて、総長室でおあいした。年齢は私より２、３若い人だと思うが、なかなか巨人である。忙しいなかだから、あまりお邪魔をしてはわるいと思って、数分ですませたが、いかにも気持のやわらかな好人物である。

こういうのが本当のクリスチャン。人間は決して偉そうにかまえるものではない。ウェリングスビュッテルの教会を紹介してくれると言われた。奥さんが今病気でおまねきできないがといわれたので、なおられてから是非おうかがいしたいといってわかれた。

辞典のための参考書としてBertelman : Volkslexikonを買う。ブロックハウスのかけたるをおぎなうためである。辞典の仕事を夜つづける。夕食のとき、Ｔ博士のつかいで学生がたずねて来て、明日の「キリストの昇天」礼拝と日曜の礼拝の案内および日曜の夕、青年会で私に一席はなしをしてくれとのことである。Ｔ博士の誠実さに感激した。

**１９６１年５月１１日（木）**。キリスト昇天祭。ペンテコステの１０日前に当たる日。はじめてこの祭日をドイツの教会で迎える。Lutterkirche zu Wellingelhuttelという教会である。讃美歌も教会専用のものが沢山おいてある。ついてみたら早すぎて誰もいない。正面には十字架、その左にキリストがマリヤに抱かれている像、右にはキリストの復活の像がステンドグラスに描かれている。ルッター教会といってもカトリックとそういうところは変わりなさそうである。右に説教壇が高くつきでている。讃美歌があらかじめ示されてある。時間がくるすこし前に、後の二階のコワイヤの席から音楽（パイプオルガン）が鳴り出す。合唱隊がうたう。やがて自明的のように会衆一同の歌がはじまったり、牧師のお経のような祈りがあったり、讃美歌があったり、すべてがおぜんだてができているように流れゆく。牧師の説教はカンネンでなく、その点はうれしく思った。使徒信教を一同でとなえたり、主の祈りをとなえたり、立ったり坐ったりする。ひとまねをしていた。やはり教会である。幕屋の特質も自覚される。祈りはやはり幕屋の如くでなければならない。はなしは決して負けない。月曜の夕、はなしをする約束をして帰る。

**１９６１年５月１２日（金）**。上級のクラスの授業はじめて。日本語で生い立ちの記（私の）の幼年時代を２時間にわたって語る。日本語で語り、ドイツ語で説明、文字も内容も文法的なことも。つい時間をすぎてしまった。相手は３人！（コレハ御他言禁ズ！）　みっちりした授業ができる。次回は学生に語らせることになる。田崎君に和歌３０首を「茨城歌人」の原稿としておくる。

**１９６１年５月１３日（土）**。別になし。辞典と和歌を更に１０首まとめる。

要件

○内村鑑三『一日一生』（岩波版）既有のもの。みつからなかったら買って下さい（１００円）。待晨堂にあり。

○藤井武『聖書より見たる日本』同上。みつからなかったら、「藤井武選集」の中にあります、この論文をふくんだものが。

○佐藤得二著『仏教の日本的展開』水色した本。カリとじ式ですが、ちょっと重い。

○Griechische Grammatik zum Neuen Testament〔新約聖書のギリシア語文法〕という題だったと思いますが、新約聖書のギリシア語の文法書(本文ドイツ語)、茶色の表皮、菊版と四六版の中間位の大きさのもの、これは書斎にあるはず。

○ギリシア語(英語がギリシア語本文の下にかいてある)聖書、これも書斎の私の机の前の本立てに(小さな本)。

○『余はいかにしてキリスト者となりしか』“Wie ich ein Christ werde”の独訳（書斎）表紙がとれそうになっている茶色の本。『代表的日本人』（独訳）木村先生の本です。

○「朝日ジャーナル」は先便の如く頼んでくれましたか。これからずっと続けてとるかは考えています。空輸ではお金がかかりすぎると思うので、月に一回に多分するでしょう。

○以上のもののうち私がこちらへくる前日に小包三つつくった中に入っているものもあるかと思う、というのが困ったことで、小包の内容をひかえておかなかったのが失敗。ですからどうしてもなければ、私が小包の中に入れたということになるでしょう。何でも手帳にひかえておくことだと思います。

○船荷トランクは井出氏がJAPAN EXPRESSにかけあってくれるはずですが。それがうまくゆかなければ、山本保さんに話せばやってくれる人がありましたから、おたのみして下さい。

○船荷トランクの中のものを一応書いてしらせて下さい。本の名もすべて。

日本文学のものはこちらの研究室にそろっているのでまず必要はないです。

○高橋三郎君が書いてくれたドイツでたずねたい人々の名前と住所の紙。

○関西(大阪)のエイゴン・ヘッセルさんの住所(それにヘッセルさんがこちらであうように紹介してくれた牧師の宛名が書いてある)。出発の前に私から福音をきいて喜んだ絵の先生(御席にいた人)の住所姓名を教えて下さい。右の二つは机の引き出しか、「名刺」とレッテルのはってある南窓の前の箱だなの中に（書斎の)。どうもせわしかったのでいろいろミスがあります。すべては辞典がタタリましたので、こちらではせいぜいつとめてはやく仕上げます。

○その後の手紙類は一括して船荷の何かの中に入れておいてよろしい。

○辻理君が何でもこちらにお金が何百マルクかのこっていて、使っても、といってくれたことがあるので、別便でといあわせてあります。もしそれが手に入ったら、それと相当の円価を辻君にはらって下さい。多分２万円にならないくらいだったと思います。念のため辻君の住所は電話帳にもあると思うが、港区麻布広尾町、麻布コーポラスという長たらしいもの。もしわかったら一寸電話をかけてきいてみてくれてもいい。

○井出さんへのこと、青木事務官へのこと、お手数でした。福本の本はＲＧＧ〔エルゲイゲイ〕という宗教方面の辞典の分冊のつづき。そのほかは何もたのんでありません。６月に２冊くらいくるかも知れません。書斎にその第２分冊がのこしてあるはず。それが１０冊くらいまとまると合本になるわけで、多分来年の始ごろ全部完了するでしょう。皆で１万円くらいになります。得男君が本郷の研究室にでもゆくときとったり、支払ったりしてもらえば幸。

○関西の岡本時助氏から、私の論文「メフィストフェレス」ののっている「ゲーテ年鑑」をおくって来たかしら。それの抜き刷りを送って来たら、一部航送して下さい。DRUCKSACHE〔印刷物〕と赤い字で包装のおもてに書くことを忘れないように！

◎そちらからの第二信は５月１３日に拝見。今日は１４日「母の日」。みんなのたより有難う。楽しく暮らして下さい。

○集会の調子はどうかね。第一回は誰が話したかね。集会の誰からもまだ便りがない。勿論、便りをくれることはうれしいがお返事はまとめてみんなに書くより仕方がなかろう。

○たよりは金がかかっても船便では二ヶ月で何としても間がぬけて、たよりにならないから皆航空便でします。そちらも勿論そうして下さい。

○石原の妙子は結婚がすんだわけ、１３日に。今ごろは新婚旅行だろう。

○こちらの銀婚式のカードがあったから、記念に買っておいた。金婚式のも買って帰るよ。くらすにことかかない。御安心下さい。

○今日は（５月第二日曜）母の日でそちらもそうだったかしら。宿のおばさんに花をおくったら（鉢うえ）よろこんでられた。午後からアウトにのせてくれて、外の子供と一緒に、清子がちょっと書いてくれた公園に花をみに行った。チューリップが実に目もあやに咲いていた。日本にはなかろう。その他いろいろな花が季節ごとくに咲くとのこと。孔雀もその他、池に水鳥も魚もいる。「水のほとりのレストラン」と清子がいったのはこれのこと。

ハンブルクは公園が二つに大きな多摩よりひろい墓地（これも公園みたい）があるし、湖があるし、店もなかなかすばらしい。ことに肉類ときたら、やはり日本はかなわない。歌子がうらやましがるだろう。

○今日は午前は教会、別な牧師がはなしをした。無教会よりカンネンでない。よほど我々に近い。みなおしてよい。それで教会には毎週行くつもり。あすは一席やる。たのしみである。驚かしてやるつもり。

○ロンドンのあだちさんの住所氏名を教えて下さい。

◎アキレスケンがまたいたくなったりしていけませんね。充分大切にして下さい。力仕事は信雄と照雄ができるだけやるように！　まかせなさい。さわサンはあれっきりかね。さっさととりに帰ったらよさそうなものだがどうしたかね。

◎家のこと無理のようだったら、別な人物のたしかなものを入れることは賛成します。おそらくおばあちゃんがいるから、あのおばさんがいない限り無理だろう。

○何かこれはあった方がよかろうと思う小さなものでも本でも適宜大トランクに入れてくれたら有難い。

○市川先生にはお礼を書きました。

【発信１９６１年５月１５日絵葉書／小池順子様及び武蔵野幕屋の諸兄姉／小池辰雄（ハンブルク）】

このハガキがペンテコステの２１日までにとどく様に祈ります。５月１５日（月）午後の授業――カタカナで五十音をおしえて単語や簡単な会話をおしえて終わり――が終わって市を一寸散歩しました。こちらの百貨店は東京のにはかないません。しかしなかなか気がきいたものや珍しいものはあります。アイスクリームをたべたところがこれはどうも東京の方がうまいです。

さて夕方６時半から教会にお約束の如く行って青年グループの聖書会に加わりました。讃美歌をうたったり、２、３の報告のあとでさっそく私に話をしてくれとのことでした。そこで私は無教会のはなしをして次第に展開、ついに「無的実存」に突入、白熱して来ました。みんな目をみはってきいていました。われながら無原稿でかなりよくしゃべれるので意をつよくしました。３０分以上語って重要なことは語り終わりました。牧師さんも同感らしく握手をしました。是非これからも来てくれとのこと。日曜はおろか木曜の聖書会にも、この次はルカ伝１５章の研究の由。６月１日はルカ１８・１～８を牧師さんの代わりに私にやってくれとのこと。えらいことになりました。

牧師さんが二人いますが、両者とも信仰の筋はよいです。決してカンネンでもありません。しかし、私たちの志している、またおかれている方向と質がいかに正しく且つ重要であるかを感じたのは、論より証拠、私が話せば彼らはやはり何かうたれているようですから。青年といっても女性の方が多いですが、大分うれしかったとみえて、みんな私に握手をもとめて来て、私も異郷に来て信仰のこういう兄弟姉妹を得てうれしくあります。

いずれ写真をうつしてお送りしましょう。こちらにいる限り、この教会に来て下さいとのこと。これからも身証！　祈りを深めてやります。ハレルヤ。

○教会の壁を破りて投げかくる真理は異郷の友らをうてり。

○福音の愛のいのちを身証するめぐみにまさりてたのしきはなし。

○うれしさに言あまりて握手するドイツの子らをしきとぞ思う。

◎ペンテコステ、いよいよ元気で不退転のキリストの愛の幕屋として御展開を祈ります。

【発信１９６１年５月１９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

在独日記

**１９６１年５月１４日（日）**。母の日、世界的な日。午前、ルッター教会。祈り方や讃美歌のうたい方は聖公会、カトリックとあまりかわらない。牧師の説教は観念ではない。その点だけはいいが、本当のみたまによる迫力には乏しい。午後はパウルス夫人運転でレナーテと長男のティム君と四人で“Planten um Blumen”（低地ドイツ語）「木と花」公園にゆく。入場料６０プェニヒ、実にチューリップが見事だった。色とりどりで、その他いろいろな花が咲き、冬のほかはいつも花があるので、この間清子が書いて来たところだと思った。「水の中」ではなく「水」（池）のほとりのレストランがあった。一角の建物に日本の人形の陳列あり、民謡をレコードにかけ、郷愁をそそる。地になき母上をおもい黙祷、ひそかに。

**１９６１年５月１５日（月）**。初学級を教える。五十音終わり、簡単な会話。女子学生半数に近し。何の目的で日本語をやるのかそのうちにきくつもり。

夜にルッター教会で青年会、女子が過半数、どこでも女性の方が教会は多いらしい。無原稿で日本のキリスト教、無教会及び武蔵野幕屋のはなしをする。３０分あまり、まだまだはなしたかったが切り上げた。大分うたれたとみえてよろこんだ。６月１日には私に牧師の不在中、担当してくれとたのまれた。感銘をうけたとみえて心からみんな握手をしてわかれた。ドイツ語のなま演説のかわきりとして自分にとっては歴史的な出来事であった。幕屋のみんなに伝えてもらいたい。幕屋の集会は今日が二回目、もうなんとか長坂、杉本、荒井の三君から報告があってよさそうなものだ。少々のんきな御連中である。君たちの信仰と忠実な御健闘は充分信じているが。祈りの信仰が質的には実に大切なものをもっていることを自覚していよいよ深く進んでもらいたい。

**１９６１年５月１６日（火）**。夜、パウルス夫人とレナーテ嬢と三人でハンブルク大学神学部主催のバッハの音楽をききにゆく。大した講堂だ。大きい上に構造が素晴らしい。音響効果もよい。ヴァイオリーネ・コンツェルト、なかなかすばらしい若手の弾手だ。いい管弦楽団である。それにニコライ教会（ルッター派）聖歌隊の合唱、イザヤ書41・10、43・1の素晴らしい聖句で、慰めと励ましを得る。実にめぐまれた夕であった。清子や歌子にきかせたいと思った。信雄も照雄も聖書をまじめによまないと何をしても本当の展開ができないから、よく言っておくよ。人間が神を、畏るべきものを畏れなくなったらお終いだということは断じて忘れてはならない。君たちがそうだなどというのではない。とにかく、日本の近代の偉大なたましい内村先生のものはよんでおくこと。書斎にあり。夏休みになってからでよいから。君たちが偉大なたましいをもって何でもやってくれるように。

**１９６１年５月１７日（水）**。午前入浴。大分こちらの風呂にもなれ、要領よくなる。洗濯もみなやってしまう。

**１９６１年５月１８日（木）。**学校で、「極楽は東にあらず西になし、北（来た）道さがせみんな身（南）にあり」を教えてやる。カトリックの坊さんも感心していた。５月１８日の晩、教会でルカ伝１５章のはなし。分析的である。私のとは大分おもむきがちがう。６月１日には大いに日本的にやってやるつもり。

＊

１９６１年５月１６日東京の消印のおたより５月１９日午後、町の散歩から帰って来て拝見。日本のなかでの日数とあまり変わらないくらい早くつきます。ところがドイツからのはどうも１週間近くかかっているらしく、そこらがドイツ人のヤボなところさ。ハンザ（ルフトハンザ）で南まわりでもやっているのでないかと思いますよ。日航やサスなら北マワリではやいのに。私はすでに吉祥寺には手紙を３通、これが４通目。エハガキ少なくとも３通出していますが、まだ届かないとはどうしたことか。所々方々へ皆“LUFT”〔航空便〕で出しているので、小使銭が心配にならぬこともない。本と航空便のほかは殆どつかわない。洗濯も自分でやり、コーヒー店などには入らず、今日はドイツ人なみにWURST〔ソーセージ〕を百貨店の中の屋台でたべてみました。なかなかうまいね。彼らは道をあるきながらでもよく何か食べているのに出会う。野蛮人みたいなところがある。ハンブルクの目ぬきの通り（相当の範囲をもっています）の店はさすがに格がちがいます。ゾリンゲンの専門店をみつけたので安全カミソリを買ってみた。ガッチリしたものです。本屋も宗教書専門をみつけたので大いにうれしくさっそく買いました。あの写真機は（望月からもらったもの）、レンズはいいけれども何さま急いでとろうなどしたらダメだね。信雄君の御注意はよくわかった。そのように努力しています。いずれ手頃なのを買いたいと思っています。カメラ屋で日本人のいる店と親しくなったので。もっと便利なのでないと無駄が多くて結局バカらしいことがわかりましたから、手元のフィルムが終わるまでそれをつかって。この手紙は丁度お母さんが旅行から帰るころつくでしょう。５月２５日にまにあうようにきれいなエハガキを送りましょう。まあせいぜいLUFTでこうやっておはなしをみんなと一年間つづけることにしよう。必ず毎週一回は書きます。２５日に手しろぎ君たちも見える由。どうぞよろしく！　羽田のお見送りを感謝しますと手しろぎ君に言って下さい。おたよりも有難うと。若い人たちはやっぱり一度ヨーロッパに来てみた方がいいから、せいぜい勉強して下さい。私みたいにいい年をとらぬうちに出かけるように。パリのルーブルは夏の楽しみにしています。フランス語がダメなので後悔先にたたずです。英、独、仏はとにかく親しんでおくこと。信雄君もいよいよ語学に本腰となったらしく結構です。文法をしっかり見につければ、あとは大丈夫！　私の書斎にいたらそうならざるを得ぬ気分をあおられるでしょう。

ドイツは何といってもすべてが整然としている。町もそうだし、自然そのものも見事に区画されているようだ。今は新緑したたるとは文字通り、ブナ、欅の林、白樺などがみごとです。いろいろ写真をとって送りたいけれど、航空であまり金がかかるのではと方法を考慮中。学校は初学者と上級生とあわせて２０名たらず。駒場で教えるより楽だね。何しろ日本語ですから。今日（１９日）から２４日まで聖霊降臨節で休み。教会にはでかけて牧師さんのはなしというものを参考にきいています。

＊

○武蔵野幕屋の連中から何にもたよりがないがどうしたことかと思っています。誰れかれとなく書いてもらいたいと思っています。みんなにそう伝えて下さい。学生諸君にもよろしく伝えて下さい。２８日は遠足のよし、結構なことです。みんなたのしくやって下さい。くれぐれもよろしく。アテナの書き方をみんなに教えて下さい。Herrn Prof.とWest Germanyをおとさぬように。

○白水社のスピーリはどうなっていますか。まだでしたらちょっと電話できいてみて下さい。そして校正は上田君に。上田君によろしく言って下さい。上田君にたのんだ丹羽さんのドイツ語はどうなりましたか。

○福生さんの東大生はきまりましたか。家庭教師に三人候補をあげましたね。

◎船荷のこと有難う。やっと安心しました。しかし私の手紙がおそくつき、なかみにどんな本が入っていたかわからないですか。しかし大体こちらのケントーはついて来ましたから船荷のつくのを待つことにします。５月の俸給をもらったが、１００マルク以上税金でひかれていました。

○朝日ジャーナルは送ってほしいです。

○度々書きますが、内村鑑三の『一日一生』、藤井武の『聖書より見たる日本』、佐藤得二の『仏教の日本的展開』、内村鑑三の『余はいかにしてキリスト者となりしか』の独文のもの。もしわからなかったら、「岩波」の日本文のもの、書斎にあるはずです。わからなければ買って下さい。

◎ロンドンのあだちサンの住所を教えて下さい。

○野間君、岸さんによろしく、おたより有難うと。

○北の旅はどうでしたか。留守居だけは困りますね。

◎パウルス夫人、着物とてもよろこび、時折着たりしています。ダテマキも気にいってしめています。よろしくいっていました。スカーフも娘さんと二人にやりました。これも時折かぶっています。手さげ袋もよろこんでいました。

○６月１日には、教会の青年たちにはなしをします。こんどは原稿をつくってみっちりやるつもりです。

○２１日（日）の晩は「ファウスト」第一部を見に行きます。一番大きな劇場です。その他、レッシングやシェイクスピアものやワグナーの歌劇などもやっています。

○この間は大学の大講堂（ケタチガイに大きいです）満員でバッハのヴァイオリン・コンチェルトをききました。とりとめなく書きました。ではまた。

【発信１９６１年５月２２日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルクより）】

人生５０年。かつて「曠愛文庫」誌上で自分が５０才になったときに書いたことをおもい出します。

〔註：「曠愛文庫」No.3（1954年2月）の武蔵野だより「人生五十年」。小池辰雄著作集第６巻『随想集』/第三部「母の生涯」/四「人生五十年」に転載〕

貴女（おまえ）の５０才の日を迎えんとして。このエハガキがその頃つくように！　はるかに心から「おめでとう！」をおくります。にぎやかに子供たち及び親しい人々と迎えて下さい。その日にはハンブルクの街なかで何か記念になるものを買っておきたく思っています。またそれに因んで私の勉強に大切な本も買うつもり。昨日のペンテコステ（こちらでは専ら「プフィングステン」といっています）はどうでしたか。幕屋からのおたよりを待っています。順子は旅行中ですね、今（２２日）も。昨日はこちらで午前ペンテコステ集会、聖餐もあったが私はそれにあずからなかった。ただどんなにするかをみていました。午後は領事館の福田君がたずねて来て北方クリュックシュタット（エルベ河畔にあり）までドライブしてくれて快適！　１７世紀の教会を見た。そこで買ったのがこのエハガキです。すばらしい内部でした。夜はハンブルクの「ドイツ劇場」でＧＲÜＮＤＧＥＮＳ演出のファウスト第一部を見た。„ＦＡＵＳＴ“ は専門だからよくわかった。なかなかよかったです。

なくの峠迎へたるいもがこの日をここにおぼゆる

まめやかにはげみて迎へしこの峠くつろぎやすめよ子らとみて

聖手により更に旅せん相助け幕屋張りつつ神の山まで

「主が汝を祝福し汝を護りたもうように！」（申命記6･24）

２５．ＭＡＩ　１９６１　お誕生日を心からお祝いします。

【発信１９６１年５月２７日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

順子！　東北の旅行はどうでしたか。中村さんも御一緒だったらしくたのしい旅でしたでしょう。中村さんがまだ居られたらよろしく！　今日はフォトをお送りします。お待ちかねの。しかしみんな送るとコストがかかるので、えらんでおくります。あとはアルバムにしてもって帰ります。たよりは皆ＬＵＦＴでないと気がぬけるので、空輸しますが。そちらの様子やいろいろな連絡を一週間に一度くらい書いて下さい。少なくも月に二回は。

金の余裕ができたら、ピントと光度がすぐわかる写真機を買いたいと思っています。望月君にもらったような機械はもうないとこちらの写真屋がいっていました。私のほしいと思うのは３００マルクします。３００マルクは丁度こちらの一ヶ月の生活費です。それに小使を２００マルクつかえば５００マルク月の俸給が７８０マルク（手取り）ですから、２５０マルクはのこるとみてよいですから、写真機はもう少したったら買えそうです。５月はいろいろ必要な本や雑品を買ったので少しかかりましたが、６月からはそんなに要らないでしょう。

夏の旅行には１５００マルクくらいかかるでしょう、イタリーまでゆくとすれば。スイスまでにしてイタリーは帰るときよってゆくようにした方がいいとも思います。それで南独、オースタリー、スイス、フランス、ロンドン、（オランダ、ベルギー）を夏の旅行にしたいと思います。多分１０００マルクでまにあうでしょう。これはアタカさんに多少借りて、あとで返せるでしょう。アタカさんで借りたのを東京で兄さんにたてかえていただいて、私が帰京してからお返しするようにするのが簡単なら、そうしていただきたいとも思います。こちらでなければ買えないものや、行きたいところへは行っておきたいですから。いずれアタカさんをまたたずねてみましょう。アタカさんに市川先生からのおせんべつ２０ドルは替えてもらって役に立ちました。本を買いました。市川先生によろしく申し上げて下さい。お礼は勿論はじめに書きましたが（私自身が）。

幕屋の連中から何とも言ってこないのでノンキな人たちと思っています。集会はちゃんとやっていますね。とうとう夢の中で、解散！　を宣言したりしましたよ。私の住所、姓名の書き方をちゃんと教えてやって下さい。いずれ幕屋あてにもう一度書きますが。同封のフォト、兄さんたち、得男君たち、幕屋の皆さんにみせてあげて下さい。ヒキノバシをするとコストがかかりますから密着でお送りします。こちらは何でもやはり売値が高いです。ペンテコステの午前の集会が終わって、北方へドライブをして（領事館の福田君という若い事務官がさそいに来てくれて）、夜はファウストを見ました。えらく充実した日でした。あとは大して変わったこともありません。至極快調です。２９日には朝はやくから体格検査を受けにゆきます。字引の仕事もやっています。そちらの経済は大丈夫ですね。困ったら兄さんだけれども、なるべくまにあわせてゆく様に。からだを大切に。無理をせぬ様に。出発間際に友愛に本を売ってバカをみました。友愛があしもとをみた感あり。もう彼には売らない。一モンも借りはありませんから御安心！　白水社はどうなっていますか。ではまた！　Ｕ〔歌子〕、Ｎ〔信雄〕、Ｔ〔照雄〕によろしく！

【発信１９６１年５月２２日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

人生５０年。かつて「曠愛文庫」誌上で自分が５０才になったときに書いたことをおもい出します。の５０才の日を迎えんとして。このエハガキがその頃つくように！　はるかに心から「おめでとう！」をおくります。にぎやかに子供たち及び親しい人々と迎えて下さい。その日にはハンブルクの街なかで何か記念になるものを買っておきたく思っています。またそれに因んで私の勉強に大切な本も買うつもり。昨日のペンテコステ（こちらでは専ら「プフィングステン」といっています）はどうでしたか。幕屋からのおたよりを待っています。順子は旅行中ですね、今（２２日）も。昨日はこちらで午前ペンテコステ集会、聖餐もあったが私はそれにあずからなかった。ただどんなにするかをみていました。午後は領事館の福田君がたずねて来て北方グリュックシュタット（エルベ河畔にあり）までドライブしてくれて快適！１７世紀の教会を見た。そこで買ったのがこのエハガキです。すばらしい内部でした。夜はハンブルクの「ドイツ劇場」でＧＲÜＮＤＧＥＮＳ演出のファウスト第一部を見た。„ＦＡＵＳＴ“ は専門だからよくわかった。なかなかよかったです。

恙なく五十路の峠迎へたるいもがこの日をここにおぼゆる

まめやかにはげみて迎へしこの峠くつろぎやすめよ子らと睦みて

聖手により更に旅せん相助け幕屋張りつつ神の山まで

「主が汝を祝福し汝を護りたもうように！」（申命記6･24）

２５．ＭＡＩ　１９６１　お誕生日を心からお祝いします。

【発信１９６１年５月２７日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

在独日記

**１９６１年５月１９日（金）**。午前、５月の俸給をとりにゆく（毎月１５日の午前の由）。税金をひかれて９００マルクが手取り７８０マルク（これは他の人には言わぬ様に、子供たちにも口どめ！）いろいろ見当をつけて月々あましてゆけることは確実。夏の旅もあるから倹約はするつもり。ドイツはボーナスがない由。やっぱり理詰めにできている国だ。そういう味わいはともしいようだ。上級生の授業休み。ふところがあたたかく、ペンテコステ休暇に入る。のんびりした気持でまちへでる。歩きまわっているうちに宗教関係と文学関係の専門店をみつけた。うれしかった。ユングフェルンシュテークという目抜き街にある。聖書関係のものを３、４冊買う。いい教会史もあった。たちまち５０ドル飛んだ。仕方がない。必要な本であるから。

夜はテレビで「第三帝国」の終幕をみる。ナチスドイツの真相がでてきて気持よくない。ドイツ人はどんな気持でみているのか。スターリン、チャーチル、ルーズヴェルト、ヒットラー、ゲッベルス、ゲーリング、ヒムラーなどの顔があらわれる。強制収容所、それからアウシュヴィッツとこれをみているアイゼンハワーのにがい顔、何といってもユダヤ人迫害は人道の敵！　ヒットラーはおわりは気狂も同様になった。天の法則は厳としてある。

**１９６１年５月２０日（土）**。終日、室に居たが、必ず一度は外出して外気にふれ散歩をする。辞典の仕事と昨日の本をよみはじめる。

**１９６１年５月２１日（日）**。１９６１年の聖霊降臨節。早朝祈る。特に武蔵野幕屋のために。８時間のずれがあるから、私の祈ったころは午後の集会に入るころかも知れない。

教会へゆく。ＨＯＢＥＲＧ牧師のはなし。ヨハネ伝１４章「平和」「平安」を強調していた。聖餐式がつづいてある。みんなパンのかけらとブドウ酒を杯から、両方とも手をつかわないで牧師から口へただちにうける。私一人うけないで終わった。うけてもいいと思ったが、何だか気もすすまなかった。洗礼も聖餐も形をみたす心があれば、具体的なあらわれとして結構だが、やはり我々はどこまでも霊的に受けていこう。ただそれがカンネンであってはならない。そこに幕屋の特色が生かされてゆかねばならぬ。

武蔵野のペンテコステは恵まれたものと信ずる。主、彼らを導き、よき前進をなさせたまえ。本年は共にし得ないのを残念に思うが、出日本の私も更に深められて帰国するであろう。然ずんば帰るわけにゆかない。

午後、丁度昼食をとろうとしていたら、総領事館の福田善彦君がたずねて来て、ドライブをしてくれるとのこと。それで一つの食事を共にして、のりこむ。まず市へ出てガソリンをつぎこみ、ＨＵＳＵＭ方面への街道を北へひた走り、場所によっては１００キロを越えたスピードを出した。郊外ではスピードは無制限のよし。放牧の草原がつづく。また堤の連続しているところへも出る。そこに風車をはじめて見て、車をとめてカメラをとる。やがてＧＬＵＣＫＳＴＡＤＴという市に出る。そこの教会堂は１７世紀に建てられたもの。なかはロココ式の飾りつけ、カトリックのように聖画が沢山ある。めずらしい寺院で印象が深かった。そのまちはずれのエルベ河畔に出る。渡し船といってもアウトをそのまま載せてくるから大きなものである。夕方の７時頃、ハウプトバーンホーフにつく。自動車をおりて、Ｆ君にわかれ、自分は予定のファウスト第一部の劇をDeutshes Schauspielhausでみる。有名なグリュンドゲンス演出のもの。メフィストをやったハウプトというのがうまかった。グレートヘェンもよかった。ただ全体が現代監督でなされているので、むしろ自分としてはやはり古典ものは古典のあじを出したらどうかとも思う。それはドイツ人にしてみれば見飽きているからできないのだろう。夜１２時近くに帰宅。

**１９６１年５月２２日（月）**。Pfingstmontagというわけで教会へ１０時に。ライヒムート牧師のはなし。無教会より信仰が生までよい。難破せんとした舟の水夫のいのりのはなしを率直に語っていた。学校は休み。

**１９６１年５月２３日（火）**。安藤君から手紙がくる。はじめから、私が好調らしくて敬服するなどと書いてあった。しかし、住宅難であるから、この様にいったのはＡ君のおかげと感謝している。日本から案外たよりがない。小文字の宛名を書くのが面倒なのか。辞典の仕事。パウルスさんに５月分として３０４マルクはらう。４マルクは入浴４回。

**１９６１年５月２４日（水）**。２９日に体格検査をするから、まちのどこそこへ来るようにとの通知。ドイツはなかなか形式がかたい。日本で外人講師をこんなあつかいはしないだろう。ふとんカバー、シーツ、枕おおいを買う。約５０マルク。げんろくもようのキレイなもの、今晩から。

**１９６１年５月２５日（木）**。順子の満５０才の誕生日、はるかにおめでとう！　よくここまでガンバッテもらった。感謝をする。なおこれからも福音の真理のあかしのため共に進んでもらいたい。それぞれのなすべきことをしながら。

午前入浴。午後、初学級学生と授業。「私の一日」と題して日常生活をやさしく教える。授業のあとで門のところで写真をとる。順子の日にいい記念写真ができるだろう。まちでチョコレートをかって、夜パウルスさんのみんなとたべる。和歌百首できる。

**１９６１年５月２６日（金）**。上級生とは喜劇の日本語のホンヤクをはじめる。「自伝」は林町時代のはなし。大分調子がでて来た。アルバムを買ってフォトをはってみる。家にも６枚おくる。

**１９６１年５月２７日（土）**。駅のそばの本屋で手ごろな「ドイツ文学史」を買う。字引きがわりに。字典をかく。酒枝君へたよりする。お子さんのけがはすっかりなおったかしら。いつ酒枝君はドイツへ来るか電話できいてごらん。よろしくいって下さい。

**１９６１年５月２８日（日）**。教会へゆく。ライヒムートさんのはなしはよい。もう一押しの気はするが。壇上から６月１日には東京から来た小池教授の聖書講義があると会衆に紹介した。みんな一寸おどろいていたようだ。しっかりやるつもり。

今日は出発一ヶ月目！　あの日は昨日の様に思い出される。みんなの顔も。羽田の見送りのいろいろな場面も。これで在独１２分の１がすんだとは。

東京のことがときには気になる。火事の夢をみた。自分もいてとうとう半焼きで消した。どうか火だけは充分用心して下さい。一同によく言っておくように。

＊

○この間中から２、３回書いた本は送ってくれましたか。もしなかったら、私がでがけに送ったかも知れないので（得男君にたのんで送ったもの）、内村先生と藤井先生と佐藤得二さんの本のこと。

○今朝、体格検査を終わりました。尿や、心臓や、血圧やレントゲンや内臓診察（聴診器）や、肺活量や血のたちや、で切られたりさされたり、おされたり、なかなかゲンミツなものでヤレヤレ。私はイの一番にいって、一番はやくやって来ました。なかには親切な医者もいました。

○集会の連中からたよりがないがどうしたものか。そのうちにみんなにすこし文句のたよりを書くつもり。

○何か欲しいものがあったら言いなさい。買っておくから。ハンドバックでもおしろい入れでも。ではおゲンキデネ。

歌子チャン、野間君は好調かね。くれぐれも無理をしないように。もうすぐ６月になる。東京はそろそろ梅雨期だが、こちらは日によっては未だうすらざむい。ハンブルクの市も少しづつ見当がついて来ました。何が欲しいかね。今からそろそろ心がけておこうと思う。冬は寒いから、そう出歩くわけにゆかぬと思うから。お母さんにあの絵の先生の名前と住所をしらせて下さいといってあるが、つたえておいて下さい。ドイツの小学生の絵がほしいといっていたが。その送料は私が立て替えておくより仕方なかろう。ドイツ人はガッチリしているからね。

信雄君、ドイツ語は多少、文章がよめるようになりましたか。文法をしっかりのみこんでやらぬと実力がつかないよ。ドイツ語は文法さえしっかりのみこめばあとは単語をひけばわかる。何か然るべき本をみつけたら送ってあげる。劇のものを。哲学もちゃんとやらねばだめだよ。ギリシア劇もよむことだね。やはり古典はおろそかにしては根ができませんから。小宮君などもギリシアをちゃんとよんでいる。

照雄君、高校最後の学生生活を有意義に。人間形成と学問とをいつも並行してゆくことだね。日本の青年の受験難は本当にマイナスだ。しかしマイナスを克服して下さい。この夏くらい何科へゆくかきめるんだね。では、みんなお元気で。

【発信１９６１年５月３１日／小池順子様、幕屋の皆様／小池辰雄（ハンブルク）】

幕屋の皆様、５月も今日で去ります。こちらへ来て一ヶ月たちました。あんまりたよりがないのでどうしたかなあと思っていましたら、最近、北村さんからと高森君から幕屋の報告があり、Ａ、Ｎ、Ｓ、三君の名講義にもさながらはべって承る心地して拝読しました。いよいよお元気で武蔵野のらしくやって居られること何より心強く存じました。ペンテコステも６月４日に延期、おちついたものですね。ドイツではそんな自由は、自由の使徒ルターの国でもできません。そこらが何といっても我らのよさで天上の主のみわかって下さるでしょう。律法を破って律法をみたした主ですから！　大体ドイツ人のよさとヤボさとがわかって来ています。何といっても私は旅人で枕するところなかりし主のみ心もいくぶんわかります。いいことばかりではありませんが、いやなことにであってもパウロと共に一切の秘訣をつかませられつつありますから御安心！　この信仰でどんな現実にも負けてたまるかですから御安心！　武さしのの信仰は世界的水準ですから、みんな一年間戦い抜いて下さい。相たすけ、助けはげまし、仲良く勇ましく！　おばあチャン方もお元気ですね。ではあと１１カ月！　６月４日のペンテコステ心一杯に！　ハレルヤ。

そのうちにまた和歌を送ります。すでに百首を越えました。みなさんのおたよりを待っています。

【発信１９６１年５月３１日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

おたより有難う。東北方面への旅、大変たのしかった様子、何よりでした。私の日記のたよりも次々にうけとっていると思います。今日で５月もすぎてゆきます。まる１ヶ月を暮らしたわけです。大体なれて来ましたし、する仕事の計画も立て、それをしあげてゆくのが楽しみでもあり、読む本もあり、たいくつすることはありません。航空便で本をおくってくれる由、コストがかかってすみません。

白水社のスピーリのことが書いてないですが、どうしたことかと心配しています。一度電話をしてみて下さい。白水社の篠田さんか、藤原君に。（マンナカは幕屋へ。マンナカを切って誰かによんでもらってよいです）。

さて、４月の俸給として６００マルクをもらったのであるが、これは実は安藤君のものとも私のものともわからぬもの。安藤君がもらってよいものであるし（しかし彼は一度２月でひきあげたので棄権の形、しかし私のおもてむきの俸給は５月から）、私の名義にはなっているというもの。それで安藤君からの連絡もあり、安藤君は半々にしようといって来ていますが、私は来年の４月はもらって帰るつもりですから１ヶ月分ひとの分をもらうのはいやだが、６００マルクをこちらで使えば、夏の旅費の助けになるので、６００マルクそのままこちらで使います。それで順子が１ヶ月１万円ずつ３回、３万円（３００マルク）安藤君に送って下さい。どういう方法でもよろしい。月給からさしひくのがつらかったら兄さんから借りてもいいです。貯金があったらそのなかからでも。あとの３万円は私が帰京してから適宜払います。私はやはり金のことはきれいにしたいので、１文ももらいたくないです。そのことは安藤君にも書いたから、とにかく、あなたから３万円（３回に）あげて下さい。６月、７月、８月と払って下さい。こちらはとにかく６００マルクたすかりました。安藤君も思いかけなかったといっているし、こっちも思い掛けなかったわけ。ただ６００という数をどう計算したのか知りません。

徐君はいつから中川さんへうつりますか。よろしく！　旅について徐君の気持も察します。旅人はねんごろにしてあげなさい。一度ハガキを書きたいと思っています。

【発信１９６１年６月１日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

最も愛する順子様、１９６１年６月１日、永遠の辰雄。

お誕生日のエハガキはとどきましたね。今日（６月１日）私がでかける日に荷造りして得男君に出してもらった荷造が三つとどきました。感謝です。これで私のこれからの講義及び秋のもかなりの部分たすかります。比較的はやくつきました。船荷はもう出帆にはなったのでしょうね。今日の小包の中に佐藤得二著『日本の仏教的展開』があったから安心して下さい。ただ内村鑑三『一日一生』（岩波版文庫）、『代表的日本人』（岩波文庫）及び独文、藤井武『聖書より見たる日本』『羔の婚姻』（選集第１巻）はほしいです。普通便で結構ですからまだでしたらすぐおねがいします。もう出してくれたと思いますが。

こちらへ来てもう１２分の１がすぎました。はやいものです。今日は夕方の８時から聖書の時間が教会であって１０時近くまで、例の調子でルカ伝１８章１～８の「寡婦」のたとえばなしのところをやりました。牧師さんに東独の人も来てきいていました。あとは赤星さんのようなおばあさん連中が１０人位と若い人たちとあわせて２０名たらずでしたが、やはり大分驚きうごかされたとみえて、中には涙をふいて握手する人もありました。牧師さんも私の手をいたいほど握って感謝してくれました。この宿のおばさんと二番目のフォルカー君も自動車で私を送りながら、聞き大分おどろいたらしくあります。フォルカー君は今まで私の室でいろいろ真剣にたずね、よろこんで今二階へ帰ってゆきました。もう１２時すぎです。今日のはなしはいずれドイツ語で書いて発表してもいいと思っています。来月は１８日にティリッケさんをたずねたいと思います。ドイツで出版を何かしてもらいたいと夏の仕事をたのしみにします。あちこちただ旅行するよりも仕事をして帰りたいと思っています。勿論、グンデルトさんとスイスのブルンナーさんは是非おたずねします。

昨日の手紙で書いた安藤君の住所は「東京都杉並区下高井戸」です。安藤君から私の返事に対して何といってくるかを私も待っています。それから私が順子に書くから、それからで結構です。あるいは安藤君から直接うちへ何とかいってくるかも知れませんが、もしそのときは一応安藤君のいうようにしておいてよろしいです。

教会の今日の私の演説の如き聖書のはなしのこと、武さしの幕屋の実力を示して、み名に栄光ありしことを幕屋に伝えて下さい。次にその後の和歌をすこし書きます。これも幕屋に集会のときよませて下さい。もう百首をこえましたが。

PHOTO５０枚ほどアルバムにはりました。夏ごろこのアルバムをお送りしたいと思っています。

ここの牧師さんはフライムートという人です。もう一人ホーベルクという人もいます。この人とはあまりあっていません。６月１５日に第二回の聖書講義ルカ18・9～14。

あだちさんの住所ありがとう。ロンドンへゆくときはあのふくろ（編んだ買物ぶくろ）をもってゆきます。大阪のエーゴン・ヘッセルさんの住所の書いた手紙が引き出しにあったら、教えて下さい。

【発信１９６１年６月２日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

〇ドイツ人は美人居らずと誰のいう。生き仏ならぬ生きヴェヌスおり。さぁ見たい人はお早くお出で下さい、なんて冗談です。私はただ時折電車の中にこんなのがいるから、一寸しゃれた歌をつくったまでで御心配は更に御無用であることは言わずもがな！

今日、６月２日はまるで東京の初夏をおもわせるようなバカ暖かさで、あせをかきました。女はさっそく半ソデになったりしていました。大体どこの国でも男の方がチャンと着ているようです。博之君からビールのことを書いて来ましたが、ビールは今日はじめてレストーランでのみました。やはり日本の方がうまいらしいです。しかし、こういうものについての土地の風土にマッチして味もできてくるようで、こちらではこれでいいのでしょう。毎日コーヒーはのんでいます。やはり南米から来ているようです。バナナはどういうものか日本よりずっとやすいという奇現象です。お母さんのお誕生を皆でサワギたのしくにぎやかにやって下さった由。ありがとう。それでいいです。こちらの日本学の教授の言うことには、「ドイツの学生はなまけものです。日本の学生はよく勉強しますね、お世辞ではありません」と。受験や試験のためで、あまり本すじの勉強とは言いがたいふしもありますと答えたら、「それもそうでしょうけれど、ドイツではもっと試験をしてやった方がためになると思います」とやはりひとの国のことはどっちからもよく見えるらしいものです。私は日本学の上級生と、喜劇を訳しはじめました。非常にためになるといって三人の学生がよろこんでいます。これを志願しているのは三人だけ（日本語への訳）。日本の学生だとプロフェッソールが来ても知らん顔していますが、こちらでは、ちゃんと道をあけたり、ドアをあけてくれたり、電車ののりおりなども決してさきに立ちません。実にそういう点は尊敬の念をもっています。少々耳がいたいですか。正直、今の日本の若い人々は一般にそういうゆかしさがほしいです。君たちは心得ていると思いますが。次の問題、国語の教授にたずねてみて下さい。信雄君！

〇ねずみと火事と何か関係があるか、俚諺にあるのか、何か江戸時代の言いつたえにあるのかわかりませんが。

〇建築の祝文の中で「いたる」「到る」といった言葉を用いてはならないというのはどういうわけか。たえば「人」偏をつければ「倒れる」となってしまうといった「」らしいのですが、どういう意味の「斎（忌）言葉」ですか。しらべてみたけれどもわからないので、こちらのドイツ人にまだ私の宿題になっているわけです。わかったらしらせて下さい。

ドクトル小暮君、本のことお世話様でした。「仏教の日本的展開」は私がでがけにつくった荷物の中にあって、このほど届きましたから御安心下さい。おかげ様であの三個安着。あのようなあて名の書き方がよいわけでした。この間領事館のひとにのせてもらって北の方へドライブしましたが、快適でした。１２０キロまでフォルクスヴァーゲンで出しましたが何ということがないほど道がいいわけです。まだアウトバーンというやつの上を走ったことはありません。この道ではフォルクスではほかの新車に追いこされてしまうそうです。除君もはやく、西荻窪の中川さんへうつれるといいですね。外国に来てこうやってくらしていると除君の気持がよく察せられます。御同情を禁じ得ません。もうひとガンバリして下さい！　なかのいい連中とは時折気楽に遊んで下さい！　恩田君や手代木君も留守宅を時折にぎやかにして下さって感謝します。ときにはお留守番もお願いしましょうかね。博之君もどうぞ遠慮なく来て下さい。語学の熱をふきこんで下さい。私のかわりに！　照雄君も博之君には英語の質問があったら遠慮なくするといいです。着々文科系への準備結構です。だんだん目的をきめてゆく様に。心配しないでいいから、たのしく勇ましく勉強するように！　清子さんと歌子チャンはやっぱりお母さんをそれぞれらしく助けてあげて下さい。ヨーロッパの東と西のにらみあいはぶきみなものあり。人間はイデオロギー以上のものにおいて（HERZ）握手をしなければ世界はついに破滅！

得雄君、除君、恩田君、手代木君、博之君、清子！歌子！信雄！照雄！　天鐘より

【発信１９６１年６月８日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

**１９６１年５月２９日（月）**。学校ではじめてドンブラディ氏にあう。彼があまりとして入って来たものだから学生かと思って初学生かときいたら、ドン氏で大笑いの失策！　帰りに写真屋による道でアタカ会社の石山さんにひょっこりあう。コーヒーをのみながらいろいろ語った。

北村さんと高森君から幕屋の報告のたよりあり。やっとこれで幕屋が元気でやっていることを知って一安心。もちろん信じてはいたが、何さまたよりがないので。今朝は実は６時前に出かけて市の一角にある診療所で体格検査をうけた。イの一番にいったので比較的はやくすんだ。それでも１時間１５分かかった。耳の血をとったり、心臓を電気ではかったり、レントゲンをとったり、尿のケンサをしたり、なかなかもって御テイネイなありがためいわく。医者たちは親切ではあったが、プロフェソールというわけか何か知らないが。

**１９６１年５月３０日（火）**。終日雨、いんさんないやな日だった。

**１９６１年５月３１日（水）**。入浴。水曜の午前は入浴ときめてある。やく１時間、うちにいるときより長い。下着の洗濯もついでにやってしまう。すこしは要領がわかって来た。これで５月はすぎる！　１２分の１がすぎたわけ。これからははやいだろう。こちらでやることは、

○和歌や俳句や詩のベンキョー。

○聖書解説のドイツ語の発表。

○辞典の完成、７月一杯！

○ゲーテの註解の一部。

○日本思想史の日独文原稿（冬学期の講義内容）。

○「曠野の愛」の原稿。

○夏の旅行。

なかなかやはり多忙である。

**１９６１年６月１日（木）**。初級生の写真をとったりする。夜の８時からルカ伝18・1～8「寡婦の祈り」のたとえばなしを教会の聖書の時間でやる。２０名くらいの出席。パウルス夫人とフォルカー君もききに来た。自動車で送り迎えしながら。日本語の原稿の半分位をつまんで語った。牧師も大変よろこんでくれた。ある婦人は涙ながらに握手をして感謝していた。やはり我らの信仰がドイツ人を動かすのを知ってただ主のみたまに感謝！

**１９６１年６月２日（金）**。上級生のクルト・ゲッツの「インゲボルク」という喜劇の翻訳をはじめる。帰りに牧師さんのところへ長崎のみやげオランダ船のテーブルセンターをあげるつもりで行った。すこしはなしをした。秋からもしかしたら市内の方へうつりたいとも思っている。いろいろな意味で。しかしここに一年をつらぬこうとも思う。まだその頃にならぬとわからない。昨日のはなしの感謝とて２０マルクつつんでくれた。おもいもよらなかったのでうれしくあった。

**１９６１年６月３日（土）**。散歩にでかけていつもたちよる本屋でこの２０マルクから信雄と照雄と歌子チャンに本を買って本屋から送ってもらった。７月の１０日頃とどくだろう。夏のおたのしみに！

質問。「はんすけ」という隠語「あたま」を意味するというのだそうですが、どうして「あたま」なのか、一体「はんすけ」とは何かを信雄にしらべてもらって下さい。照雄の先生にでも、どちらでもよろしいから。こちらでは聞かれてわかりませんので。

私が出発のとき得男君に出してもらった小包３ケとどいた。うれしい。これで秋の講義の準備もある程度よろしい。また今教える教材も入っていてたすかる。三井物産の近藤君から電話があったので、でかけた。都心を歩きながら支那料理店に入ってワリカンで食べる。１０マルクとはおそれ入った。やっぱり本を買った方がいい。１２時に帰る。近藤君はまたすぐ東独へゆく。６月一杯帰らぬ由。

**１９６１年６月４日（日）**。武さしののペンテコステ！　ハレルヤ。

午前は教会、聖餐式というのにはじめて参加してみた。何でも経験しておくつもりで。

暑い日である。午後からパウルス夫人運転で、おばあさん、ティム君（長男）と四人で夫人の兄であるシュタイン建築技師の家をたずねる。大した家だ。さすがに建築家らしい仕事部屋である。とても好感のもてる人。それからエルベ河畔に出る。森の中のみちから河畔にでるのだが砂地でまるで夏休みの前味！といった気分。河畔にテントをはって子供は砂あそび。若いのは泳いだり遊んだり。まるで夏の海水浴の光景、おどろいた。急に夏が来たカッコー。忘れがたい日となった。エルベの大船もみた（いまに写真をおくます）。

**１９６１年６月５日（月）**。半世紀前には愛子が召天した日だ。父、母、兄、姉、妹と天国におくって地上は荻窪の兄さんと私だけ。世代はうつる！　この日ヘブライ語ドイツ語対訳聖書をみつけてうれしい。

**１９６１年６月６日（火）**。辞典と作歌と詩「五木の子守歌」の翻訳。

**１９６１年６月７日（水）**。午前入浴。雷雨来たる。涼しくなる。辞典と、１５日のルカ伝18・9～14「パリサイ人と取税人の祈りの譬話」の解説原稿を書く。一日中机に向かっていたのでパウルスさんが「鉄の如き勤勉！」だといった。ドイツ人には「鉄」は貴い金属、ドイツ人の性格をあらわしている。鉄婚式とはダイヤモンド以上で７０年の結婚記念日のことをいう。東京は暑いだろう。つゆの暑さはお察しする。

＊

○青木事務官のこと、それではお中元にでもあげて下さい。何か品物で２千円以下でいいから。

○もう一人は誰でしたか。それも手がるでよろしいから。

――親展――

○それからこれは心配をかけるから、だまっていようかと思ったけれど、やっぱり順子には話しておいた方がいいから、書くことにする。実はこのパウルスという夫人は、私ははじめからあまりいい感じのしない夫人であったが、やはり私の学校などへ外出中に私の室に入って、いろいろ私のもっているものを見ることがわかった。彼女のほかには考えられない。それは私の戸棚の中や、トランクやバックの中のものの配置がときどき変わっているのでわかり、且つ、金を銀貨だけ２０マルク入れておいた紙の袋が紛失していたこと。土産の一部がなくなっていること。そして、こんどは私がポケットに入れておいた、東京からもっていった鍵がなくなっている。現行犯でないからハッキリはいえないからダマッテいるが、これはもうたしかな事実です。それで、私はこの家に他人が二人いるからこのことをさわぐと、事、面倒になるからいわない。嫌疑を他人にかけるのはいけないから、それで私は夏休みを機会に、そして後学期はここは遠くていやだからといって出ることに腹をきめました。これからさがします。ウェリングスビュッテルのルッター教会のライヒムートという親しくなった牧師さんにだけこのことをはなしました。あなたもどうか心配しなくていいから、祈っていて下さい！　私は気を大きくもってこのあわれむべきやもめを見ているだけです。もう一ヶ月の辛抱と思っています。東京からの荷物が来たらそれは新しい宿の方へ運ぶようにします。それで大事なものは学校の引き出しに入れることにした。紙幣とかガマグチは身からはなさないことにした。合カギをもっているから鍵をかけても仕方がないわけです。

あいかぎが船荷に要るわけで、そちらのあいかぎを航空便で学校あてに送って下さい。小さな小包になるわけですね。小さな本のケイスかなにかに入れて。学校の宛名は、

HAMBURG ALSTERGLACIS 3 .JAPANISCHES SEMINAR UNIVERSITÄT HAMBURG HERRN PROF. T. KOIKE

です。うちに俚諺辞典の小さなのがあったと思うので、それと一緒に送って下さってもいいです。なかったら、Hebreu-english〔ヘブライ語－英語〕の小さなのとでも。

どうもとんだ面倒ですみません。一面、非常に憤慨していますが、今それを色に出してはならないので、おちついていますから、御安心下さい。こんな目にあうとは夢にも思いませんでした。しかし神様はよき道を考えていて下さると信じて前途を希望をもって待っています。

みんなによろしく。元気でたのしくくらして下さい。私はどんな目にあってもヘコたれませんから。御安心下さい。主のみたまはいよいよ強めて下さいます。ではまた。

【発信１９６１年６月９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

おたより２通（４日と５日の消印のもの）拝見しました。今日は６月９日です。とにかく一週間以内におたがいがよくはなしをするようにわかって楽しくあります。今朝の手紙で全くおどろいたでしょう。今日、学校でベンル教授がしきりに住居のことをたずねるので、しかも今のところをかわりたくないかと向こうからたずねるので不思議に思いました。私は今朝深く祈ってでかけました。鍵もありませんので、すべてはアケッパナしで。そうしたら、ベンルさんからそうたずねるので、やはり神様が深くとりなして下さるものと感謝しました。それでやむを得ずあの事情を語りました。勿論、これは他言厳禁というわけで。そしたらそこへドンブリヤス氏も入って来て（助手）、それでは私たちで極力さがしてあげましょうといってくれました。ミッション関係が安いから、それにまずあたってみるとのことでした。多分、否、きっと道が開かれると信じます。また、学生が今日は先生の読み方をロクオンしたいと言ったので、東京からもっていってひらいた教材がドロボウのことをとりあつかっている箇所だったので不思議でなりません。小学新国語（石森篇）５年上の57～66頁の「子之」という題の実話。博雅と用光のはなし。やはり昔には偉い人がいたと思いました。私ももう何をとられてもいい気持で今朝はでかけたのです。無的実存ですから。そしたら、同じ気持のもっと偉いのがいたとあたまがさがりました。帰ってみたら、何ともありませんでした。しかし、どの道、もっとまちの中で時間のかからぬところにすみ、もっと能率的に生活したいです。神様は人のあやまちをつかっても、信ずる者には最善をなさることをいろいろ経験して感謝です。

○本のこといろいろ得男君をわずらわせて感謝。彼と清子へもエハガキを書きました。

○夏の集会のこと及び武さしの幕屋のこと、杉本君から今日しらせあり。こじんまり箱根でやる由。木村氏との共同はことわるつもりと言って来ました。返事のエハガキを書いておきました。

○畠山さんは姉さんがとうとうどこかへ行ってしまったとのこと。その朝、電話がかかって来てはなしをしたのが最後、多分自殺ではないと思います。どこかへ行って新しく「第三の道」をゆくのであろうとの由。しかし涙の手紙をもらいました。おどろきました。それやこれやで集会にでられなかったが、６月からは一生懸命集会へゆく由書いてありました。来たらなぐさめやって下さい。

○上原さんかんらも今日手紙が来て、申し訳なかったこと、でも御安心下さい、先生のためみんなで祈っているとは言って来ました。

○お手紙により北村さんは相変わらずのところがあるとは思いますが、一枚上から見ていて下さい。何さまいろんなのがいますが、だんだん鍛えられてゆくでしょう。荒井君とは一番よく連絡をとって下さい。彼もまだ若いですが、わけはわかるし実行力はあると思いますから。長坂、杉本、気はいいんですが、お説の如く欠けています。長坂君はよほどしかしわかる人ですから、時折この三人とはお茶でものみながら総務の高森君あたりにものこってもらって話してみて下さい。どういうぬかりがあるかは、遠慮なく言ってやって下さい。彼らは気のつかない面もありますから。杉本君もいざとなると（この間の伊香保あたりではよくやった面もあります）、すわったところはありますから、それぞれの味をうまくつかって、おだててといってはわるいけれども、善意にうごかすことですね。まぁ私が帰ったら、なお統括してゆきますから、仲良くやっていて下さい。正直、彼らがこの一ヶ月の私への連絡の仕方は、順子のいうとおりなっていませんから。責任をもって一ヶ月に一度は集会の報告をしたり、将来の連絡時効をはなす（知らせる）ようにいって下さい。高森君ばかりにやらせては気の毒でてすから、ほかの青年諸君と交代にする様に。私の留守は順子が重要な顧問役になって参議官として発言して下さい。

○安藤君はあったとき例の６００マルクのことは言いませんでしたね。彼にはパウルス家での私のものの紛失の件は語っておきましたが、彼に「絶対内密」といっておきましたから、順子からその件は何も言わないでおいて下さい。

○山田さんはその後来ませんか。

○二神さんは、私に、教材に参考になる日本の一年の年中行事のことをかいた英文と、彼女自身がいろいろキリヌイテはってくれた絵などのあるものを出発のときくれましたので、なかなか感心な子です。こんどあったら、これは助かる教材だからよろこんでいる旨を感謝して下さい。家庭が冷たくてさびしい子ですから、あたたかくしてやって下さい。二神さんは祈りの経験のよい手紙をくれました。

○「俸給を三菱銀行におくる」とは、西荻でとれる様にとの意味ですか。この頃の手取りは７を越えていますか。

○税金は印税のためですかね。オヤオヤでしたね。

○こちらのホーキューは１５日にもらいます。さっさとパウルスにはらってしまうつもり６月の３００マルクを。

○ドイツの小学校のことは別なやどにおちついてからにします。しばらくおあずけ。

○国際婦人同盟総会へ田上さん、うまいことをしましたね。まぁ順子は一度でかけたから、あまりはやく二度ゆくわけにもいかんでしょう。まぁいいです。ドイツも大したことは正直ありません。帰国してゆっくり温泉旅行するのが最高だよ。

お手紙を下さるときには何日の手紙は見たと一寸内容の一端を書いておいて下さい。不備があるといけませんから。

○世界の状勢もだいぶおかしな風にも感ぜられます。ケネディとフルシチョフがもっと心と心で和解してくれるといいですが、イデオロギーというものはぶつかるのがおちですから。

○軍拡の道でまた大さわぎでしょう。人間というものは全くどうにもならぬ存在です。とくに男性というものは女性よりも罪が深いです。天界では女性が概して上でしょう。

○柿がなってうれしいです。大いに酒をのましてやって下さい。あまくなりますよ。新鮮なくだものがいいでしょう。順子も身体を大切に！　あの庭に初夏は梅、秋は柿、たのしいことです。芝は清子の手から。ドイツは全く芝が多くてきもちがいいです。

○一人が病気にかかるとすべてにマイナスがかかりますから。睡眠はみんなよくとるようにして下さい！　信雄も無理をしないように。時々しっかりねむる様に。彼もしょいすぎる方でしょうから、胸を用心。すこし心配しています。夜は１１時には全部消灯を守ること。１２時以後は厳禁。

○アタカの人と時折あって、新聞の空輸があるのでよませてもらったりしていますから、日本のこともアンガイわかります。

○本のこと有難う。『羔の婚姻』と『聖書より見たる日本』はほしいので得男君におねがいしましたが、「選集」が私の書斎の大書架の西よりの方に（中段くらい）あるはずですが。二重になっているので奥に入ってわからないかも知れません。順子もみて下さい。

○マコトさんに書きます。何さま多方面なので書ききれませんでした。

○山本宏君の住所教えて下さい。彼は約束の通りにしていますね。遊びに来たらヨロシク。山本へもこれから。

○「切手と切符の封入」ということは何のことか、何を自分が書いたのかケントーがつきません。

○石原誠子さんのアイツサ状きません。

○白水社へ電話してみて下さい。

○林さんのことおどろきましたね、全く気の毒です。

○徐君はそろそろ中川さんへ来ますか。

○三神君元気にやっていますか。例の女の子はどうですか、集会にいる人。

【発信１９６１年６月１０日？／小池順子様、歌子様、信雄君、照雄君／小池辰雄（ハンブルク）】

FRÄULEIN　U！〔歌子さんへ〕　お母さんの手紙のハヂにかいたおたより拝見。こちらもそろそろやどがえをしようと思っているのに、ひとりやどの世話はこまったね。でもマルイものさえあるなら大したことはない。こちらは、なるべく本や旅費のためにやすやどを求めているわけ。柿がなったそうでよかったね。芝生もドイツに負けずにキレイにして下さい。これはお姉さんのお手がらだよ。

HERR N！〔信雄君へ〕　御所感ごもっともです。だからどうしても次元を一つつきぬけなければ人間は始末がつかなくできています。その高次元の現実から、この低次元の現実に処することによって、それがどれほど現実には解決がつかなくても正しい方向へと社会と現実を動かすものとなるのです。貴君の演出もそのねらいのふくみをもって重厚なそして余韻をもったものをでかして下さい。（切手を見せるために１０プェニッヒ余計にはりました）

HERR T！〔照雄君へ〕　いよいよ方向が決まって嬉しい。目標が定まったらそれを目あてに楽しく力強く進めるね！　昔の高校受験の頃を思い出します。英語が大分進んだようで結構。対訳本でもいいから夏にはまとまったものをグングンよむんだね。実力がつくよ。

三人にちょっとした本を送りました。７月半ごろとどくでしょう。

どうだね、この湖は〔註：アルスター湖畔の写真３点が写っている絵葉書〕こればかりは見せてやりたいね。しかもチラホラ見えるヨットに一緒にのりたいものだね。ザンネン。まぁ帰国したらうめあわせをするから、おたのしみ。左の半円は屋外喫茶所〔註：アルスター・パピリオンの写真あり〕この湖の橋から３丁位のところに研究室がある。

夏には写真をとってくるよ！　写真も〇さんがかかってそうそうとれはしないね。写真屋もおなじみになったのでよくコーヒーをのませてくれる。でも私が日本人では一番。今に写真のネガを一括して送るつもり。アルバムを作りつつあり。みんなからだを無理しないように！

【発信１９６１年６月１２日葉書／小池歌子様／小池辰雄（ハンブルク）】

こちらのハガキの見本の意味でこれに書いてみました。面白みがないから、広告の一つをきりぬいてはってみました。これは愛嬌のある方でしょう。〔註：マフラーをかぶった金髪女性の顔写真の添付あり〕。こういう頭巾がほしければお母さんと清子と歌子チャンに買っておこうかな。

東京はそろそろつゆですか。こちらは暑いかと思えば、またひえびえする日もくるというわけで何といっても北国です。９時間の時差があるから何といっても遠方だね。こちらは暗くなるのが８時半、だからアベントがながいわけ。

集会のピアノは貴女がやっていてくれるのだね。よろしくおねがいします。若い人たちとは冗談でもとばしてまじわって下さい。お父さんは仕事をもっているから、まぁたいくつすることはないけれども、ものの感じ方がちがう異国人の中にいるとやはり時折ひとりだだなあと感ずることはあるね。それでこういう航空便であなた方とおはなしするのが楽しいというわけだね。もうあと一ヶ月半すれば、夏休みに入るから、旅をするのがたのしみだ。しかし、やっぱりお母さんや歌子チャンと一緒に旅をしたいと思うね。野間君元気になって来ましたか。しっかりなおるまで決して無理をしないようにいって下さい。教会の牧師さんが私のはなしを大分よろこんでくれて、今日も朝の集会の説教中に、プロフェサー・コイケがこういったといって私の言を引用してみんなを励ましていましたよ。１５日の夕方もルカ伝18・9～14のおはなしをしますが、原稿を書いてはなします。１０数枚かきました。いい勉強になります。ドイツ語の解説集をつくりたいと思っています。ではお母さんにくれぐれもよろしく。二人ともお元気で！　Ｎ君とＴ君にも勿論よろしく。あの書斎と二階とピアノの室とみんないい気持になっているようだな！

船便で勿論よろしいが、それは必ず今後は学校へ送って下さい。私の住所が変わるかも知れないので。学校への宛名は上記の如くです。森鴎外訳岩波文庫、『ファウスト』上下２巻、書斎にあるはずです。重くないからそんなにお金もかからないと思います。

◎お母さんに鍵を送らないでいいといって下さい。内容は後便でかきます。

【発信１９６１年６月１６日／小池順子様及び武蔵野幕屋御一同様／小池辰雄（ハンブルク）】

武さしの幕屋の諸兄弟姉妹に送る神の僕天鐘の手紙。

神の深きおはからいと御あわれみとによって、思いもかけずは今ドイツ、ハンブルクに来て一ヶ月半、幸に諸兄弟姉妹のあつき日ごとの祈りと信愛の情によって、こちらでは得られないよろこびを感じています。主にある兄弟姉妹というものは、パウロの書簡をみてもわかるように「安否をねんごろに問う」のが自然であります。パウロのどの手紙にそのことがしるされてないでしょうか。とくにロマ書第１６章とピリピ書第１章をよんでごらんなさい。そんな気持で私も皆さんを思って切なるものがあります。私はみなさんを信じ、荒井、長坂、杉本三君がたよりも忘れて集会に全力をそそいでいることも信じ感謝しています。これは旅をしてみないとわかりませんが、たった一人出かけたはじめの一ヶ月というものには言われぬ寂寞のおそうことあるのも事実です。私もそれを知らずに幾人の人を今までに旅でさびしがらせたかと思えば申し訳ないと思っています。然るに武さしの幕屋の公信として私の公信に対して月末までたよりがなかったことがついに夢に「解散宣言」となったのでした。それをなかば笑い心地で妻に書いたのがペンテコステの一つの涙となりました。幕屋の信仰が霊的に限りなく深くされてゆくと同時に、知的にもひろめられ、情的にもあつくせられ、意志的にもつよめられ、渾然として健全なる展開をするための一つの幸な躓きであった皆様と共に今は心から感謝しています。これによって我ら信愛関係はいよいよあつくされていくことを信じています、感じています。十字架、復活、聖霊の主を受ける我らの信をいかなることがくずすことが出来ますか。もしそれがくずれるなら、我らはパウロのロマ書８章の終わりを真に受けていないことになります。

その後、たくさんの兄弟姉妹からおたよりを、一つ一つ心のこもったおたよりをいただき、私がつねづね申している宝であることはよくわかります。どうぞいよいよ謙虚に、いよいよ健全な信仰の証者になって下さい。正直、武さしの幕屋は世界一級品ですから――そんなことは言ったらバカにされますが――このたまわりたる一級性をいよいよ主のものとして特級にまで鍛えあげられて下さい！　いよいよ仲良く集会をしていてうれしくあります。夏の特別集会８月１１日、１２日ときまった由、はるかにおぼえます。箱根はいいです。来年もそうなるように祈ります。北村さんや三瓶さんから集会のノートがおくられ、三君の面目躍如としています。長坂君のロクオン（ペンテコステ午後）は本日（６月１６日）午後、学校の機械でよくきけました。長坂調をききながら武さしの幕屋の室の中を想像し目がしらがあつくなりました。昔は考えられない便利な世の中であります。ドイツで君たちの肉声がきけるとは。皆さんのおたよりにひとつひとつおこたえできませんが、心から感謝をもってよみかえしています。また祈るべきことを祈っています。

私は昨１５日、第３回目のはなしをルッター教会の聖書研究会でいたしました。大部分が女性です。いかに世界的に男性が信仰の世界で低調かの一つのあらわれかとも思われます。ルカ伝１８の「パリサイと取税人の譬話」のところです。１２枚の原稿用紙に書きあげて（概要を別に一枚にタイプにうってくれて）、はなしをしました。これはいつか日本語で（帰宅してから）おつたえします。こちらの一流の学者の書いたものに決しておとらぬ内容と信じています。ライヒムート牧師が、私のはなしがおわると感激の声を以てロマ書１章１１節の言をよみあげ、

「私たちは今晩、小池教授からパウロの言った『霊の賜物』をいただきました……」

と挨拶をしました。一同もしばし、ものが言えない様子でした。そしてドイツ人らしい質疑応答がありましたが、これはこのときの牧師さんの感激をむしろこわすものでした。どうしてもっと同じ波にのれないかと、そこがはがゆくありました。しかしなかには今回も涙ながらに握手をしてくれた婦人がいました。牧師の握手は私の右の手の指がおれそうにつよくありました。このはなしは私が今までで語った最高のものでありました。ハレルヤ！　みたまのみ言と力に栄光あれ！

東京もつゆに入りましたか。こちらはとにかく雨や曇りが多いです。気温もすぐさがったりします。２日前にここの美術館をみました。ホルバイン、クラナハ、ヴァン・ダイクなどの絵の前ではしばしじっと見ていました。

おばあさま方どうぞ御達者でお元気でお暮らし下さい。まだ船荷がつきませんが、集会の皆様のいろいろな御餞別が私の生活をあたためて下さっていることを感謝しています。とくに川口さん、岩内さんが皆様の相変わらずにまもられるように！　青年諸君のじみちなおはたらきもおぼえて感謝しています。では主の愛のみ力、皆様をあつくまもりたまわんことを祈りつつ！　辰雄。

順子へ。この手紙、集会で誰かがよんでくれるようにおねがいします。その後、外的にも無事でいるから安心しなさい。前半はここにおちついていることにした。後半のことは未定。先方も私のはなしなどをきいて、心を入れかえて来たと思う。ではうちのみんなによろしく。タツオ。

○わが胸にもゆるみたまのこのほのほ　あらし吹くとも消ゆることなし。

○キリストのほのほを胸にやどさではいかでか道をつたえん。

○祈らずば心くもらん祈らずば生命枯れなん祈らざるを得ず。

○主において愛する者らよ祈りせよ　祈りは胸の灯にてこそあれ。

【発信１９６１年６月２２日／武蔵野幕屋の皆様／小池辰雄（ハンブルクより）】

皆さまのよせがき、三瓶さんの、長坂君のヨハネ伝の報告（報告は紙の両面に書いて下さい。コストがかかって大変ですから、北村さんも）。２２日午前１０時拝受、拝誦。ただ感謝と歓喜で胸が一杯！　このような親しい愛の集会はドイツにはありません。やはり教会組織はその点で、何といっても形式のわざわいです。福音に関するかぎり武さしの的なものがまことにいいです。あさがやの独立教会もその意味では結構なことです。ただ従来の無教会のような講演的学校的なものではやはり、キリストの体としての大切な面が欠けるわけです。あり方も内容もまことに大切な本質的なところをねらっている武さしのの兄弟姉妹のいよいよ一致した、あつい、かがやかしい、じみちな、よろこばしい御前進を祈ってまた信じて、み名をたたえつつ私も進みます。来週の月曜には、学生諸君その他の有志に私の信仰、我々の幕屋のこと、その他無教会のことなどにも自由にふれて、はなしをすることになりました。カトリックの牧師さんが、私が普通の人間でないことに気がついて提言して、そのようなことになったのです。「曠愛」おくれてすみません〔註：「曠野の愛」誌の発行が遅れていること〕。６月中に書きましょうね。辞典の仕事〔註：研究社『ドイツ語固有名詞小辞典』1964年刊〕を夏休みまでに終わらせるべくガンバッテいます。みなさんからのおたよりでわが酒杯はあふるるなり。このはがきは２５日の集会にはまにあわないでしょう。７月２日となれば、私も二ヶ月をすごしたことになります。

テレビで池田さんとケネディ氏の顔をみました。

Michaeliskirche（聖ミヒャエル教会）の塔（鐘楼）に天鐘〔小池のこと〕が立ちました〔註：絵葉書にはハンブルク市庁舎周辺を鳥瞰した写真。遠景にエルベ河と聖ミヒャエル教会の塔が写っている〕。全市がながめられます。８５ｍ。ティリッケさんが２８日に話をしました。ざっと１５００人くらい。なかなかパトスで縦横でありますが、上からの迫力は……。

【発信１９６１年６月２３日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク】

Liebe 順子！　１９６１年６月２２日、辰雄。

私がうわがきを書いたらしい封筒で切手がベタベタはってあるおたより、その中に西君の手紙の入っているもの拝見。航空便は金がかかるから、こういう封筒でいいよ。ひとの手紙などたのまれなくてよい。自分でやればいい。そういう点はドイツ人は実にはっきりしているね（よしあしは別だがね）。たのまれればきっとコストの半分は要求する。

いただいたおたよりは１７日のを昨日うけとりました。手紙には必ず日付を表にかいて下さい。なかに書いてもいい。これは６月１２日（金）だからチョットひまがかかってあとさきになっています。これは郵便局がどうかしたとしか思えません。ですからハッキリおもてに日付を書いた方がいいでしょう。原田君はのんきだな、そっちに出さないで私に出せばよいのに。

スライドをみましたが何のことやら、拡大鏡でやっと誰々かがわかりましたが。

こちらはバラがきれいです。そちらはあじさい。あおさいもあります。

三井さんのところは新築ですか、どんな人がくるやら、おばあちゃんお元気ですね、よろしく。幕屋あての公信をこれから時折書くことになる。家への私信とべつに。数日前にそういうのを出しましたから、そのようにします。こんどは銘々からチョイチョイもらうけれども（あのこと以来）いちいち返事は書けないし、私信をたまには出す場合もあろうがそれはよくよくの場合。私信にはその人への特別なその時折の意味をもつのに、先生からもらったなどというバカ（？）にはあきれるよ。洗練されていないなあと思う。特にその人のそのときの意味を考えて、はげましなぐさめてやるのに、そんな受けとり方ではおはなしにならない。三人のおばあさんには最近かいた。おせんべつも御丁重なのをいただいているし。学生諸君にはいずれ書く。三羽烏にも。それから女性軍と、別けるときはまぁそんなわけだね。しかし、大体は一括する。小竹さん、福井さん、さっそく書きました。ひろし君夫妻の住所をこの次の便で教えて下さい。元気かね、毎月あれはよこしますか。安藤君へは印税でも入ってからでいい。彼もその後何もいってこない。少々おかしい。それから菊池さんも私が２回も書いたのに何ともいってこない。出がけにとにかく二度たずねているのに。世の中の人は案外だと思う。何と思われてもかまわぬ私は神の前にチャンと然るべくなすべき道をなして礼をつくしているのだから、すべて神の審判にゆだねて勇敢に進む。

それから信雄は学校の勉強と演劇が大事だからアルバイトの方は夏は休むがいい。７月からお断りなさい。身体を私は心配している。若さの元気でやりすぎるとガタンとくるから御用心！　何といっても身体が大切だから、悪くしたのではあとのマイナスがあまりにも大きくなるから、この辺でドイツから赤信号を出す。そうして下さい。金のことはどうにでもなるから。兄さんから月１万円お借りしてよい。そのうちに私からおねがいしてもよい。遠慮なく言って下さい。（或いは夏、学校のないとき出来るならしてやって、秋の学校が始まるときから断然ヤメなさい！　家庭教師は）。とにかく無理は禁物！

◎ジャパンエキスプレスから私のところへ送って来ました証書を（コピーを）！　ハンブルクのアメリカンエクスプレスから電話があって７月７日頃、荷物がつくよし。本の小包待っています。キリスト新聞まだです。

○青木事務官はいいです。これは私からたよりしておきます。

○文部省の方もいいです。こちらは暮にでもして下さい。

今日はヴェンク教授が、イチゴがなったから食べに来ませんかと、学校から自動車で自宅までつれていってくれ、芝生の上でイチゴをいやっていうほどたべました。もぎたてを砂糖をかけて食べました。ドイツ人というのは何しろ、そういうところは野蛮です。それから奥さんが夕食の用意をしてくれて食べました。可愛い３才の男の子と１３才の男の子がいたのでフォトにとってやりました。世界が一つになったら、歯医者は日本人にかぎると力説。日本人はキヨウですと、歌子につたえて下さい。日本人の歯科技術は世界的だから大いに自信をもってやって下さい！　なかなか面白い一ときでした。ヘッセルさんの住所わかりました。御安心。もう出しました。ボールペンはドイツのはこの通り。みんなによろしく。もうすぐ２ヶ月がたつ。はやいもの。７月はすぐすぎるでしょう。そうすると半年もたちまち。あとはトントン調子と思う。一年以上いる必要はないと思っています。

西君によろしく。同感だといって下さい。パウルス婦人からもよろしく。得男君、清子によろしく。おたより感謝。本のこと感謝、いずれまた書きます。

【発信１９６１年６月２８日絵葉書／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク】

夏季学期終了。満２カ月の日。２４日のおたより拝見。安藤君に３万円送ってくれて有難う。４月の室代はのこりからさし引いていずれ帰京してから彼にわたすことにします。その他入費で大変だったね。よくはらってくれました。

○子持山にはどうしてギムがあるかちょっとわかりかねている。教会関係はこういうことはなかなか組織的に出来ていて、うっかり一度同情して出金するとあとまでギムづけられるようである。

○木村さんから順子に甲子園の婦人会に来てくれるようにとまたたよりがあったが、これはいかなくていい。順子は本務があるし、家庭があるから、これは不可能だといいなさい。幕屋の女性としては、北村さんに行ってもらえたら幸と思う。長坂、杉本両君がゆくと応諾してくれれば、その旅費のある程度は春からの貯金の中から出してあげて下さい。それはＮ、Ｓ両と相談して。幕屋を代表してゆくことになる意味があるから。

○白水社の印税が来たら上田君に（彼もアルバイトをしたわけだから）とりあえず５０００円感謝としてあげてくれないか。多分３、４万円くるかと思うから。大体２割見当で。とにかく、印刷が来たら知らせて下さい。

○岡藤先生にはおたよりしました。我々としてはこんどは何もしなくてよい。

○奥田君の住所はこの前の手紙に書きましたが。今これを学校で書いているのであいにくわからない（金曜の午です）。また書きましょう。これは急いで出します。市川君はときどきたよりをくれから返事があるはずですが。

○藤田たきさん承知しました。

○市川先生にも旅から書きます。

○保さんからたよりをもらいました。

○みんなそれぞれ暑い中をガンバッテいますね。御馳走をたべなさい。よく眠りなさい。

○山本隆君にはすぐ書きます。気の毒なことですね。どうして不幸になるのだろう。

○得男君、清子は旅に出るかね。

○オバアチャン行水するほど元気で結構！

〔註：ハンブルクの街の写真４枚が載っているエハガキ〕

【発信１９６１年６月２９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

６月２４日消印のおたより拝見。手紙は日付を書いて下さい。遅速をそのつど知る必要と、手紙を整理しておく必要上。殆ど一週間ごとに書くことがお互いにあるようです。東京のは４５円、こちらは６０Pf.〔ペニッヒ〕、こちらの方がすべてたかいですね。

○ジャパンエキスプレスからは未だ通知なし。アメリカンエキスプレスから連絡あり。７月７日ころ着荷の予定。荷物はここパウルスさんのところにはこび入れるつもり。

○白水社の校正はじまってうれしい。上田君に校正の仕方を教えておけばよかった。おついでの折よろしく。彼の今の住所を次の便のときにでも教えて下さい。

○幕屋で住所録を新たにつくったのなら誰か幕屋の人が送ってくれるとよい。

○安藤君へかえす金は一度に２万７千円はらった方が（月賦３千円より）よろしいでしょう。それで別便で兄さんに書きました。２万円貸していただく様に。あとの７千円をたして。現金書留でも為替でもよいからお送り下さい。それの方がさっぱりする。あとのことは私が帰ってからはなしをしてからにします。誰か、照雄でも兄さんのところへ自転車でいただきにやって下さい。

○得男君、博士号が通った由、別便でお祝いを書きます。

○おみやげの件、承知しました。台は金かね。大きさは。これらのことは夏の旅がすんでからお金をためてから。ホンコンで安くかえるものはホンコンにするけれどね。ハンドバック、ドイツで買っておきましょう。時々のぞいています。

○スピッツがくるって、中村さんによろこばれるかね。よその人にカミつかない様にくさりをしっかり。清子などもこわがるほうだろう。

○信雄君の演出援助の劇、成功でうれしい。夏はゆっくりしたまえ！　語学は毎日少しずつ！

○照雄君、学校の成績、気にしなくていいから。本格的にじりじりとやって下さい。結局、土台のしっかりしたものが最後の勝利だから。

○ゲーテ年鑑の「メフィストーフェレス」の抜刷が来ませんでしたか。関西ゲーテ協会へ私から、船便でおくってもらうようにたのんでみましょう。

○こちらはボの字がない。ドイツ人はどこまでも理論的で、そういうことは考えない味気のすくない国がらだね。

○本のことは、もうじきついてからにしますが、もうおたのみするものも大体なかろうと思います。俚諺辞典はもうよろしいとします。一寸したのがこちらにもありましたから。私が今待っているのは藤井武『聖書より見たる日本』（選集）、『羔の婚姻』（選集）、内村『一日一生』『余はいかにしてキリスト者となりしか』の独文と日本文、『代表的日本人』のドイツ文と岩波版日本文。皆、私の書斎かどこかにあるはずです。

○その後こちらは平穏ですから御安心。大分気分をかえているから大丈夫です。カバンは二つともカギをしてありますから、これがコワレルようなことでも万一おきればサヨナラするまでですが、人をうたがいたくありませんので。

○教会のはなしに対しては牧師さんが二度２０マルクくれました。定期的に毎月私にさせればよいですが、あちらも職がらそうもいかないのでしょう。

○８月は大方旅行となるでしょう。１５００マルクはもってでかけたいと思います。大体それくらいのこりますから御安心。

○辞典を７月一杯で大体しあげるつもりです。

○集会はいつで終わるのでしょうか。高森君に予定をハガキでいいから書いて下さいといって下さい。なるべくエハガキがいいです。こちらの学生にみせるために。

○この間同じ研究室のＷＥＮＫさんが苺がなったから食べに来なさいとさそってくれたので自動車にのせてもらって（先週の今日）たべに行ったら新鮮なのを山ほどだしました。晩飯も御馳走になりました。可愛いお子さんがいました。そのうちに写真がだきたら。私があの「矢立」をあげたから、招いたわけでしょう。

○ベンクさんにも南部の鈴をあげたらよろこんでいました。ベンクさんは私の下宿のことを心配してくれましたが、一応このままにするといって、まずおさまりました。（内容については具体的には……にしておきました）。

○今日は一寸２ヶ月目の日。はやいものです。あと１ヶ月はまたたく間。

○それから３ヶ月も何のかのですぐでしょう。あだちさんにたよりしたけれど返事がないので、おそらく旅行中でしょうと思います。

○東京はさぞ暑くなったでしょう。こちらは女は半そでもそでぬきも天気がいいとあらわれるけれど、男はちゃんと上衣をきています、学生の外は。

○木村夢あん氏から手紙が来て来年の５月や８月の集会のことまで書いてある。えらくはりきっていますが、九州のことはえらくわるく書いています。もっとしずかな深い福音でありたいと。とにかく面白い人かなと思います。私はどこまでも私らしくやってゆきますから御安心。では今日はこの辺で。祈っています。

【発信１９６１年６月２９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

○同封の傑作はやがてネガをおくったら、大きくひきのばして集会所にかけたらよかろう。毎日曜、みんなにこの湖畔の立っている写真を通して「今日は！」をしたいわけだ。決して生き別れの意味ではありませんから、気をわるくしない様に！

○こちらにもトランジスタのテープレコーダが出来たので、２６５マルクだから東京から送ってもらったのが聞こえるようだったら買ってもいいと思っています。月７００マルクの給料は安すぎる。少々これでは無理です。

○ドイツがこの様子では次に駒場から来る人が（希望者）ないかも知れない。菊池さんが今月中には話してきめてくれると思うが、あやしい。未だ（私が６月はじめに書いた手紙に対して何とも返事がない）私の想像では、私にもう半年とにかくのばしてもらいたいくらいに言ってくるだろうと思う。私は断る。来年は状勢によっては日本学講師がブランクになってもやむを得ない。然るべきおりに文部省と、駒場の青木さんに帰りの旅券のことをたのむつもりです。おぼえていて下さい。

○**９月２１日**、政美兄上の命日の前日、幕屋満２１年の前日（木）にこちらの教会の聖書の時間に「善きサマリヤ人」の話をすることになりました。牧師さんが今日、壇上からみんなにその報告をしました。

○パリ、ロンドンは下旬にゆくかも知れません。旅券は来月できるから。とにかく、この９月１０月中に行って来ましょう、飛行機で。

○あとは来年の３月以降に、北欧をちょっとみて来たいです。そして４月半以降にこちらをたって、オースタリー（ウィーン）、イタリー（ローマ、フレンツ）、ギリシヤ（アテネ）、パレスティナ（エルサレム）、エジプト（カイロ）、インド（はヒマラヤの見えるところ）、ホンコン、そして東京といった具合に旅をして、５月１０日頃に帰京したいです。切に祈っていて、楽しみにしていて下さい。

○手島君が大旅行をする。１１月はじめにハンブルクへ来て会いたい由。『生命の光』に「グンデルト先生訪問記」（私の）がのります。

○冬学期の「日本精神史」は大いにやります。お陰様で参考書は充分。学校にもあるし。

○この頃パウルスさんはたしかに以前より気持がよくなりました。私の教会での話をいつか聞いてから、考えなおした面があると思われます。なかなかよくやってくれます。

○体重も多少ふえて、生まれてはじめて５０キロを越しました。パウルスさんもそれをきいてよろこんでいました。体重が減ることはひとをあずかっていて、食べ物がわるいという判断になるからです。

○夏の旅のアルバムを２冊つくりました。それから普段のとあわせて３冊、９月中に発送します。１１月中につくでしょう。たのしみにして下さい。

○『曠野の愛』もクリスマスまでに１冊、１９６１年度版という少しあついのを出版するようにします。幕屋のみんなに伝えて下さい。

○畠山さんが今日みんなとおわかれをしたと思う。１０日の日曜を最後として国へ帰ると言って来た。よく家のワイシャツその他ゾーリのことなど、また身体を害しなかった以前は、日曜のノートをよくやってくれた。何だか可哀相である。なぐさめはげまして送ってくれたと信ずる。何かお餞別をやったかね。彼女もやはり他の社員の如く、いわば会社の労働基準法違反の犠牲の一人になったわけだろう。社会問題の一つである。そこへゆくとドイツではそんなことは絶対にない。そして、各人が充分社会人としての権利も主張する。第一、土曜に休む会社や半日のところが多い。日本は相当まだ封建ですね。畠山さん自身ももっと会社に遠慮せず権利は主張すべきであったろう。やるべき事はやっているのだから。とにかく、むしろこれで彼女は救われた。よかった。

○うちの三人は元気かね。信雄の旅行談をききたいものだね。成功したのかしら。

○ポチはどうしているかね。パウルスさんのところでも犬と猫がいてなかよく暮らしている。しつけはやかましくいえばダンダンおぼえる。ただあまやかせていてはいけない。では今日はこのへんで。みんなによろしく。

【発信１９６１年７月４日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

第７信。Ｊｕｎｋｏ！　ごきげんよう。おばあちゃんお元気ですか！　スピッツはどうだね。ＴＡＴＵＯ

**６月２１日（水）**。荒井君夫妻から手紙が来た。みんな一生懸命でやっていてくれてうれしい。

**６月２２日（木）**。一年生には羽衣のはなしを教えている。こちらは謡曲の原本でついでに勉強。昔の文章の美しさをあらためて認識中。松村克己氏（関西大学教授、神学者）がたずねて来た。そのうちに彼の宿所をたずねることにしてわかれる。ヴェンクさんがイチゴができたから食べにいらっしゃいというのでヴェンク教授運転で遠くの自宅まで（３０分）ゆく。奥さんが庭の芝生にテーブルを出してイチゴを山ほどつんで出す。砂糖をかけてたべる。野趣満々。二人の男の子、上は１１才、下は３才。下のがとても可愛い。私がいったのですっかりハシャイでいた。しまいにひっくりかえって顔をよごした。野菜を各種つくって自給的であるのに驚いた。書斎をあらたに建築中。夕食も御馳走になって帰る。途中まで自動車で見送ってくれた。ヴェンクさんは南の人、奥さんはいかにも北ドイツらしい夫人。ヴェンクさんが日本の歯医者は世界一にうまいと力説。世界国家になったら日本人になってもらうと大笑いだが、まじめにそんな気持でいるようだ。

**６月２３日（金）**。上のクラスでは劇の翻訳。芝生で湖のヨットをながめてうごくのがいやになる。ドイッチェ・アタカによって日本の新聞を読む。

**６月２４日（土）**。日本の詩歌の勉強、辞典の仕事。

**６月２５日（日）**。パウルスさんが自動車にのせて北の小さな湖まで散歩をさせてくれる。教会はそれで失礼した。午後からでも充分な距離だった。少々勝手なところがある。自動車をおいて散歩をしたが道をまよう。長男がひきかえそうというのにパウルス夫人はきかないで先へゆく。強引なところがある。まよったおかげで、森の中の蜂箱をつんだ自動車をみた。蜜バチがブンブンとうなるほどいたがささない。それから牧場のまんなかをつっきって牛どもの間をよこぎって帰る。大体こんなあんばいである。あつい日だった。

**６月２６日（月）**。ティリッヒ教授の講義をきいてみた。わかり易い。学生は教授の授業のはじめとおわりで、机の上をゴツゴツたたく。カンゲイとカンシャの意の由。小さな我々のゼミナールではそういうことはしない。そのかわり、みんなあいさつをして親しげに帰ってゆく。それから松村氏と学生食堂で食事、１マルク。午後の授業をやったあとで、ティリッヒのゼミナールにも顔を出す。ロゴスの問題をやっていた。学生のあたまはまだかたいと思った。それからミッション・アカデミーをたずねた。西の方のホホ・カンプという駅まで。そこには世界各地からの牧師やドイツの学生で牧師志望のものが一所に下宿している宿で、３０人くらいいる。１ヶ月１２０マルク（昼ぬき）やってくれる由、最低である。しかもなかなか宿もきれいだ。松村氏は大分ゆったりとくらしているようだ。ここに入れたらいいなあと思った。

**６月２７日（火）**。富田君から二度目のレコードがくる。

**６月２８日（水）**。午前、入浴、洗濯。ライヒムート牧師がこの間の日曜休んだので病気かと思って心配して来てくれた。恐縮。そしてこの間の講義（聖書の）の御礼だといって２０マルクくれた。米ソ関係がベルリン問題でどうなっていくやら、世界はどこでも何だかんだとさわいでいる。アフリカでもゴタゴタ。フランスでも。

**６月２９日（木）**。カールシュタットという百貨店でエハガキを買う。いつも買うものだから、顔をおぼえられた。もうこれで大抵出すべきところは一通り書いた。夜の聖書時間に出席、ルカ１２・１３～２１、ライヒムートさんなかなかいいはなしをした。

**６月３０日（金）**。学校の帰りにドイッチェ・アタカによる。石山さんが夕食をたべましょうとさそい、ベンツのすばらしい車で４、５人で支那料理屋へゆく。とてもうまかった。あつい日だったのでビールも。御馳走になる。この次からは払って下さいなどいって、ひかないから、ひっこめた。４人で６０マルクという払いだった。日本でいえば一人１２００円。それから浅草みたいなところへ案内されたが、適当にしてひきあげた。しかし日本の繁華街みたいなゴロツキやヒモの如きものはいないらしい。秩序がたっているようだ。酒によってたおれたりすれば店からつまみだされてしまう由。一人そんなのがいた。店の前に追い出されていた。６月がこれでおしまい。２ヶ月がたった。感謝。

**７月１日（土）**。辞典。長坂君からたよりがくる。いい手紙であった。塚本先生へ書く。午後、パウルスさんの子供のいっているペーターゼン学校の夏のまつりを見にゆく。日本の学生の方が仕事は上だ。小学校の生徒のものも何だかこちらのはまずいようだ。

**７月２日（日）**。教会、セイサン式にも加わる。二度目、ライヒムートさんと杯を共にする。４日間真夏の暑さだった！

〇６月２８日消印のお手紙有難う。上田君にあったらよろしく。新住所が知りたい、一筆したいから。本ができたら彼に一冊別に注文して贈呈して下さい。印刷が来たら（スピーリの）教えて下さい。その幾分かを彼にやりたいと思いますから。（日本の水害こちらのテレビにも出た由）

〇加藤さん、中川さんへ、承知しました。

〇照雄君は元気だね。

〇大雨で大変だった由。

〇信雄君は鳥取島根へゆくって、大したものだね。楽しい旅であるように！

〇おくりものの件、承知しました。あとは帰りにするかな、わからない。

〇青木事務官、帰京してからでよろしいね。

〇中村耕平氏のものそのままでよろしい。

〇金沢さんはのぼりと寮にいたそうです。高橋三郎君が寮長に新たになったのです。

〇歌子の上田喜一さんのペンジョーン・インターナショナルは本日さっそくいって（朝食付で１２マルク６５です。サービスも入れて。昼と晩は自分で適当に）、７月３１日～８月７日まで予約して来ました。御安心下さい。河西さんも必要でしたら、何日から何日までがハッキリしたら、たのんであげます。

【発信１９６１年７月１０日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

〇東京の暑さとはちょっと想像しにくいくらいこっちは、へたをするとスウェーターをきる涼しさです。

〇関口さんのは３８００円はらって下さい。予約してあるわけです。そしてもう一冊（合計３冊で完成）でおしまいです。はじめのは５０００円でした。どうも高価で留守宅にはすみませんが。

〇安積さんのこと御連絡があったらそうします。

〇西川正悟氏のこと、水戸時代の一年先輩、ランニングの選手でした。私は殆ど交際はなかったです。病気をしていたため。でも何か短文を書いてもいいですが。５００円出すことがギムですなら出しておいて下さい。林さん、西山さん、小田切四郎君と同級の人で附属中学出身です。

〇ゲーテの『メフィスト』１０部ほど普通便で送って下さい。こちらでわけたい人がいますから。同じ送料で送れる範囲内で部数は１０部に限りませんから適宜に。

〇中村さんにはもう出しました。加藤、中川両氏にはそのうちに。

〇宏君からはアッチャンと二人からたよりがありました。

〇安藤君から今日たよりあり。いそぎませんから御都合よろしきときにとありましたから、夏もし旅行等で入り用なら、そのことをいって、暮にのばしても、分割払いでもいいです。電話ではなせばいいです。まぁ金のことははやい方がいいでしょう。

〇北村さんのお茶の好意はありがたいが、要りません。むしろマルイものの方が旅行をするので必要なのです。ドルをおくるわけにはいかぬものかしら。そうもいくまい。「曠愛」のことをそのうちにたのむから、その費用の点で彼女の好意をうけるように、私から書こうと思う。それの方がよい。

〇三人のおばあチャン赤星さんたちにおたよりしました。おついでの折お中元に対してよろしく感謝のことばをつたえて下さい。

〇箱根の集会に順子も都合をつけて顔を出してくれる由、うれしく思います。なるべく彼らと親しくやって下さい。とまるのは赤星さんたちと御一緒でもみんなと一緒でもどちらでも。なるべくはみんなと一緒の方がみんなもよろこぶでしょう。

〇菊池さんたちからよせがきがカンタンだけれども来ました。星野君のリルケ研究カンセイの祝の会の席から、星野君にも祝のたよりをしました。

〇ボールペンとモンブラン、子供たちにかって行きます。そうたかくはありません。１本２０マルク前後（モンブランは）、それからゾリンゲンも。こういう小さいものが便利です、トランプも。

旅行とみやげに金をためるのがむしろ大変です。今の下宿はその点こちらでの最低の生活ですから、いいですが、ほかへ行ったら、なおダメですから。がまんします。

〇領事館の領事高松夫妻とKerrmannという弁護士のところへあそびに行きました。また、新田君という駒場出身の若い研究生（独文）夫妻にまねかれて遊びに行き、Röhlレールさん（判事）ともゆっくり語りました。ヨットは天気がわるくてまだ日のべ。今日はとりあえず右御レンラクまで。スピッツはダメの由、まぁいいです。

＊

１９６１年７月１０日の「世界」紙の政治マンガ（毎日第２面に出ています）。西独もそのうちに核武装そするでしょう。アデナウアーがそうほのめかしています。西ベルリン問題で今年中に何か変化がおきないとは限らぬようです。〔註：政治マンガの切り抜きの余白に書かれている〕

【発信１９６１年７月１２日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

第８信。荷物の中味は思った通りのものでした。何も失われていませんでしょう。お茶を有難う。これからたのしんで飲みます。

７月１２日（水）に次の小包がとどきましたから、小暮が来たら、よろしく感謝をおつたえ下さい。

〇Die Zehn Gebote Gottes (Walter Lüthi)（神の十誡）（独文）

〇Facts about Germany（Ⅲ）（英文）※

〇内村『代表的日本人』（独文）

〇法然と親鸞の信仰（倉田百三）

〇洗心録

〇Brunner：Römerbrief（ロマ書）

〇Lehrbuch des NT.gr（新約ギリシヤ語）

〇Gr.=English 聖書

〇『羔の婚姻』（選集Ⅰ）

〇東洋的一（鈴木大拙）

〇歎異抄（独文）

〇『余はいかにしてキリスト者となりしか』（独文）

〇『一日一生』の（四六版）

〇Berlin-fate u. mission（英文）※

〇朝日ジャーナル３冊、5/20,5/28,6/4

大変お手かずでした。今後、本は要りません。朝日ジャーナルもいりません。※は小暮君が買っていれてくれたのかしら。この２冊の英文の本は私が全然おぼえがないので。

〇これだけあればもう充分です。あとはこちらの研究室のものと、今までにとどいた三つの小包とでまにあいます。どうも有難う。まだ一つくらい小包がとどくかも知れないが、何しろ辞典でゴタゴタしていたためすべて、てんてこまいで、大変お手かずをかけました。小暮君には何をお礼してよいやら。

〇明日（１３日）船荷がとどくことになった。今日、アメリンカエクスプレスへいってレンラク「パス」と「カギ」（そちらからおくったもの）をもって社員（ドイツ人）がうけとりに行く。私はゆかなくてもよい由。えらくカンタン、形式的にあけるのだろう。それでも立ちあいに行くとまではいえなかったし、学校もあいにくあるしで。１４日支払（運賃）にゆき、「パス」と「カギ」をもらうことになっている。

〇夏の旅のことで、トゥリストブューロー（ハンブルクのハウプトバーンホーフの付属の）へ行ってちょっときくつもりだったら、むこうはどう歩くかとたずね、どんどん書き込んで周遊券にしてくれ、８月３日にとりに来いという。８月５日頃から有効になる。大体２５０マルクくらい。飛行機はタダだけれども面白くないからやめた。それに内陸線はタマに故障がおきているから万善の策で。ハンブルク──フランクフルト──ハイデルベルク──マールブルク──ウルム──と南下してすぐスイスのインターラーケンそれからバックの形でルツエルン──ツューリヒ──ウィーン──ミュンヘン──ニュールンベルク──エアランゲン──ボン──ケルン──ハンブルという周遊券にしました。８月５日頃出発します。８月２５日頃帰って来ます。旅さきから勿論おたよりをします。

◎荷物１３日午後５時つきました。私は何のたちあいもせず、ノンキなものです。

**７月３日（月）**。ティリッヒのゼミに出る。一寸ひとくだり意見をのべた。

**７月４日（火）**。吉原吉彌さんに叔母さんのお誕生日でおたよりもする。水戸時代を思い出して。

**７月５日（水）**。近藤君から電話が来たのででかけて、二人で日本料理、テンプラとユドーフをたべる。ことらはお金がないからワリカン。特におごる理由もないし。彼は１泊２０ドルのホテルにいる。食事は別、およそ私の三倍の生活をしているわけ。商社の人たちとはつきあいがむずかしいわけ。

**７月６日（木）**。ルッターの重要な論説の入った一本ものを古本でみつけてうれしかった。ガラテヤ書も入っている。

**７月７日（金）**。領事高松夫妻にさそわれてヘルマン弁護士のところへゆく。カンタンな晩めしとワインはいろいろ。池上君（あの池上君の甥）と四人がお客、１１時までなにくれとなく語る。

**７月８日（土）**。ところが昨夜、パウルスさんへドロボーが入って、引出しから１００マルクとられた由。私が紛失した（とられたとは言わないでおく）２０マルクの５倍。どういうことか、神のみ知りたもう。ケイサツが来たけれども勿論わからない。８日は雨、東京に居られたレールさんと共に新田君夫妻のところへ晩餐。これも１２時頃帰宅、雨にあって閉口した。ここは遠いので帰りはいやになる。

**７月９日（日）**。教会へゆく。午後は辞典の仕事。大体今月ですませるつもり。

**７月１０日（月）**。日本語は灯台守のはなしや夏の手紙の書き方。松村克己君にさそわれて、ミッション・アカデミーにゆく。ティリッヒのはなしがあるというので。夕食をそこに共同生活をしている伝道者たちや宣教者のたまごなる学生たちと一緒にとる。なかなかの御馳走である。松村君たちは教会関係で、ここに月１５０マルクでくらしている。昼食は自炊、私にもここに入れるようにしてはというが、少々無理なのと（教会関係でないから）、共同生活の義務づけと神学聴講の義務等があって、日本学教授として日本学のブンル、ヴェンクさんたちにあまりに仕事の上ではなれるのは、教場への関係もあるから、やめることにする。結局パウルス氏のところで一年間をつらぬくつもり。ティリッヒさんは無教会は教会学に何らプラスするところがないといっていた。そうにちがいない。いつかしかしティリッヒをたずねてはなしてみたい。

**７月１１日（火）**。辞典の仕事。

**７月１２日（水）**が今日である。この手紙の前方に書いた通り。

◎８月は７日～２６日まで旅行の予定！　全部汽車！　今日はゾリンゲンの安全カミソリを三つ買った。得雄君、信雄、照雄の三人のつもりで。あとは夏の旅行がすんでから買うことにする。

今日はちょっと夏らしい天気。そちらは梅雨があけて本格的な夏でしょう。西瓜は今年はどんな出来かね。夏はでかけられないだろう。おバアチャンひとりでおるすは危険です。いつも祈っている。みんなと家の無事を！　では、うた子、のぶお、てるおによろしく。

【発信１９６１年７月１４日／小池順子様並びに荒井大寿君、長坂光彦君、杉本善男君／小池辰雄（ハンブルクより）】

夏の集会よろしくおたのみします。今日は藤井先生の日ですが、昔の師友で、書いて共におぼえたい人がいない。師をおもうこと切にして且つ最も深いと私は自任しています。『羔の婚姻』を投げて世を去った先生の遺志を、ひとりひそかについで立っている私です。私もある一篇の雄大なる詩篇を投ぜずんば世を去るあたわず。君たちは私の胸中を知る。ドイツは一年で沢山。来春は帰国を神にねがっています。私の仕事はこれから。君たちも大志を抱いて終生を貫いてください！　日本人は貴い国民です。いよいよ日本人は自重すべきです。その頃私は多分スイスです。

〔註：「夏休暇に入って間もなく、即ち８月７日（月）にハンブルクを出発して西ドイツを８字形に、スイスの北部を杓子形に周遊旅行をしました」〕

杉本君おたより有難う。奥様によろしく。和歌もうれしく拝見しました。

藤井武先生時代を共にび得る順子の感慨も無量だろう。戦いはこれからである。

【発信１９６１年７月１５日絵葉書／小池歌子様、信雄君、照雄君／小池辰雄（ハンブルク）】

東京はとても暑いそうだね。信雄君は目下西へ旅行中かな。ドイツは夏といっても大したことはないです。天気がわるいと２０度くらいにすぐさがる。３０度を越すことはめったにないです。一日のうちに実によく変わるので、我々日本人にはそれが気になるけれども、ドイツ人はガマガエルみたいに雨にぬれても平気な顔をして男は傘なしで歩いているのが多い。湿気がないからすぐかわくという点もあるし、道がきれいだからよごれもしないというわけ。アルスター湖はもうエハガキでおなじみになった思うが、この通りたのしくやっています〔註：アルスター湖上に浮かぶヨットの絵葉書〕。私は未だ乗りませんが、そのうちにと思っています。お姉さん相変わらず遊びに、はたらきに来ているかね。よろしくつたえて下さい。お母さんも夏はゆっくりやって下さいと言って下さい。そろそろ送った本がとどくころと思っています。歌子ちゃんが歯の治療で智慧子さんの歯をなおしたって、そろそろ一人前でおめでとう。照雄君、楽しい勉強を着々と！　夏はゆっくり、秋から加速度で。８月７日にハンブルクを出て８月２７日頃までスイス、オースターまで旅行して来ます。いずれ旅さきからまたエハガキで。ゴキゲンヨー　父より。

【発信１９６１年７月１７日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

７月１３日のお手紙、今日１７日（月）の朝拝見。なか三日ですから最もはやく。こちらのは一週間かかるようですね。東京の暑さがちょっと想像しかねるくらいこちらの夏は楽です。それだけ冬はヤッカイと思います。この間もハガキに一寸書いた様に、ハンブルクは一年でたくさん。本当は夏学期（半分、全体の）だけで冬学期は南ですごしたら満点。昨日は池上君の下宿にいってみました。日当たりよろしくなく、ちょっとあの室では入る気はしません。宣教師たちのたむろしている家はいいところですが、今更教会グループに入ってどうのこうのも面倒だし（松村克己さんが、自分のあとに入りませんか、何とか名簿をつけて、などといってくれていますが、これもいろいろ考えてやめることにしました）。自分の仕事もじっくりしたいし、日本学の両教授に対してもまた駒場に対しても、こちらであまり神学なかまに入ってしまうと具合がわるいでしょうから、やめることにしました。パウルスさんのところも前より気分がよくなっていますし、大丈夫です。この間、書いたと思いますが、泥棒が入ったりしたのは気分のわるいことですが、私のものは何も盗まれませんでした。しかしちょっとひやっとしましたよ。旅費の入っている（夏の）トランクでももってゆかれたらおしまい。それからとにかく戸棚は鍵をかけて出ることにしています。

〇廉君へはこちらからお祝状を石原さんへ書いておきます。廉君とは何もそう直接にどうということはなかったですから勿論１０００円位で充分です。まねかれたわけでもないのでしょうから。

〇朝日君からの本のといあわせは、皆ヒルティーの本で彼はドイツ語の教科書出版のことをやっていますから、教程をつくるために利用したいわけです。なかなかガッチリしています。ヒルティーを訳したときも私のを借りて訳した男ですから、ベルヂャーエフに自分が参加できなかったので不服だった様です。氷上君も彼はガッチリしているといっていました。私が苦心して買いあつめた絶版同様の本です、どれもこれも。そうカンタンにみんな利用されてはと思いますね。理由（借用の）も何もなくてただ借りたいなどは無条件ではかし得ません。ドイツに出かけていって、本は（書斎をかたづけてしまったから）わからない、といってアッサリ断っておいていいです。これは私が教科書に招来したいと思っていたものでもあるので、こちらの特権をカンタンに放棄するわけにゆきませんから。『ヒルティー著作集』のならんでいる本棚の中にありますが、順子でもわかるから、ヒルティーのドイツ語の本はどこかにしまっておいて下さい。

〇安藤君から手紙をもらいました。２７０００円は夏中にＡ君にかえしてくれますか。それの方がセイセイします。ひとの金で旅行する気もいやですから。

〇この夏はとても旅行は出来ませんね。すべては来年のおたのしみ。もうかれこれ四分の一がすぎ、夏休みがすぎればあとはつるべおろしにこちらのタイザイもちじまりますから、もう大体見通しがついたようなものです。仕事も大体順調です。

〇除君は全く気の毒です。旅のさびしさを慰められたくなったんでしょうが。とんだ女のためにマイナスとなって。イタリアは来年の帰途によることにしました。夏は厚いし、旅費がかかるしで。この夏はスイス、ウイーンで日程もギリギリ一杯。

〇照雄君からこちらの新聞に日本のことが、と書いてありましたが、日本の記事は大体小さく出ているのが常態です。今朝の新聞には外務大臣更迭（小坂さん）のことがちょっとのっていました。小坂さんが日独関係を一層深めることを要すると力説したことものっていました。

〇除君にあったらローマは来春４月にしたとおつたえ下さい。ローマ、アテネ、カイロ、ホンコンと飛行のりつぎで帰ろうと思います。

〇船荷有難う。全くカンタンに、はとばにもゼイカンにも行かずにすみました。鍵もたしかに。

**７月１３日（木）**。荷がついたので夏のマフラーをパウルス夫人とレナーテ嬢にやりました（一つずつ）。よろこんでいました。ヨロシクなどといいません。ドイツ人というのは、ちょっと日本人とは感情のはたらきがちがいます。

**７月１４日（金）**には手島から『生命の光』５、６、７月号がとどきました。空輸で。あの茶碗のことなどものっていました。素人天才で、信仰のたまものとありました。天皇陛下も特に気に入られたとのこと。夏は別府の山間で大集会の由。彼のやり方はいろいろ同調できませんが、彼のよきところは正直みとめています。無教会の如くパリサイであってはいけません。詩魂天地相通じています。

**７月１５日（土）**。記事なし。

**７月１６日（日）**。昨日、池上君を訪ねて、南ドイツのことをいろいろきき、旅行の要領もきき参考になりました。

では、お元気で！　スピッツ小犬が夜もおとなしくしているように！

【発信１９６１年７月１８日？／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

〇お座敷のチガイダナの床の間のところに木の箱があるね、あの中か、大きなツリ道具箱だった大箱の中かに、私の「無教会神学論」というのがあります。関根正雄の「聖書と無教会主義」という論文と一緒で一冊になったパンフレット（三一書店刊）、書斎の大本棚の中央の兄さんの写真のかかっているあたりにも多分あるはず。また窓ぎわの引出し（３０クライアル奴）の中央の上の引出しあたりにも多分、そのパンフレットの私の論文だけをやぶって下さい。それと「終末的実存者」という論文、これは手島さんが「生命の光」社から出してくれたパンフレット、それも表紙は要りません、なかみだけをきりはなして二つを、DRUCKSACHE（「印刷物」の意）として──歌子にかかせてくださって結構──としておくって下さい。９月末までにとどくでしょう。空輸で２、３百円なら、空輸なら更によいが、それ以上高ければその必要はありません。ドイツ語で秋にはこれらの論文を一括して（そのままではなく内容的にまとめて発表してやりたいと思っていますから）。

藤井先生の「聖書よりみたる日本」と森鴎外の「ファウスト」第一、第二部共にを待っています。冬学期は専ら籠城で研究と執筆にくらします。その点でも食事のことをすべてやってくれるパウルス夫人のところは有難いわけです。三食やってくれるところはめったにない由ですから。かなりヴァラエティがあります。順子が家事を専門にやってこういうヨーロッパ式ものに私はなれているといっているので、感心しています。私は何でも食べるものだから、ただし分量はいつもあましています。くだものもまずいけれどもリンゴあり、ネープル（ややよろしい）、バナナはこっちのがやすくておいしい。庭でとれたサクランボ（こちらではじめて桜桃をみたわけ）、イチゴはこちらもおしまい。その他、グミの大きな様な奴。今こちらの庭のリンゴが大きくなりつつあり、秋には食べられる由。この間リスが２匹、サクランボを木にのぼって食べていた。ディズニーのようにすばやく写真にうつすわけですにもゆかず、ハリネズミも野うさぎも一度ずつみかけました。朝はコーヒー、バタ、チーズ、ハチミツ、マーマレード、丸パンとおきまり。昼、家にいるとあたたかいスープ、いつも３、４種類を交代で、肉、パン、時折御飯（やわらかい）、トマト、それに果物、といったあんばい。夜はみんなと一緒に食べる。子供たちがみんなそういうことは週に２、３回（皿洗いは子供たちもやる）。ジャガイモは必ずでる。それにホワイトソースをかけたり、わかぬドロドロしたものをかけたり、肉か魚へは大抵あぶらいため。卵がでたり、ソーセージのあたためたのが出たり、いろいろ、プディングみたいなものもよくでる。夜はコー茶を一杯、クッキーと一緒にもって来てくれる。食ものは大体そんなあんばい。

畠山さんから順子と一緒に８月の箱根集会に行かせていただくといって来た。不幸な子だから可愛がってやって下さい（同じ猪年だしね！…）。こちらでも３０～４０冊本を買いました。（同封の写真、望月健一君へ、エハガキは別に出しておきましたから。）

【発信１９６１年７月２１日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

こちらの松村克己君が（秋に同志社大学へ帰る人）、ソノラマを二枚かしてくれて学生にきかせたところとてもよろこんだ。それをパウルス夫人にちょっとみせたら、ここの子供（２５才）のフォルカー君がラジオ付属の蓄音機にかけて、かけたらよろこんでこれをクリスマス・プレゼントにしたいから、日本から送ってほしいとのこと。勿論、船便の普通小包（カキトメの必要なし）でお手数ながら、ひまなときを見て送って下さい。得雄君でもよろしい。内容は、日本童謡集１及２、朝日ソノラマ別冊（１冊２６０円LP33回転）。表紙は大きなムギワラ帽子をかぶっている女の子の絵のが１の方、支那服（黄）をきた女の子の顔のうしろにキューピーが二人いる赤い表紙のが２の方。その他にやはり童謡を二枚といっていたから３と４があったらそれを送って下さい。朝日ソノプレス社が出版社、定価がもし変わったら勿論それもしらせて下さい。選曲は堀内敬三、井上武士となっています。計４冊（こちらでいえば１０マルクというわけです）。その１０マルクは私がこちらでうけとって使わしてもらうわけですからカンセツには私を順子が助けてくれるわけでもあります。否それでおみやげを買ってあげるよ！　夏の旅さえすめば、あとは余りお金はつかわぬつもり。そして右の小包に、「空にさえずる鳥の声」や「春荒城の夜半の月」といったなつかしのメロディ、純日本的なのを加えてくれるとありがたいな。それを学生にきかせたいから、もう２冊くらい。童謡４冊となかしのメロデー２冊というわけになるね。折れないようにおねがいします。岩波文庫だったと思う。日本現代唱歌集といった明治、大正、昭和の唱歌集が私の書斎にあるはずですが、それもついでにその小包の中に入れて下さい。９月の終りか１０月半頃にはつくでしょう。いそぎませんが右おねがい。

〇昨日（２０日）は学生たちと（支那学のも一緒）エルベ河を４時間さかのぼり、３時間ほど林の下の路をあるきラウエンブルクまで大遠足（そこからはるかに東独が見えるところ）あさから晩までたっぷり味わいました。しかし天候あまりよろしからず時々時雨にあい、夏といっても少々さむいくらい、帰ったのが夜の１０時、でもパウルス夫人はこの頃はサービスよく、電熱器を室にもちこんでくれてスープをあたためてのみ、夜の食事をゆっくりたべてねました。今日は金曜で来週の今日で授業はおわり、来週は授業すんでから、上級生３人とヨットボートにのるつもり、ことに快走。

〇冬学期にはいよいよ「日本精神史」を講ずる。この夏の９月、１０月はその準備をするのがたのしみです。

〇大体ドイツ人のものの考え方や対人のいろいろな心のうごきなどものみこめて来ました。私はやはり日本人の方が人間味があると思っています。ドイツも南の小都会でくらしている連中はもっと印象がいいように聞いています。北はとにかくカタイです。

〇近日、酒枝君にあいます。奥田君は８月３０日にハンブルクに来ます。羽田発は８月２９日（火）２２時３０分エア・フランス、ハンブルク着８月３０日（水）午前７時１５分、全く私と同じ飛行機です。彼は正に４ヶ月あとに私と同じ日付に出発というわけです。京都の住所は京都市左京区吉田中大路町３１佐々木方、奥田昌道君です。何かレンラクすることがあったらどうぞ。

◎この手紙のはじめに書いたソノラマと小冊子なら、おたのみしてもいいかと思います。８月１０日頃京都の現住所を去る由ですから、そのおつもりで！　あとから妻子を呼ぶ由。なかなか奥田君の場合はいいらしいです。駒場の我々は奥さんのよべた人はなかったわけで、どうも！……。夏学期も終るとなると急にもう半分はすぎたような気持。とにかく義務の半はつくしたわけですから気がかるくなります。

〇皮の女のジャンパーみたいなものをよく中年の婦人も若い女もきているが、もしそういうのが必要なら考えてもいい。２５０マルクくらいします。指輪よりもいいように思う。どんな色がいいかね。この手紙のようなグリーンの濃いのをよく着ている。それがえび茶色、うた子も清子もそれがよくないか。私はドイツの女をみていて、これはいいなぁと思うね。サイズ、かたはばなど略図で教えて下さい。男もずいぶん着ている。永久的でよい。テカテカしないつやけしのようなおちついた色です。

こちらの学生は学期ごとに大部分変わるので、深い人格的関係はできません。ドイツ人というのは学問の虫みたいな気もしないではないです。自分の目的と主義のためには、人をかえりみないようなところもなきにしも非ず。

では今日はこれで。御キゲンヨー　順子！　Tatsuo

【発信１９６１年７月２２日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

手紙が織物の様に武さしのとは往復するので、郵便配達人が僕の面をみて、ニヤニヤ笑ったりするよ。勿論よろこばしい意味だから嬉しいことだが。道であってもあいさつしてくれるし、時にはみちで、私への手紙をくれたりする。大体朝の１０時頃配達されます。一日一回。畠山さんを小暮さんに紹介したらいいと思う。清子にでもつれていってもらって。おたより（１８日付）の中に畠山さんがいよいよ蝶屋をやめる由。それは神の時だと私は直観しました。もうこれ以上彼女が蝶屋につとめていると、彼女の眼が大変なことになると思うからです。是非、順子からも７月一杯くらいでやめる様にすすめてあげなさい。勿論、電話はダメ。手紙ででも。彼女はつとめすぎている傾向で、それがついに眼医者に通わねばならぬことになったのでしょう。身辺のいろいろな苦杯もある人ですから、東京を抜け出て、福井の兄さんのところへ行った方がいいと私も思います。ゆっくり休んで、結婚するなり、また別なはたらきをするなりが最善です。夏の集会は前便で書いた様に、楽しい思い出のためにも新しい前進のためにもいいですから、順子が一緒に土曜に伴れていっておやりなさい。なるべく前の晩から泊まって一緒に行ったらいいでしょう。母も父もない子ですから、母のようにやさしく愛してやって下さい。愛が一番のくすりです。眼も心配や気苦労がいけません。私のお母さんも過労と心痛であのような悲運になったのでした。時折思っては私の胸もいきづまります、今でも。本当に気の毒なお母さんでした。十字架でした。

〇スピリー、「メフィスト」と一緒にそれでは送って下さい。上田君にはほかに一冊。それから印税が来たら、すぐ教えて下さい。それによって上田君に感謝の意もあらわしたいですから。歌子にはスピーリを一通りやる約束をしてあるので、その様に。お嫁入りのとき歌子は大切にもってゆくでしょう。

〇信雄はこれから出かけるのかい。そういう旅が本当の旅だよ。しっかりやってくれたまえ。たのしくね。

〇照雄、まだ本はとどかないかね。船便は２０世紀むきでないね。しかし、飛行機はまだ価がたかすぎる。もっとすばらしい飛行機ができるまでダメかな。

〇政府が変わったようだけれども、池田首相であとのことがわからない。それくらいドイツでは日本のことはわからない。ドイツ人が日本を知らないのも無理はない。しかし、日本人はもっと自信をもっていいよ。何しろドイツ人というのは自信の強い国民だ。それでひとつにはオラクレルわけであろう。その辺の気持がよくわかる。学生たちと散歩をしたが、彼らは何がうれしいのか、とにかくスタコラ歩く歩く。ゆっくりたのしむことを知らぬ国民らしい。国民感情がちがうね。

〇歌子の御注文のような歌集はない。何しろ無趣味な御連中だよ。少なくも北の人たちはね。ではまた。

Junko-san！　あだちさん（ロンドンの）から連絡がありました。いずれ９月頃にでもロンドンへと思っていますが、マルイもののカンケイでどうなるか。

【発信１９６１年７月２７日／小池順子様及び武蔵野集会御一同様／小池辰雄（ハンブルク）】

主にあって信愛なる武さしの幕屋の兄弟姉妹。いよいよ１９６１年夏季特別集会を箱根で迎えられる日が近づいて来ました。皆さんと共に私の祈りの魂は参加いたします。その頃、私のからだはハイデルベルクからノイウルムで碧巌録を独訳中の老大家グンデルト先生のところへおうかがいしている頃、先生と快談しながら君たちのことを想います。それから直ちにボーデン湖をわたってあこがれのスイスへ入ります。旅のたよりは幕屋へあてて書きますが、次の集会（秋の第一の）まで待って、楽しみにして下さい。夏季特別集会での第一のことは、深く祈ることです。皆信愛しているなかまですから、決して遠慮なく祈祷会を夜に充分たましいをこめてやって下さい。各自が夫々の意味において何か新しき踏みこみをなさるように切に祈っています。こちらにいてつくづく思うことは、今のキリスト者は殆ど皆、祈りが足りません。使徒たちや預言者たちの祈りの次元や質に肉迫して下さい。否、おさなごの魂となればたやすく彼らをものりこえ得るでしょう。私がこちらで一番うれしいことは、幼児の顔をみることです。それは私に天国的霊感です。あとはすべて私の心をみたすものはありません。聖霊のみちあふれた人には一人もぶつかりません。どの説教や講演をきいても百尺竿頭一歩をすすめていません。どうかあなた方は十方世界に提身、みたまの自由と歓喜と、力と光と生命と愛の宇宙に、主の絶大なる光愛の中にひたりこんで下さい。それが火花して身体中をつらぬかれると秋のあなた方のすべてのいとなみに原動力となって豊かに展開します。コリント後書第３章１７節、１８節を大書して掲げ、集会を進めて下さるようお祈りします。では皆さん、御元気で。御名をたたえつつ、ハレルヤ。楽しいチーム・ワークでなさることを確信してよろこんでいます。小池天鐘

【発信１９６１年７月２８日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

順子！　今は７月２８日午前０時というわけだ。東京を出たのが４月２８日、満３ヶ月が経ちました。これで４分の１がすぎたわけ。夏学期は今日の授業ですべてを終ります。こちらの義務の半分が終ったわけ。感謝々々。これから３ヶ月が夏休み、それが終れば半分がすぎたことになる。そうなればあとはトントン拍子。ところで夏の旅行は大体次の図のようなプランで歩きます。ウィーンゆきはやめた。あまり無理となるから。来春帰りによれないことはないけれど。あまりよくばると無理がいろいろな意味で出てきてよくない。８字形周遊旅行。この線上ならどこで降りても、急行にのっても急行券も要らぬ由。大体２００マルク２万円というわけで安い。一番たのしみにしているのは何といってもスイス、その次はライン、この二つを見るのだからあとはどうでもいい。

Hamburg (8月7日)→ Göttingen(7日)→ Marburg (7日～8日)→ Frankfurt(8日～9日)→ Heidelberg (9日～10日)→ Sttutgart (10日～11日)→ Neu-Ulm(11日～12日)→ Friedrichshafen→ Bodenseeを船でわたる → Zürich (12日～14日)→ Interlaken (14日～16日)→ München(16日～18日)→ Regensberg (18日)→ Nürnberg(18日)→ Erlangen(18日～20日)→ Würzburg (20日～22日)→ Frankfurt→ Mainz(22日～23日)→ ライン河をこの間を舟でくだる。ラインで一番美しいところ → Koblenz(23日～24日)→ Bonn(24日～25日)→ Köln(25日～27日)→ Hamburg(8月28日)

この旅のコースは集会のみんなに６日にしらせて下さい。別の紙に大きく書いて。８月７日に出るので御返事をすぐ書いて下さい。ちょっとうっかりしていて時間がたりなくなりました。

私は人間よりも自然の方が楽しみだ。人間は日本人がいい。こちらであった神学教授連はティリッケ、ティリヒ（この講義は一番きいた）、トルナイゼン（日曜のはなし、禿のオジイサン）クルト・シュミット(これもはげのおじいさん)、もう一人のわかいシュミット、皆勿論学識は大したもんだが、福音の真理のほりさげは何としても一歩手前である。質からいうと仏教の高僧の方が上だ。パウロやヨハネのつかみ方でも結局、聖霊内住からの迫力がない。日本人、東洋人の深みへの可能性は彼らより上である。世界的水準も（宗教の）こんなものかと思った。あとはこっちは勉強して必ず百訳をはなちたいと思う。冬学期の「日本精神史」は私のこちらの本当の仕事、９月、１０月はその準備。それで念のためおたずねするが、

〇藤井武「聖書より見たる日本」はたしかに送って下さったですか。これは是非必要。もし未だでしたら至急送って下さい。船便でよろしいから。（単行本のか、選集の中の）大したカサにはならないから奥田君を羽田におくる際、おたのみすれば確実にはやくてありがたいから、未発送のものはそうして下さい。その際に細筆も一本おねがいします。ヴェンク先生にあの矢立にそえてあげたいから。

〇森鴎外の「ファウスト」第一部、第二部（岩波文庫）書斎にあり。

〇「終末的実存者」小池。

〇「無教会神学論」小池（三一から出した小さい本）。

〇日本唱歌集（岩波文庫）書斎にあります。

箱根の集会に順子も参加はうれしく思う。楽しく且つ真剣ないい会がもてるでしょう。

７月１３日以後は書かなかったらしいね。略そう。荷物が来て大安心。カンタンにすんだ。ハトバにも税関にも行かないで、３７マルク位ですみました。別にかわったことはありません。本を買ったり、辞典をかったりでした。「羔の婚姻」もよんでいます。

照雄の誕生日にエハガキをおくっておきました。みんなでたのしく御チソーをたべたかね。畠山さんから１６日はたのしかったとうれしそうに書いて来ました。時折とめてやりなさい。眼を小暮さんにみていただいたかな。

エーデルヴァイスのくびかざりはどれくらいのねだんだか知っていますか。

日本の飛行機がこちらでついらく。人命は助かってよかった。

＊

〇安藤君への３万円（２７００円）はどういうようにしましたか、まだ無理ですか。

〇この夏はどっかに行こうとしてもむずかしい様で、お気の毒です。まぁ御馳走でもたべてよく眠って下さい。映画もいいでしょう。

〇おばあちゃんお元気ですか、よろしく！

〇小犬は来ましたか、世話も容易ではない。こちらにも小犬がいてときどきソソーをしては、「悪い犬！」と叱られたりしています。

〇旅費は（夏の旅の）間にあうつもり、ただ予備としてアタカさんから５００マルク借りるつもり。それは兄さんにたてかえてもらいます。東京のアタカから兄さんの方へ請求するようにして。いずれ兄さんにおたよりします。本当に借りてから。

〇ロンドン・パリーは９月に行けたら（スカンジナヴィアも）せめてコーペンハーゲンだけは行って来ます。アムステルダムも。

〇新田君という研究生夫妻が二度ばかりよんでくれて日本食をたべました。勿論おみやげをもって行きました。

〇長坂君がルノーを買った由。大したもんだね。

【発信１９６１年７月２９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

〇昨日２８日夏学期終了。授業後上級生とヨットにのった。一度ものすごい風がきて、ヘタをすれば転覆のスリル。ざぶんと波しぶき、水は舵すれすれ。あとから大笑い。何しろ学生諸君と楽しくくらしたよ。手前みそだが、私の評判はよい。学生もにげていったのは一人もいない。終りまで皆ついて来た。冬学期はおしらせした通りにします。研究室にとじこもってやりたいくらい。宿が遠いのがやはり欠点だが、この月給（手取り７２０マルク）では町の中のパンジョンじぁ暮らせない。三度の食事のことなど出来ないし。

〇さて今日は主任教授ベンルさんに挨拶をした。その際、私としては未だきりだすのがはやいと思っていたら、むしろ好意的にすらすらとはなしてくれて、来年も駒場から来てもらうから、駒場の主任にどうぞお伝え下さいということで、全く去年の安藤君とちがってきわめてトントン調子に事がはこんだ。それでさっそく菊池さんにそのことを今日しらせました。これで私の駒場に対する責任もはたせたわけで、全くうれしい。気が楽で、旅行もできる。ベンルさんもヴェンクさんも気持よく私に対していてくれている。私がドイツ語がうまいという評判らしい。今日もそういっていた。教授たちが学生間の評判などをきいているとみえる。また教え方もいいらしい。自分では正直まだまだと思っているけれども。しかし教材はよかった。あの小学校の教科書と、私がさがした文法の本や参考書もよかった。冬はもっとハリキッテやるつもり。

〇さて８月７日からの旅費が足りなくなると困るので、アタカの石山栄蔵さんから今日３００マルク借りた。これは東京で兄さんから石山さんの留守宅へお返しすることにお約束した。２７０００円です。ですからその現金為替などのことは、兄さんからお金をいただいたら、でやってあげておくれ（さっそくお電話で兄さんに連絡して下さい）。東京都練馬区中村南、石山コト様です。送金のあとで電話をかけてお礼を申上げておくれ。石山栄蔵という名であるはずです（これは私が帰京してからお返しする）。

〇安藤君に今日手紙を書いた。そして、６００マルクの中、２００マルクを私がいただくこととして、あと１００マルク分、クリスマスの頃お返しすることにした。順子が既に３００００円お返ししたから、４００マルク×９０円＝３６０００円－３００００円＝６０００円。あと６０００円を暮のボーナスをいただいたら、すぐその中から即ち暮に６０００円をお返ししておくれ。即ちＡ君３分の２、私が３分の１としたから、彼が半々といったのをこの様にしたからよいと思う。折角の好意もうけ、合理的にした。勿論安藤君に帰ったら、然るべくお礼はする。

この手紙は親展。駒場のことは公になるまで言わないように。

〇信雄君のブレヒトの本は独乙語で何というのか。さがしてみるけれどね。たのしそうなアシスタントが出来てよかったね。一生懸命やれば、よいことになるよ。とにかく対人関係はあかるい好意が大切だね！

〇照雄君の講習会はどこだね。有効に学んで下さい。講習会を有効にするにはやはり自分でしっかり消化することだね。

〇椿山荘の写真をみていろいろたずねられたし、シキリにＮとＴのことをエネルギッシュな青年だといっているから、大いにエネルギッシュにやって下さい。清子、うた子、ケイコさんのことを美しい美しいとほめていた。兄さんと私はチットも似ていないそうだ。人がよほどおかしくみえてみんな笑う。

〇７月３０日、総領事中川さんの送別のパーテイ。

〇８月３日、総領事官邸で懇親会、レイフクでよい。

〇歌子チャンも休暇がとれるようでよかった。ゆっくり休みなさい。無理のとりかえしに。では、御キゲンヨー。

【発信１９６１年７月２９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

本日７月２８日（金）授業終り、上級生３名とヨットを浮かべました。なかなかスリルもあり面白かったです。写真がよくとれていたらおくります。旅行のことは今朝の手紙で書いた通り。晩にクンメル君という学生が奥さんと二人で鮨をにぎるから食べに来なさいとさそわれて、アパートをたずねて御馳走になりました。彼は東京で鮨屋と仲良くなり学んだそうです。百万長者のむすこにドイツ語を教えてくらしていた由。なかなか要領もいいわけ。日本語もかなり達者です。帰宅したら小包到着。小暮君に感謝のよろしくをおつたえ下さい。その中にドイツのカレンダーが入っているのでビックリ。日本からドイツのカレンダーが来るとは思わなかった。この間は英文のドイツ事情の本、あれはアタカの石山さんにあげました。彼がドイツ語がよめずちょうどほしがって居られた様な本でしたから。時折お世話になるので御礼の気持もあったので。本月の小包の中に無教会の本（雑誌）がかなり入っていました。それから朝日ジャーナル、送料も大したものでないから今後もおくってもらうことにしようか。大切な記事はキリヌイてもって帰ります。『余はいかにしてキリスト者になりしか』（内村鑑三）はあったが、藤井武『聖書よりみたる日本』は次の便ですか。これはしばしば言うように冬学期の講義の大切な参考書ですから是非送って下さい。未だでしたら奥田君にたのんで下さい。

４月２０日の結婚の写真なかなかいいと思うね。当人二人がよくとれているから何より結構。いずれ得雄に書く。北海道へは清子と二人でいつからいつまで旅をするのかしら。（「茨城歌人」も有難う、「架橋」も）。団藤先生御夫妻は全く対照的にとれたですね。兄さんはやはり一番福徳円満だな。人柄はあらそえない。間野君すっかり丈夫らしく何より。中村さん（九州の）からお返事のたよりをもらった。時々中村さんは熱を出すが薬ののみすぎや、あまり味のつよいものはやめた方がいいだろうと思うね。

無教会の雑誌をよんでいると、猛然と闘士が湧く。まだ３０年は死ぬわけにゆかぬ。８０まで戦う。それからはゆっくりくらす。百歳まで。一切のパリサイと戦い、すべての人間らしいたましいとは心から交わりをもつ。日独両語で火の出るような神学論説を書くこと。小池訳新約聖書。東西の偉大な思想をうちに渾然ともった大詩篇をかくこと。この三部曲を全うするためには、あと３０年を要する。真に偉大な魂は独りで戦う。これからはいよいよ敵がふえるだろう。そのかわり真の味方も出来る。哉なり！　夏学期の最後の日、神の御祝福を身に感じつつ感涙。順子もこの戦を愛をもって助けておくれ！（７月２８日）

この間、昭和の山本サン（あの耳鼻科の）におあいしました。味ツケノリをいただいて恐縮。かつてお世話になったんだから折があったら、ちょっと御挨拶をしてもいいね。まだしかし旅行中でしょう。秋にひまができたら昭和大学病院々長さんだからデンワをかけてお礼をのべておいて下さい！

椿山荘の写真をパウルスさんに見せたら、信雄や照雄をエネルギッシュな青年だといっていた。日本からドイツのカレンダーがくるとは思わなかった。感謝。昨３０日は総領事がガーナに転任するので、送別のパーテイがある。８月３日には総領事にまねかれている。

はじめてあのゼミをきるわけ。ハンブルクは相変わらず夏知らず。８月７日以後はしばらくたよりはいりません。だからこの手紙に対しては返事はいりません。奥田君の住所は京都市左京区吉田中大路町佐々木方、奥田昌道君。はやくださないとうつるらしい。

独乙とスイスを旅するのもたのしみだが、９月、１０月の読書と研究と執筆も楽しみ。

木村さんから順子に西の集まりへ来て下さるようにとのコンガンであったが、これは前便の如くお断りしていい。無理だから。箱根の集まりはたのしく。木村さんが箱根の集まりに出たいといって来たが、誰からかきき及んだのだろう。こんどはうちわの会だから、あの様な先輩が入るとみんなの気分に影響するだろうから遠慮してもらう。

奥田君の出発は８月２９日午後１０時半羽田発！　私のエアフランスと同じ。奥田君はこちらで御馳走するから別に心配しなくていいでしょう。あのコンブのつくだにを少しお分けしたらいいでしょう。

主イエスよ、みたまを以て　Junko！　１９６１年７月２８日　Tatso　我らを力づけ百戦一貫せしめたまえ！

【発信１９６１年７月３１日／小池順子様　歌子様／小池辰雄（ハンブルクより）】

７月の最後の日、大変お天気がよく、飛行日和の空をアムステルダムからの上田先生を空港にお迎えしました。ほかの日本人と一緒にタクシーにのりましたが、その人が林町９４番地の人で昔私が住んでいた正にその場所。奇遇を感じたりしました。上田先生からすばらしい飲物を二本いただいて（ジョニーウォーカーとシェリー）、冬の寒さをうちがわからあたためてふせぐことができます。大変お元気でうれしくあります。今ビールをかたむけて御旅行の幸を祝福しているところです。

先生に空港までお迎えいただき、無事パンジョン〔寮、下宿、宿〕に落ちつきまして、御一緒に近くのＤａｍｔｏｒステーションの食堂でおいしいドイツビールで祝杯をあげました。今日は天気に恵まれ、機上から景色をたのしめました。幸いに宿はアルスターという湖のほとりで、先生もヨットに乗られたとか。すばらしい街です。先生へのプレゼントはアムステルダム空港の有名な無税売店でかったもので、金額ははずかしいものです。

それからあとで植物園の有名な噴水の夜景をみたよ。音楽と共に色彩が虹のようにかわる。このエハガキは港が見える一角の住宅地。

【発信１９６１年８月１日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

いよいよ８月にはいりました。昨日３１日、パウルス夫人に空港までアウトで送ってもらって（彼女はすぐ帰る）、待っていると、アムステルダムからのジェットとプロペラまじりの中型飛行機がとんで来た。楽に滑走してついた。上田さんを迎えた。彼と同じ飛行機でもう一人の日本人（奥さんと女の子をつれて）もいて、みんなでタクシーで、それぞれの宿にむかう。車内でその人を話をしたら、小石川にすんでいるというので、私も中学校のとき小石川林町９４番地にいましたといったら、その人は全くビックリして、私は実は同じ番地にいるのです！　何たる奇遇かと思った。日本へ帰ったらたずねたいと、握手をしてわかれた。どこかの会社の人である。このはなしは荻窪の兄さんにしておいて下さい。驚きよろこぶでしょう。７月２８日のヨットの写真をお目にかける。

今日は上田さんとハーゲンベック動物園へ行った。天気がよくて、久しぶりで子供の気分を味わった。タクサン子供が来ていた。象にのったり、さまざまである。なかなか広くてくたびれた。動物そのものは大したことはない。上野の方が勿論種類は多い（上の方に同じようなことを書いた。今日は８月３日これから総領事館へまねかれてゆくところ）。あしたは上田さんが私に支那料理をおごってくれる由。なかなかよくしゃべる人です。カトリックだそうである。８ミリをもっていてさかんにとっていた。スイスでは私もカラーをとってくる。ドイツでもハイデルくらいはとってもいい。問題はコストの関係でそうそうフィルマ（会社）の人のようなまねはできない。上田さんはいろいろな会社の後援があるのでなかなかゆったりしているらしい。お医者さんではあるが産業農薬の関係である。（写真機はこれで通します。上のマドでとると１６枚とれて、しかも１枚が３０Pf.ということをやっと知った。そしてこれでカラーもとれる。カラーはスイスだけのつもり）

木村さんから（夢庵氏）度々、順子に是非きてほしいといって来たがそれは順子の主体性をまげることになるから、断っておいたい。順子は社会活動関係、教育委員としての義務上、だめであるから。北村さんか誰かにすすめて下さい。勿論各人の自由だから、決して無理じいをしてはいけない。そういうところは独乙人はハッキリしている。「ナイン！」と断る。それはドイツ的でよろしい。

上田君と動物園をみました。天気がよくてよかった。上野の動物園の方が上だろう。何しろこちらは夏といっても暑くないから、熱帯動物は元気がない。東京はすごく暑いようだね。ゆっくりやって下さい。グンデルト先生から返事があって、よろこんで待っているとあった。宿屋の世話までしてくださった。旅の半は知った人にあうから、また紹介された人にあうから、気は比較的楽です。この船上の写真はネガを送るから、高森君にレンラクして焼き増しをして然るべく希望者にわけてよろしい。

では今日はこの辺で失礼しよう。

順子様　　　 辰雄

＊

箱根における武さしの幕屋の兄弟姉妹、及びこれに偶々参加して下さる兄弟姉妹！（出発前のおわりの手紙）

箱根の山間湖畔での皆様の夏季特別集会を心より祝福し、主の深きまた高き御恩寵と御栄光に浴して下さる様切に祈っています。２０世紀後半がどういうことになるかとの憂いは、数年前からもっていましたが、次第に世界の空模様が険悪になって来ました。ハンブルクにいてベルリンが空路１時間余の身近なのでなお更その感は深くあります。今は多くを語りたくありませんが、人類の各国家、各民族、そして各社会、各人のつぐのいがたき存在であることを知らしめられ、聖書を貫くあがないの大救済の道のほかに救の道なきをつらつら感じ、救われてもパリサイになる救われ方のいかに浅き教会史であるかも思い、今や救いがいかにつねづね申している如く、十字架の下におけるみたまのバプテスマを必要とするかを思います。この一如一貫の相を全身をもっておさなごの如く受けとり、ますらおの如く皆立ちあがって下さい。天来の光と生命と愛と明知渾然なる実存を賜って下さい！　箱根の集会の深さと静けさとは湖水の如く、自由と神韻は空ゆく雲の如く、力と光は雷鳴の如く、愛と平和は野の草の如く、あるように！　共に西北の国から魂をもってつらなります。来春は必ず帰朝しますから、この念願の成就のため心をあわせて祈って下さい。新しき聖戦を共にいたすべく！

奥田昌道君をハンブルク空港にむかえるということになります。ではしばらく。

【発信１９６１年８月１日／小池順子様並びに武さしの幕屋諸兄姉様へ／小池辰雄（ハンブルクより）】

このエハガキが６日につかなければ、夏季集会で御あいさつというわけです。

〔註：「8月11（金）、12（土）、13日（日）と３日間に亘り、箱根芦ノ湖畔の成蹊大学の寮を借りて、武蔵野幕屋の内輪の特別集会を開きました」〕

いよいよ８月を迎えることになりました。昨日はこちらの総領事歓送の意味で日本人会をかねてはるか北方のシュロスホテルで園遊会あり。そこまではじめてアウト・バーンをこちらのＤＫＷというアウト〔自動車〕にのせてもらって快走。１２０キロというスピードで文字通り風をきって走りました。そのうちに長坂君も味わうでしょう。森田、北村、三瓶、畠山、梅田の諸姉からの最近のおたより有難う。誰から来ても、みんなからのと思ってよんでいます。カンシャ。高森君からみなさんのスナップ写真とおたより、うれしく拝見。むさしのが皆なかよくやっているのは本当にうれしいです。この前の重要なたよりをよく読んでください。では特集、誰でも楽に御恩寵にしたって下さい。天鐘。

【発信１９６１年８月２０日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

８月７日にハンブルクを出発した夜は今日８月２０日を迎えました。この地図のように汽車発行をしたわけです。殆ど各地からおたよりがとどいていると思います。身体はつかれていません。宿ではよくねむりました。ところどころさがしいところもありましたが。車中で一番不愉快であったのはミュンヘンへザンクトガレンからくるときでした。国境でちょっとカバン（手さげの小さい方）をしらべられました（車中）、勿論ＯＫです。大きな方にちょいちょいおみやげものが入っていました。ほかのドイツ人は心得たもので、何も買ってこないなどとウソをいったりしていました。なかには丁度そのときをみはからって荷物をタナにおいて、Ｄ列車ですからローカにでてしまっているのや、ベンジョに入ったきりのもいました。それからあとである夫人の前のマドギワの席があいたから、そこへかけようとしてちょっとことわったら、そこは自分がこっち側に来たりそっち側に行ったりするのだがそれでいいかなどという。ズブドイことをいうから、それなら結構だといってやりました。そういうガッチリしたツンとした婦人くらいシャクにさわるものはありません。その後こんで来たら他のドイツ人がさっさとこしかけ、これには何もいわず結局そのままそこに坐りどうしていました。何とあつかましいやつかと思いました。

そうかと思うと非常に親切なおじさんが他の中老の婦人にさあさあここにおかけなさいといってゆずっている光景もありました。列車の中でじっとみていると、他国人の心のうごきもわかります。こっちはバカな様なトボケたような顔をしていると面白いものです。そうかと思うと、清子や歌子みたいなのが入って来て友人と駅でわかれるとき、ハンケチをふったり、泣くまねをしたりして笑ってわかれたり、日本でもあなた方の年配の乙女たちはそんなですといったら、笑っていました。ミュンヘンの大絵画館と大博物館はすばらしく、前者は二回みました。おつたえすることは山ほどありますが、とても書ききれないのでやめます。

エアランゲンに１８日につき、杉山君と国松君に迎えられ、この学生宿泊所（１泊２マルクという最低額）にとまっています。それでも居心地はわるくない個室です。昨１９日はニュルンベルクの見物、大教会は殆ど各都市でみて、どれがどうだったかゴッチャになりそうです。とにかく、どれもどれも建築物とその内側のいろいろなとりつけは大したものです。我々のは本当の幕屋の名にあたいします。いずれまたエハガキで。そろそろ奥田君にあえるときが近づいて来ました。私は多分２７日に帰飯の予定。

Hamburg (8月7日) → Göttingen(7日) → Marburg (7日～8日) → Frankfurt(8日～9日) → Darmstadt (9日～10日) → Heidelberg (10日～11日) （アウト）→ Stetten→ Sttutgart (11日～12日) → Ulm,Neu-Ulm(12日～13日) → Friedrichshafen （Bodenseeを船でわたる）→ Zürich (13日～14日) → Zwig → Luzen (14日) → Bern (15日) → Interlaken,Lautebrunnen,Wengen (15日) → Luzen (15日) → Zwig → Menzingen(15日～16日) → Zürich → St.Gallen(16日～17日) → München(17日～18日) → Nürnberg(18日) → Erlangen(18日～22日) → Coburg(20日) → Bamberg(21日) → Nürnberg → Würzburg (22日～23日) → Frankfurt → Mainz(23日～24日) （ライン河をこの間を舟でくだる。ラインで一番美しいところ） → Koblenz(24日) → Bonn(24日～26日) → Köln(25日) → Hamburg(8月27日)

奥田君におたのみする品、いつかの如くたのみますよ。彼が来たら勿論、ハンブルクでおごるとします。彼もヨーロッパの空がおかしくなって来た頃、渡独では少々ぶきみで気の毒な気持もします。来たら、互いにレンラク相助けたいと思っています。私は人生の大半は終った人間ですが、彼はこれからですから、彼が守られるように。

万一のことがあっても、順子も歌子も信雄も照雄もそして小暮君の清子も皆、よく相助けて戦い抜いて下さい。私としては勿論、帰京を信じ、神の助けを祈っています。戦争というものはどういうクダラナイことでもキッカケとなりますから。そこには真の理性がはたらきません。権力意志がはたらきます。一般の国民はそのために災難です。どうか世界の政治家がそういう愚をもはやしない様に！

私としてはこれから本当の仕事を１０年間はしなければならぬ天職を感じていますから、神はそれのため護って下さることを信じています。１００％祈ることをおねがいします。

信雄君は旅から帰って来ましたか。照雄君はあつい夏は余りガンバラないでよいからよく眠って秋からのヘビーがきくように。

歌子チャンへこちらの乙女からハガキでもいったかね。エーデルワイスはお姉さんと二人にかったから御安心。それではお元気で。ほがらかに！　また書きます。今、杉山君が迎えに来たのでこれからバンベルクへ行きます。

順子様 辰雄

【発信１９６１年８月３１日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

順子様。既報の如く２６日帰飯しました。大旅行でした。三人の牧師さん、三人の友人、二人の学生の家族、グンデルト先生とその親戚、ブルンナー夫人、等々の歓迎をうけて極めて快適な旅をしました。しかし天候はあまりよろしからず。夏の休暇で旅客多く、もしこのことを考えたら、９月の方が汽車はこまず天候は好転ということで更によかったでしょうが、友人関係はこの度ほど恵まれないでしょう。ともあれ、心から感謝しています。ただケルンからハンブルクの車中で車掌が私の周遊券は期限きれで無効、且つ切符が（数枚をみて）不足であるからケルンからハンブルクの３７マルクを払えといってガンとしてきかず、カントクまでやって来て私を責めました。私はしかし、そんなはずはない、私はこれこれしかじかの切符帖であることを確認している。現にケルンの駅員もこれを「正しい」とみとめて改札してくれたわけで、あなた方のいうことは理解できないといったが、相かわらず、むしろ冷笑して「払え３７マルクを」という調子、そして周遊券にバッテンをしてとりあげたから、私はとにかくそれは私のものだし、記念にとっておくのだから返却せよ、払うことは払うからといって取り返しました。車中まことにフンガイにたえず、乗客は勿論、車掌が正しいと思って誰も私の味方をしようとしなかったが、私の前にいた女の子が私を心配して、筆ぴつで走り書きして「ハンブルクについたらこれを駅員にみせて下さい」といって次とまる駅で降りていった。私は勿論その女の子に心に感謝しました。もっていたチョコレートをやってサヨナラしました。私はハンブルクで降りて、改札口で（女の子の書いたものは見せませんでしたが）これこれしかじかと説明して、×印をされた周遊券と３７マルク支払った証明とを見せたら、私が正しく何も無効の周遊券ではないと言ってさっそく上役に見せ、上役は更に特定の係員のところへ私が行く様に示し、私はそこで私の署名とその係員の署名のもとに周遊券と３７マルク支払証明書とをシュトットガルトの本局に送付。金の返却には約１ヶ月かかる由し。そういうアキレタ目にあいました。ドイツ鉄道省がもし返却しなければ、どこまでもネバルつもりです。交通公社でも勿論、そんなバカなことがあるかと今日私の味方をしてくれています。車掌とカントクの責を即時追及するか、名前をしらべてもらってもよかったです。とにかく、むしろ当局は私に謝罪すべきであると思っています。私があまりめぐまれた旅をしたのでサタンがねたんで最後に悪いいたずらをしやがったかと思います。

◎ついては「メフィストーフェレス」を送ってくださって有難う（送本については得雄君にくれぐれもカンシャのよろしくを）。ところで「メフィストーフェレス」がまだそちらに何部のこっているか知らないが、左の諸君に手渡しなり、印刷物として郵送なりして下さい。左の順序に従って（もし部数不足の場合は）。充分あれば順序不同で結構。相手の名を表紙に書いて、私の名も書いて小池辰雄（代筆）としておいて下さい。「君」「先生」「さん」でいいです。

１上田豊三君、２高森寛君、３小暮得雄君、４田崎秀君（茨城県笠間市梅ヶ枝町）、５石本岩根先生（福岡市三宅南大橋町）、６市川喜一君（京都市北区小山花ノ木町）、７三浦真照君（市川君と同封にて）、８伊東昇太君（渋谷区恵比寿西、彼から昨日お茶とオセンベーと梅干を小包でもらった）、９打田畯一君、10高橋三郎君（神奈川県川崎市生田、登戸学寮長）、11三瓶洋子さん（独乙語がよめるから）、12二神万里子さん（独乙語がよめるから）

信雄君によろしく、旅の行演のはなしをききたいね！　くだぬことを書いてすみません。

『聖書より見たる日本』たしかに。全集を破ったね。ほかになければヤムヲエナイガチョットオシイナ。

〇次の旅行はちょっと思案中。でかければ飛行機でパスポートがあるから、ウィーン、パリー、ロンドン、アムステルダム、と旅をしたく思います。こんどは専らドイツ以外。

〇スカンジナヴィアは来年の春と腹をきめました。

〇足立さんへのスカーフは、こんどの旅でみんななくなったから、ドイツでいいのがあるから買います。あのフクロアミはとってあるよ。味の素もあります。

〇こんどの旅でチョットしたみやげものは買いました、日本への。とにかく、一切ガッサイ千マルクかかりました。やはり、３００マルクを工面してよかったです。

〇今日、奥田君、快晴（めずらしい）の朝エアフランスで到着。飛行場で出迎えました。すべて世話をしてあげて、宿におさまり、つかれているから、４時頃まで語ったり、歩いたりしてサヨナラした。レコード４枚（パウルスさんに渡し１０マルクもらいました）、アリガトウ。

〇テープ、筆２本、本等すべてカンシャ。３１日、９月１日と奥田君とくらすつもり。御馳走します。９月２日に彼は立ちます。

【発信１９６１年９月１３日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

９月９日重陽の日に投函の皆のおたより１３日の午（水曜の午後はいつも入浴）入浴後にゆっくり拝見。まず要件からお答えしましょう。

○広井先生退官（おそらくこの先生は私たちが中学時代にならった最後の先生でしょう。よくおぼえています。気持のいい人でした）記念事業の寄贈は、それでは２口（千円）あげて下さい。記念文集２００円もおねがいしましょう。

○「メフィスト」は、私が書いただけありましたか、有難う。こちらへ送ってもらったのは届き、幾人かにわけました。（スピリは送らなくていいです）。念のため。

○子持山はどんなことをしたか知りませんが、御苦労様。

○水高第四文乙会の件、たよりを出します。１０数名位の集まりでしょう。

○関根教授を迎える件、ホテルがきまっているので気が楽です。ただし、私の今の予定では、ロンドンのあだちさんがその頃ロンドンにおられるので、パリ～ロンドン～アムステルダムの旅を１０月６日ころからしようと思っていたので、ちょっとこまりました。できたら、私のをすこしずらせてお迎えしたいですが。飛行機でパリ～ロンドンの順に飛ぶつもりでいますが、この頃、頻繁といいたいくらい飛行機事故。しかも全員死亡などいういたましき記事をみるので、金がまにあったら、列車にするかなあとも考えています。飛行機は事故となると文句なしの第一巻の終わりで、冗談じゃありませんから。

○駒場の学友会の「学園」という雑誌に書いてくれとの依頼あり。今日、このたよりと同時に原稿を空輸します。駒場祭のころできる由ですから。駒場に電話して一部送ってもらったらいいです。ハガキでもいいです。目黒区駒場町８６５、東大教養部、学友会機関紙「学園」編集部吉野光久君宛。同君はＬ２-３組（６０年度入学）２年生、私の担任だったクラスの学生です。ドイツにも一部送ってくれると思いますが。そのとき一言書いておいて下さい。もうさっき封して書きませんでしたから。

○歌子チャンの八岳散歩はよかったね。全く人生の春というわけだ。こっちのパウルスさんのところの次男がこの間婚約をして、よく行き来している。どうも熱すぎることもある。歌子チャンも抱負をもって勉強しなさい。

○信雄君は劇団の常任委員長になったって、大変だね。若年だからやりにくいかとお察しします。しかし信望があって結構、自重してやって下さい。しかし身体に無理がいかぬ様に充分注意。睡眠時間は必ず一定量だけとるように！　「世界の変革より自己の変革が先」全くその通り。貴君の考え方の正しいのをよろこぶ。内村鑑三、藤井武、パスカル、ケルケゴール、ドストエフスキー、トルストイ、ダンテ、ゲーテ、印度のラダ・クリシュナ、スイスのバルト、ブルンナー、フランスのロダン、ロマンローラン、ベルジャエフ等、とにかく、たましいの迫力をもった人間の言説に耳を傾けること。そして聖書をドラマ（神の救済の）として――教訓としてではなく――把握すること。ヨブ記、旧約の預言書、とくにイザヤ書、新約福音書、ロマ書などをよくよむこと。やはり劇にしても絵にしても今はあるゆきつまりだろ。これはもはや真の人間性の自覚とそれを生かす道によらねば乗り越えられないところに現代は来ている。イデオロギーではない。人間を救うものはたましいの根底から人間性を生かすものでなければならない。深く愛の念願とその行為のみが人を生かす。熱情をもってそのような創作をしたまえ！　敵も味方ももはやない。真に一切のイデオロギーにも拘らず、人間愛の力のみが救いであります。これは宇宙の大霊（神）のふところに投入するていの魂に燃えてくる愛の火である。信雄も集会に出てごらん。何か共感するものを感ずるだろう。

そしたら、お父さんの雑誌をしずかによんでごらん。案外、燈台は近くにあることを知るでしょう。ある光がたましいにさして来たら、源泉をみつけたら、君が古典的なものをよんで、あらたに君の中に創造的なものがいずみしてくるよ！　第三次大戦はくるかも知れない。それほど人間はバカげたところへ向かいつつある。それは人間は人間自らどうにもならぬという存在だからだ。自己を大源者に投げ出すまでは！

人間それ自体実に劇的な存在だ。これを救うのは現在のようないわゆるキリスト教でも仏教でもなく、実にその根源に現にはたらいている実在にふれるこのほかにない！

○照雄君、文三〔東大〕を受けるつもりでやりたまえ。しかし重点を語学において、力が分散するようだったら、外語大だけでもいいが、心配せず、無理でなければ文三を目標としたらいいでしょう。本年中に大体見当がつくでしょう。

○お母さんの皮膚病はお気の毒ですね。タデシナへでも行けたらよかったのでしょうが。秋が早くくるように。

【発信１９６１年９月１８日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルクより）】

東京の台風には驚きました〔第２室戸台風のことか〕。家の屋根は大丈夫だったかね。こっちの新聞にも死者の数や、流された家の数などつたえられている。気の毒なことだ。幕屋の連中に被害はなかったかしら。みんなによろしくつたえて下さい。安否を気づかっていますから。畠山さん無事に立てたかしら。家に泊めてあげるようにしたそうだね。彼女からそう言ってよろこんでたよりがあった。

これは奥田君にとってもらったフォトをエハガキにつくってみた。ちょっとわるくないだろう。これはこんどの「曠愛」誌の扉にしたいと思っている。近日原稿を空輸します。

〔註：『曠野の愛』第３６号、1961年晩秋号にこの写真が掲載されている。１９６１年晩夏、ハンブルクのアウセン・アルスター湖畔に立つ姿を奥田昌道氏が撮影している。「日本学ゼミナールからは数分も歩かないで、アルスター湖畔に出られ、ビンネン・アルスター湖とアウセン・アルスター湖の間に美しい芝生の丘があって、この芝生は立入禁止でないので、私は天気のよい日はよくここに腰をおろし、いろいろ冥想にふけり、想いを日本の皆様に馳せます。特に夕景が何とも言えません。私の最も好きな冥想と祈りの岸です。本号、扉の写真は、８月３１日に、こんど渡独された信友奥田昌道君（京都大学法学部教授）に私の写真機で撮ってもらったものです。……奥田君とはこの日、湖上にボートを浮かべ、日没まで愉快に漕ぎまわりました。あんな美しい夕景はこちらへ来て始めてでした。彼はやがてケルン大学で研究員として生活されます。〕

【発信１９６１年９月２２日？／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

武さしの幕屋諸兄姉

１９６１年９月２２日は小生の長兄政美召天４０年、幕屋開始２１年。１７日にその記念の意味の特別集会を片井君夫妻の盛岡歓送、畠山姉妹の柿生歓送をかねてなされ、心から感謝いたして居ります。東京とドイツは時差８時間、そちらの午前１０時はこちらの午前２時、大抵は夢路でありますが、時には床の上で祈ることもあります。一週一回のことですから。少なくとも、ねるときは必ず祈って集会を思ってねます。

夏季特別集会（箱根の）の録音すべて拝聴。この宿の私の室にてトランジスターで。まことになつかしく髣髴として来ました。大体皆よく聞きとれました。ただ小さい輪にまきかえたため（ラジオ屋で）、話や順序が前後したりして、ちょっとひとりで笑ったりしています。こんどそちらから送って下さるときは是非小輪にまきかえて順序ハッキリ書いて送って下さい。クリスマス集会を是非。それを聞いてすこしたてば顔と顔と相まみえる時が来ます。この機械はとにかく持って帰ります。実に便利な世の中になりましたね。これで顔までテレビ式にあらわれて来たら……しかしそれはあまり虫が善すぎるかも知れません。ともかく、このテープは本当に楽しいです。ひとりで生活してその味がわかります。

「曠愛」原稿は今月中には必ず空輸いたします。同封のネガを（又はやきつけたのを）使って「曠愛」誌の扉に３５号の扉のようにして下さい。いずれ原稿にすべて要領を書いてお知らせします。なおこの「ネガ」で御希望の方があったら、やきましを作っておわかち下さい（委員の人よろしく）。湖畔の私の冥想と祈りの芝生です。ここに腰をおろして東京の皆様、集会の皆様のことを想っています。皆様からの私信、どれも感謝して拝見しています。お返事はいちいちお書きできませんが、どれもいい加減にしていないことを信じて下さい。全部勿論大切にしてあります。とおからず、アルバムを３巻お送りしますから楽しみにして下さい。３６号は諸兄姉よ、刮目して待たれよ！　武さしの幕屋の兄弟姉妹らよ！　無限に深められ高められよ！

私の「メフィストーフェレス」は上田、高森両君、然るべき折に独文のところは訳して、午後のいつか幕屋の者によんであげて下さい。

台風一過で皆様おさわりありませんでしたか。御大切に。相当の被害数がこちらの新聞にのっていました。ドイツは台風がなく地震がなく、その点は平和ですが、人間界の台風が吹くともっと始末がわるいです。政府与党が弱くなって却ってよかったです。絶対多数党というのは政治の上で独裁的になるからいかんです。

この間、奥田君とアルスターで（この写真をとってくれたとき）ボートをこいだです。その夕陽はご覧の如くすばらしかったです。では御元気で！

◎箱根の集会のみんなの写真、毎日ながめていますよ！　ひとりひとりのお顔とおたよりを思いあわせています。こちらも微笑をうかべてね。みんな本当にいい顔をしています。みたまの愛のつらぬきだね！　（相馬さんお元気ですか、夏いらっしゃらなかったのでちょっとおうかがいします。ドイツへどうぞ！）

　　　　　　　　　　　　　　＊

順子様

録音で私によびかけてくれたおたよりよく聞こえました。実によく入っていました。有難う。順子は勿論今回はドイツへ来なくてよい。来春ももう何だかちかくなって来た感じ。冬学期まであとまる１ヶ月は準備や仕事ですぐたつことが歴然としています。ヨーロッパでどうも飛行機事故が頻発していてあまりいい気持がしないから。パリ、ロンドンゆきは、仕事のこともあるから、来春にのばしました。もう来年２月まで籠城します。そういう腹をきめたので却っておちついて仕事ができます。それでテープレコーダも買いました。２６５マルク、それに付属品やなにかにで大体３００マルクになりました。１ヶ月のこちらの生活費。しかし、大体５００マルクの貯金がまだしてあります。１０月から来年の２月まで５ヶ月で更に２０００マルクの貯金をしておくつもり。１５００マルクあれば、パリ、ロンドン、アムステルダムを汽車でまわっても大丈夫。５００マルクはあまるでしょう。３月４月のをあわせて、南まわりで帰るつもり。ローマ、アテネ、カイロ、ホンコン、東京となるでしょう。歌子はスイスの娘に書いたかな。写真は車中がくらくて失敗。やさしく書けばよい。１７、８才に見えたけれども１５才とは驚いたね。東京は台風はどの程度でした。

こちらの選挙の結果はもちろん、新聞でおわかりの如く一党が絶対多数でないのは却って対外的によろしいでしょう。どうもドイツ人は無気になるから、こういう弱体化された与党の方がよろしいです。「思いこんだら百年」といわれるように、この間の汽車の切符の件もその通り、ガンコなところがある。畠山さんを泊めてあげたってね、よかったね。彼女からよろこんで１４日に書いて来た。しかし台風のためどうなったかと思うけれど。本当によく１０余年ひとりで働いたものだ。神様が非常手段で休暇を与えなさったわけだ。

Ｕ.Ｎ.Ｔ.みんなによろしく。辰雄。

【発信１９６１年９月２２日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

順子様

この間はおたより有難う。９月１７日は幕屋２１周年を記念する会と片井、畠山両姉妹の歓迎会を開いた由、感謝です。北村さんと畠山さんから報告が来た。畠山さんはいろいろ御せんべつもいただき楽しく夜もくらして感謝でしたといって来た。くにへ行って義姉のお手伝いをするらしい。久住君が畠山さんに原君との婚約を強制したらしい。彼女は今のところそんな気はないので折れなかった由。「おしめし」を語ったそうだ。しばらくほったらかしておく。原君は病身で独立の能力は今のところ目はながつかない人。それを相手に無理なはなしだし、同病の人の間ならはなしもわかるが、さてもさてもである。北村さんは盲腸の手術の由、しばらく休養した方がいい。

私の３６号原稿は正に完了しました。あと、箱根集会の記事がこちらへ送られてあるのでこれを簡単にしてつけ加えて、お送りします。月末までにつきます。そしたら三瓶さん、高森君、上田君、吉川さんが然るべく相談して出版する様にします。北村さんはこんど無理だから。けれども北村さんの弟さんの印刷所にたのむのがいいでしょう。もし新たに適当なところがあれば、それはこんどはかえてもいいけれど。コストのことは彼らに一任します。順子の方に幕屋から受けとったお金もあるね。３６号はいつか荒井君が出費すると私に言ってもくれていたから、荒井君に僕から一言しておくつもりである。順子の方と共同がよくはないかね。３５号と同じ位の頁数。それに私の湖畔のとみんなの箱根の湖畔のと２枚（表裏にすって）是非のせたいです。河畔のはこの間、こちらへ送ってもらったあれはよくとれていると思うから。

今日は政美兄さんの４０年の日、ひとりで感慨無量です。これから記念に本を買いにゆくところ。では御元気で。お彼岸でカユミはひきはじめたでしょう。水をよくのむがいいね。みんなによろしく。この間、こちらで荻窪の兄さんと皆が話しているのを聞いた。とてもなつかしい。ヨロシク。

【発信１９６１年１０月２日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

もうかゆいのはなおりましたか。１０月に入って東京はコスモスですか。１０月１日中、藤井先生の『羔の婚姻』をよみました。第３６号の原稿は受けとり、皆とそれぞれ手配をして印刷にしましたが、北村啓二さんに一応たよりをしておきました。２６日に手術をした北村さんはだんだん元気ですか。手術の直前に私に手紙をくれましたが、その中に「生命の光」に私の「グンデルト先生訪問記」があって、手島さんが、私が神癒や異言ができるように祈った文字がある由。相変わらずの書き方をするので今後は一層彼との交わりは疎遠にします。ハンブルクにいるからあわないわけに行きませんが、また、何か書くことでしょう。やっかいな人間です。それから北村さんが同じ手紙の中で樋口篤志氏が「神は愛なり」の書の中で小池先生が瀧あびや火わたりをすすめている様にしかとれなく書いてあるとあったので、ケシカランと思います。今後、彼はもし集会に来ても断ります。その本はもらってありますか。もしあったら、そうとれる文句をうつして教えて下さい。送るに及びませんから。第３６号の中にそれはちがうということを「独乙だより」の終わりに書き入れておきたいですから。

「樋口篤志氏が『神は愛なり』という著書の中で、私があだかも火わたりや瀧あびを指導乃至奨励している者の如く書いておられるが、それは全然事実ではないから、ここに明言しておきます」

こういう文句でよかったら入れておいて下さい。よんでみて右の私の言がその本の文句に対する否定として適当であると順子が判断したら、そうして下さい。

手島氏の『生命の光』の私の「グンデルト先生訪問記」のところと手島氏のその祈りだか何だかわからぬ様な文字とを破いて空輸して下さい。「印刷物」として。

それから３６号の中の私の「サマリヤ人」の中の「信愛をうらぎられしは幾度ぞ……」の和歌を省いて下さい。自分のことかと想ってとやかく心配する上田君みたいのが出ると困りますから。これは過去の連中のことですから。

以上、面白からぬ要件とおねがいですみません。小城君が来春、私の後任と定まりました。これはうれしいことです！

【発信１９６１年１０月９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

○この頃大分、郵便に時間がかかる様だな。原稿は月曜に出したから、土曜には今までの調子なら届いているはずだったのだけれどもね。とにかく、北村啓二君にまたたのまれてよかった。ただ出資その他のことはこれから相談するわけだね。杉本君の個展のことで、あの絵かきさん二人は今忙しいんだろう。荒井君は何でも１０月は忙しく幕屋に出られないらしい。奥さんから何とか順子にはなしがあると思います。

○望月君は忠実な人だなあ。石原さんも恐縮のいたり、おたよりしておきます。石原重成翁の漢詩が（私の「曠野の愛」に見せる意味の）あの片井君にもらった埋木みたいな箱の中に多分あったと思うが、それを巻頭の私の写真の横にかかげたいと思うがどうだね。ふさわしくなければやめるけれど、なるべのせたい気持だけれどね。順子の判断にまかせる。考えてみておくれ。

○北村さんからたよりがあって、樋口篤志氏がこの間、順子に書いた様なことをその著書の中でいっていることに対して私が反駁を書くのは「曠野の愛」をけがす気持がするから、却って黙殺したらいかがですか、と言って来た。これも順子の考えにまかすから、然るべくして下さい。第３６号に手島氏のことをちょっと書いたかと思うが、その項もはぶいて下さい。

○鎧淳君の西洋梨のこと、未だ知らなかった。いずれ書いておきます。

○キリスト新聞広告不要、それで結構。

○独文学会のこと、有難う。高木君のこと、有難う。長良高君のこと、しかたがない。

○手島氏がハンブルク大学で講演、そんなことをきいたことがない。彼が来てから私にすぐたのんで、斡旋してと言うのだろうが、大学はそんな簡単なところではない。第一大学は学問の府だから、非学問的な講演はできない。彼に言って断るつもり。

○パールの写真有難う。パウルスさんのみんながとてもよろこんでみました。可愛い可愛いって言っていたよ。ドイツ人はとても犬が好きだから。歌子が手をかませているのが傑作だ。清子と歌子の合唱の録音をきいてよろこんでいた。清子の独唱（ドイツ語）、歌子伴奏のが出来たらうれしいがね。こちらのは小さいバンです。まんなかに赤マルのしるしをしたのがその輪郭です。クリスマスの頃までにとどくとありがたい。

○そのうちにドイツのローソクを送るから今年のクリスマスツリーはドイツ式にやって下さい。電球をつかうといったらドイツ人は、それはアメリカ式だといって笑っていた。

○かゆみは、原田君ではないが、深く祈りなさい。私もこちらで真剣にお祈りします。主に深く信頼し、主のみ力を信ずることはやはり福音書の質をもつことは大切のことですから。必ずなおして下さるです。順子は忠実によく人のためにもつくして立派に生活しているですから、主はよろこんできいて下さいます！　薬や医者は手段にすぎない。我らの生命を創造しあずかり給う主こそまことの医者ですから、祈りましょう。福音書を少しずつよんで祈ることです。１０時から１１時にねるのだね。その頃こちらでもおぼえていのります。遠くからみたまの愛をもって順子を抱いているからね。私の愛を感じて眠りなさい！

○ヨーロッパのこと、一喜一憂しなことにしました。人間の罪業はしかしこのままではおさまらぬでしょう。世界が真に悔改の回転をしない限り。今や、真の宗教がものを言うべき時が迫っています。日本へ帰ったら、いよいよ私は本格的に福音のため、特に詩作に本ごしになるつもりです。

では希望と祈りをもって待っていて下さい。辰雄。愛する順子よ。

【発信１９６１年１０月１２日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

１０月９日のお手紙、本日１２日落手。最もはやく来ました。飛行機の関係ではやかったり、えらくかかったりするけれど、１週間かかることはめったにない。

○まず手島氏のこと、あきれてしまう。「　」内の文句が何れもちがう。ことに後者は全然私の言わないこと。幕屋の一同にハッキリ申しておいて下さい。み言の世界は自由であるからといって勝手なことを言ってよいものか。とんでもない話です。ハンブルクで私が彼のために講演の準備をしたかにキリスト新聞にのっているそうだね（北村さんからのたよりだったと思う）。これも勝手につくった。それで、私もながらく彼のよき面をかっていたが、いよいよこんどのハンブルクでの面会を最後に私的な交わりも絶つことにする。

○杉本君の個展、とにかく力一杯によくやりました。彼も主のたすけによって我らの信仰の一つの証ができました。勿論これからが更に大変でしょう。手代木君の評も一面はあたっているでしょうが、彼の志すところを見てやるべきです。誰でもはじめは自分の範としているものに似るのは、どんな大家でもふむ道ですから。献金はすまないが、うけて第３６号につかって下さい。お礼を言っておきます。お菓子を送ってあげてよかった。

○北村さんにはたよりがあったから、充分休養しなさいと言っておきました。第３６号もこんどは手伝わぬ様に言っておきました。

○杉野君のことも松岡君からきいたので、歓送会のことをたのんでおきました。

○安積さんとはハンブルクであったとき、殆ど私は宗教的なはなしをしたので大いに共感して下さったのでしょう。いいことを言って下さいました。何といってもドイツの青年は真の自由と秩序とをわきまえています。その点はどうしても宗教の地盤から来ています。

○清子のこと、得男君と君子からのたよりで知りました。ちょっと心配です。それがおさまって、どうか欠陥のない赤児であるように！　初子は大切ですから。はじめはとにかく清子としても見当がつかないわけですから。清子に、お誕生日が近いのでなぐさめて書いておきました。

○かみゆがなおって来て感謝、祈っていました。やはり薬のわるいのをつかっていてはダメなわけで、医者もなかなかむずかしいものとみえる。これから楽になって太るでしょう。順子のニコニコした一人のいい写真がある。それはいつも胸にもっているから、急がなくてよいです。女の人はやはりやさしく微笑をうかべている写真が好い。

○照雄に、おちついてやるように。来年パスするしないは問題にしなくてよいから、本格的な勉強の仕方をすればよい。そのうちに照雄にエハガキで書いておきます。

○生活費がなかなかのようですね。はじめ兄さんから毎月に２万円借りる約束みたいなはなしであったが、順子がそれを遠慮したからであるが、それでよい。やはりすこしつらくてもガンバッテ下さい。帰ったら、私が馬力をかけるから。『曠愛』誌の振替局に１万円以上の貯金があるから、あれから何かこまったときは出してもいい。

○上田君のことはその後どうなったか、松岡君になだめておくように言っておいた。彼のようなまじめな青年には、うっかりしたことが書けない。私の言が全く逆にとられてしまった。クリスマス（ボーナス）には３０００円、スピリの感謝としてわたして下さい。「バラ園」の１０５００円は第１回ですか。それでしたら、彼に今でもクリスマスでもいいから３０００円をあげて下さい。

○石塚先生のこと、おくれてすみません。近いうちにやりましょう。

○冬学期が近くなったので、準備がすこし忙しくなって来ました。１０月中に石塚さんのことをすませます。こちらからとどいたら、石塚さんの方からその学校に直送していただくことにしたいと思っています。あのときえらく感激しておられたが、その後石塚さんの心境はどうなのかしら。

○東西がゆずらないのでいたらしまいにはという感はやはりのこる。ベルリン問題は今や世界のガンである。ユダヤ人の血のさけびに対する懺悔を必要とする。

○庭の柿がなったって、よかったね。おいしいかね。来年は山となるでしょう。こちらには柿はない。リンゴはパウルスさんの庭になったのをたべさせてくれた。なかなかおいしかった。

○９月、１０月はすばらいし天気がつづき、ドイツ人もめずらしいといっています。

○今日はパウルス夫人の誕生日で、お祝を３０マルクあげた。よろこんでコップを１ダース買った。カンパイのコップ。まぁ世話になっているから、少しきばったよ。私が来春までいると言ったので安心したらしい。来たときより気持がよくなりました。

【発信１９６１年１０月１９日／小池御一同様／小池辰雄（ハンブルク）】

みんなのおたよりにお返事を書きます。まずお母さんから。

順子！　かゆみもその原因がわかり、且つ妙薬でなおってよかった。それにしても医者もあてにならぬもの。長いことくるしみ、多くの金をつかってとんだ災難でした。７千円というと今こちらで買いたい辞典で７８マルクというのが丁度それくらいの値段になるので、あたまをかしげざるを得ない。蓼科から帰ってこれをよむでしょう。蓼科はどうでしたか。私もとにかく思い出の地だから、様子をききたい。別荘はどの辺に出来るのかね。山田（九州の）と中西かつみ、どうも見当のつかぬ青年ども。手島氏の群かな。Ｔ氏は１１月１日～３日、なか１日だから適宜にとりあつかっておくつもり。北村さんから「生命の光」１３３号を送って来た。「グンデルト先生訪問記」はやはり筆を加えて強調してあるところがある。日本へ帰ってから第３７号を書いてはっきりさせる。それまで放任。こちらは今「日本精神史」の準備が忙しいし、面白い。帰国したらやりたいことが大分ある。こちらでもいろいろあるのでこのスティームの入っている室でこれから４ヶ月は籠城で仕事！　３月はパリー、ロンドン、アムステルダム、コーペンハーゲン。帰りにウィーン、ローマ、アテネ、パレスティナ、カイロ、インド、ホンコンとよれたら幸。台湾はまぁいいとしよう。

照雄君！　来春はとにかくためしに東大文三を受けるつもりでやってごらん。その翌年うける場合に勝手がわかっている方がいいから。ＫＯは賛成しないね。東大か早大がいいね。早大はお兄ちゃんがいるからやはり何かといいさ。その次が外語。まぁこの順だね。外語は受験は英語でも内へ入って何をやるかね。早大は何科を受けるかね。それがわかったら教えて下さい。照雄もあたまはいいんだから、決して自信をおとさないで、みっちりやりなさい。テレビや映画をみすぎたのがちょっとタタッタんだよ。そこはもう自覚して集中してやれば絶対に実力はつく！　人間は、ことに男は意気だよ！　そして神様から無限の力をいただいて生きるのだね！　お父さんも出来るだけ長く生きて君たちを楽しく勇ましくこれからもやりたいと思っている。安んじてやりなさい！　大丈夫。人生は長い。マラソン競争だね。

信雄君。大分忙しそうだが、身体を充分気をつけて、無理をしないように。胸をやられたらことだからね。睡眠が大切！　ブレヒトの伝記があったから、普通便でおくる。１１月末か１２月はじめにとどくだろう。手ごろな本です。

清子！　おたより有難う。今は身体が第一。普通の体とはちがうからね。学校はやめてよかった。丈夫でも荷が重すぎると思っていたから。ピアノや歌の会も決して気にしないように。そのためにまた無理をしては絶対にいけないよ。カレンダーがとどいてよかった。聖書をよんで力を得なさいよ。聖書は教訓ではない。生命の書ですからね。敦チャンにバトンをゆずってよかった。得男君が外遊するときは一緒に行ける様にしなさい。若いときに別れているのはどちらにもよくない。くれぐれも御大切に！

歌子！　関根先生とかいう先生はとうとう私に連絡しないでハンブルクを去ったらしい。待っていたんだがね。お父さんのところの電話番号がわからなったのかしら。５６１２５３という６ケタの番号です。パウルスさんのところ。おくったテープとどいたかね。スイスのウルスラちゃんから手紙がきて、歌子チャンからちっとも返事がこないがどうしたでしょうとたずねて来たから、はやく出しなさい！　エハガキに簡単に書いてからいずれまたゆっくり書くといってお出しなさい。またはパールとの写真を入れて送ったらよろこびますよ。いつかスイスへゆきたいという様なことを書けばいい。山が好きだとか。スイスへの宛名は、Fräulein Ursula Bütikofer Frauenfelderstr. Tg(=Tolganノコト) Schweizです。

家のみんなにもっと語りたかったけれどね。そのうちにもう一本くらいつくるよ。東京から送ってくれるのはDRUCKSACHE〔印刷物〕でくるのかね。富田君にきいてみて下さい。こちらは録音してあると手紙と同じだからといって、えらく高くついてしまう。お姉さんを大切に看護してあげなさい。

では、みんなたのしく。サヨナラ。父より。

【発信１９６１年１０月２０日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

──親展──　親展の手紙は別にしまっておくように。

〇１０月１９日（木）、コスモポリタンクラブで夕方から、新任広田領事歓迎カクテルパーティあり。私より約１０年も若い人、婦人同伴。６、７０名の会合でした。東幼時代の教え子で昔の陸大生にあたる将校伊藤正康君、ハンブルクの独乙の陸大といったところに研究生として来ていて、それにあった。相かわらず「教官殿は昔とあまり変わらません」などといっていた。伊藤君は昔と大いにかわっていた。それから清野さんの知人、大村君のパンジョンがすぐ近くだったので帰りによって１１時まではなしこんでだ。愛すべき青年です。学習院出身で、柳谷君に教わったといっていました。この間同君と支那料理を食べました（オゴリマシタ）。私にあって何か新しい光を与えられたらしく大変よろこんでいた。相当信仰のはなしをきくから、はなしてあげました。

〇手島氏は月末（２８日頃）にくるとカルメル山のエハガキで連絡して来た、二泊くらいしたい由。大学講演のことは書いてない。あれはセンデン的なのでしょう。第一、まだ今月中は大学はないし、１１月に入っても一週間くらいは本格的にははじまらないし、学生のセキも不明だから問題になりません。「生命の光」で四つのＬの黙示と書いて、ＬＩＦＥ、ＬＩＧＨＴ、ＬＯＶＥ、ＬＯＲＤとあり。実ははじめの三つは私が「ファウスト研究」で書いたことを応用しているわけ。ＬＯＲＤはとんでもない。桜井信市がそれをまたかついで„ＢＥ　ＬＯＲＤ！“「主たれ」とはとんでもない霊的傲慢である。キリストは「僕たれ」といわれた「主」ロードという言の濫用もはなはだしい。幕屋の人たちにあやまりないように注意しておきなさい。『生命の光』は北村さんが送ってくれたから、もう送らなくてよろしい。

〇私が帰るときの旅券のこと、いつごろ文部省にれんらくしたらいいか、安藤君に電話できいてみて下さい。安藤君はこんど課長になって忙しいと見えてこの間手紙を出したがまだ返事をもらっていません。小城君から非公式に後任としてきまったことをハガキでしらせて来ただけ。学校へ俸給をもらいに行ったら、青木事務官にあって、来年の手続きのこと然るべくたずねておいて下さい。南まわりで帰りたいと思っています。或は来年に入ってから手続きのことはするのか、よくわからないので。一応安藤君にきいてみたらいいでしょう。なおパウルスさんに終りまで厄介になること、おかげ様ですと感謝の意をのべておいて下さい。人間は案外感情に支配されるから滑らかにやっておいて下さい。

〇テープはそちらでうまくきこえましたか。なまのドイツ語は如何！

〇清子はその後どうですか。胎児に異状のないように。全く「医者の油断」でしたね。少々あちらでも責任を感じているでしょう。起こったことは仕方がないが、恙なきことを祈っています。一寸清子が可哀相だ、よくなぐさめてやって下さい！　この手紙は勿論順子だけへの手紙、そのつもりで。

〇幕屋の三瓶さんは性質の美しい人だよ。この間順子が言ったような「勝気の人」もいるから、順子はよく夫々のみこんでやって下さい。やはり順子が主になって、みんなをそれぞれのよきにおいて愛してやらないと幕屋というものは円満にゆかないから、よろしく。人間はお互いに短所を見てどうのこうのとなったら、すべてはガタガタになる。上に立つ人はそこをよく心得てよさをみて愛してやれば気持よくゆく。

〇第３６号は全員がとにかく一言一句なりとも、書いた形になるから特別献金の形をとって半額くらいは会の方で出してくれるといい。４万円はかかるらしいことを北村さんから言って来た。杉本君５０００円、荒井君５０００円。多分長坂君もそれくらいは出してくれるだろう。２万円は家の方から出るでしょう。振替もあるから、そうすればあと５０００円だから大丈夫と思う。高森総務に以上のふくみではなしてごらん。とにかく、よろしく。金のことだから気まずくならぬ様によろしく。

〇発送は、誰に送ったかをハッキリしておいて下さい。小諸へはとにかく川口さんあてに一括して３０部送っておいて下さい。

〇一部５０円ではこんどは少し無理だけれど、それでよろしい。

〇教文館３０部、待晨堂２０部、友愛書房３０部、手わけして頒って下さい。その際、あずかり証をもらう様に且つ３５号の清算（８掛け）をしてくるように。

〇先便にも書いたけれど歌子にスイスの少女に必ずはやく書く様に言って下さい。真心を傷つけてはきのどくですから。純情な少女の心をよく考えて下さい。お父さんのところへ両親の働いている写真まで送ってきた。農家か労働者の子のようです。

〇久原秀夫君というのが集会にずっと来ていますか、いたら、よろしくつたえて下さい。

〇信雄や清子の誕生日が近づいて来た。どうぞたのしく暮らして下さい。

〇ソ連は何だってあんなでかい水爆を破裂させるのか。ヒロシマの千倍の偉力だそうだ。スウェーデンでは放射線をおそれて、退避の準備をしている由。東西がこう対立の度を表したのではしまいには妙なことになる。

来年３月になったらサッサと帰りの旅にのぼって途中をゆっくりした方がいいかも知れない。

【発信１９６１年１０月２４日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

──親展──

蓼科はどうでしたか。清子はその後どうですか。順子の昔の体験もあるから、よく容態を注意しておくれ。そして平安な気持をもたせ、不安やこわがらないようになぐさめてやっておくれ。妊娠中の自動車は本当に禁物だと思う。ドイツみたいな道路の完備しているところならまだしもだろうけれど。

さて手島氏月末はじめの予定のところを急に変更、エルサレムからアテネそれからローマはとばしていきなりツューリヒ、そしてツューリヒからハンブルクへ２２日の午後６時半に飛来した。しかし電報で私のところへ４時半といって来たため、飛行場で２時間余待った。相変わらずの面がある。タクシーでホテル・ライヒス・ホーフを世話してやってそこに投宿。エルサレム・パレスティナ旅行が印象深かったので、よく語って聞かせてはくれた。夕食はホテルの大食堂でとる（第一流ホテル）。２３日は、朝の郵便をまって、彼をたずねる。Ｔ氏のところに殆ど毎日のように私気付で熊本の連中から手紙が来る。ある商社へ彼の用で同行。その取締の人と三人で外出、昼食をその人の御馳走になる。いろいろ経済の話をしていた。日本は来年は不況になる由だね。どうして私は帰らねばならいね。新聞ではソ連のメガトン５０のバクハツの記事がでて、数発で西ドイツは全滅する偉力があると書いてあった。そしてこんどのバクハツの放射線の流れる可能性は西ドイツの空の上を流れるように考えてあるらしい。よほど西ドイツは目のかたきらしい。昼食後、Ｔ氏を案内して彼が土産を買いたいというので、そこここのめぬきの店をつれてまわる。ハンドバックなども買っていたよ。何しろ大変な金をもっている、ドルの券を。飛行機は全部一等。何でも百万円をはるかにうわまわる額らしい。ヨーロッパ入りの手段のことをきいたが、その一つの要素にはハンブルク大学教授小池辰雄氏がよんでハンブルク大学で講演をさせるといった意味があったらしい。それでキリスト新聞に書きたてたのだろう。それでなければドイツには来れなかったのです、なんていっていた。相変わらずと思った。会社の知人にたのんでその電報をうたせたわけだ。そういうのが渡欧の理由として有力な一つのみちであったらしい。だから、講演のことなど一言も語らない。正直にうけとっていたこちらは二重のバカをみたようなわけ。おかげ様でしたなどえらくていちょうなことをいっていた。きつねにつままれたはなしである。買い物はするし、上気げんで、何かワインをのみましょうなんていって、何がいいかというから、ラインワインが美味しいよと言ったら、一本買って（１９５９年の豊作年の）、ホテルの室でのんだ。これは素晴らしいとえらく上きげんで、歌などうたって聞かせた。エルサレムへは是非いらっしゃいなどいって、紹介状（名刺に）を二枚書いてくれた。再びホテルで食事、カメラは８ミリをいやっていうほどとって来た由。カメラも小型のよいのをもっている。パチパチとってこれがやきつけができたら、奥様にお送りしますなどいっていた。今日はティリッヒ博士に会わせてくれ、おるすかも知れないといったが、おるすでも何でもいいからつれていってくれとて、学長をたずねた。御在宅であったが、何か会議しておられたので、３、４分もお目にかかってひきあげたが、ぬけ目のないいい方をしていた。相変わらずと思った。そして博士から本などいただいてホクホク。写真をとった。雑誌にのせたいといったら、学長は勿論よろしいとのことで目的を果たしたわけなんだろう。インドではラダ・クリシュナン副大統領をたずねた由。そのはなしも得意になってしていた。

何しろ「意志のあるところ道あり」などいって大いに例の如くである。トランクなども天皇、皇太子お買上品ののこりの一つを某氏が特別にさしあげるといってもらったとかいう。正直すばらしい品をもっていた。とにかくやり手ではある。彼のことを今さらどうこういいたくないが大方以上の如し。しかし彼はえらく私に感謝してニコニコして空港をさりパリに向かった。ロンドンに１０日、それからロスアンゼルスに一気にとんで、そこでは本当に講演をしてハワイ経由で来月２０日頃帰国の由。

〇蓼科からのたより今みた、よかったね。

【発信１９６１年１０月２７日／小池順子様及び武さしの幕屋御一同／小池辰雄（ハンブルク）】

――武蔵山大和寺の兄弟姉妹に与うる手紙――

主にありて信愛なる武蔵山大和寺（むさしざんやまとじ）の兄弟姉妹よ！

まことに今日はふしぎな日です。内村先生の私の愛読書『一日一生』の今日のところに、私はかつて何かの本から切り抜いた紙片をはっておいたが、そこには、

「吉田松陰先生は安政６年１０月２７日、齢僅かに３０歳を以て江戸の獄中で刑死されたが、その辞世に、『身はたとひ武蔵の野辺に朽ぬとも留置まし大和魂』」

と書いてありました。この貴き魂吉田松陰先生をドイツ、ハンブルクにおいてはるかに時空を越えて慕いまつる！　どんなに御無念であったろう。大志を抱きつつ、果たさずに非業の死を遂げられたのです。今の若い人たちが日本の生んだ貴い魂のことにもっとおもいをひそめ、日本人の中にかくれている貴い魂魄を受けついで、祖国の偉大な先輩の霊魂を安らげないならば、まことに禍であるとしみじみ思います。私は熱涙をもってこの吉田松陰先生を慕う。武蔵野の武は恩師の名にも通ずる。武蔵坊弁慶も宮本武蔵もそれぞれ貴きたましいであった。大和は実に大きな名だ。東西を融合する大和は一切包摂の角度である。父の全さである。キリストの御命令だ。しかも恩恵の力をもって我らを父の全さにまで救いあげんとの大本願である。兄弟姉妹よ！　卑屈な根性はすてなさい！　天的大望に生きよ。われらの幕屋の別称は武蔵山大和寺、吉田松陰先生の大志をつぎ、躍進せねばならぬ。福音のために真に献身の大望をもって生きて下さい。

「わたしがキリスト・イエスの熱愛をもって、どんなに深くあなた方一同を思っていることか、それを証明して下さる方は神である」（ピリピ1・8）

とパウロが言った言葉はそのまま私の心です。

４月の末、皆さんに羽田であの讃美歌をもって勇ましく見送っていただいてから正に半歳がすぎました。明日が２８日だからです。この半年の皆さんの主にあるあつき友情と、幕屋をよく護り、相和し、相たすけ、楽しく雄々しく信仰の前進をされたことを深く感謝し、み名をたたえています。後半の半年もいよいよつきぬけた魂となって大歓喜の福音を身につけて下さい！

その意味で降誕節も心一杯に迎えて下さい。来春帰国の上は、いよいよ我らの聖戦をいさましく進めたいと思います。その時が待たれてなりません。私は財もありませんから、ローマもアテネもカイロにもいずこにより得ずとも、ただ聖地を訪ね主のみ跡を慕い、祈って帰りたく心を定めました。皆さん、お祈り下さい。昨日はイスラエルの地図と案内書を買い、これからヘブライ語聖書を学びつつ、準備をしておこうと思っています。主のあつき大愛一同の上に、そして胸三寸の中に！

○２２日にはたしかについているはずの小さな小包録音テープがとどいていないとのことで、一寸案じています。しかしこのこの手紙をよんで下さる１１月５日にはとどいて、これと共にきいて下さることでしょう。「漫談」などと前置きしましたが。一向漫談調とはなりませんでした。ドイツ人のドイツ語も入っていて一興ではあるでしょう。

○２９日の幕屋の遠足はたのしく恵まれるように！　武さしのも紅葉がはじまりましたか。こちらはもう、

はごろも散るよ散るブナの葉衣びてさらさらひらひら秋のよ、

というわけですよ。

○１１月からいよいよ冬学期。どんな学生が集まってくるか楽しみです。「日本精神史」はとても全般的に語れませんから、重点的に語るつもりです。なすべきこと、なしたきこと多々あり。たちまち２月までの４ヶ月はすぎるでしょう。ねがけには箱根の写真を拝見して祈っています。これは大きなギリシア語の聖書の間にはさんであるのです。

○第３６号のため、皆様の友情あつき御協力心から感謝しています。我らの主に捧げる感謝と祈りと讃美と福音の戦いというわけです。「箱根集会」の私の編集の不備は御寛容下さい。ただこの号も聖名のために善用されるよう御協力ねがいます。では皆さん！　御キゲンヨー。天鐘。

【発信１９６１年１１月１日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

○信雄の誕生日のおたよりうれしく拝見。ところが肝腎の信雄の文字が一字も見当たらないのはどういうわけかと思いましたね。それから得男君と清子の声も聞こえないのは！　手代木君と恩田君の番地を知らないので直接におたよりできませんから、どうぞよろしく感謝の程つたえて下さい。思いついたことから順序もなく書きますが、照雄の外語受験の際のスペイン語は南米ゆきの魂胆かね。それもよかろうと思うね。スペイン本国はあまり感心しないからね。勇ましく勉強して下さい。

野間君は元気になってよかった。なお学窓半年、歌子は相たすけて勉強しなさい。早大は後学期に入ったね。ブレヒトの自伝がとどいたら一応しらせなさい。お誕生日はたのしそうでよかった。

○こちらでもお父さんも丁度半年たった日に、モーゼル・ワインを買って来てパウルスさんのみんなと乾杯しました。

○それからテープは半分しか聞いていないようだな。もう半面、即ち逆回転によって、私の日本語（主として幕屋へのよびかけ）と私のドイツ語「サマリヤ人」の概要が録音してあります。そのテクストも同封しておきました。あの一巻の空輸が１２マルクはたかい。どうもドイツは日本よりも高くて、全くこの安月給では半年が丁度いいところ。あと半年といっても４ヶ月で自由になるはず。ドルを手に入れる方法がないと、旅行も計画だおれになりそうです。

○パリとロンドンは３月の１５日～３０日までの間にゆくつもり。足立さんがその頃ロンドンに居られるといいが。パリーは教え子が案内してくれることになっている（ドイツ人）。このハルトムート君は来年の秋くらい日本へ来たいと言っていた、とてもいい青年。

○ソ連の５０メガトン水爆の破裂で日本につよい放射線が降りるように新聞に書いてあった。清子のような妊婦はこわがることはないが充分用心するように。疑いと恐怖心は抵抗力を弱めるから、皆、強気で神の霊を魂に受けとって生きなさい。何といってもキリストのみたまは最強だよ。使徒たちの信仰の質が何といっても大切です。

○１１月２０日には教会の青年たちに「福音と文化」と題して語ることになった。それから来年の３月上旬、学校のことがすべて終わったあとで、教会の壇上から一般の人に（あそこには牧師でなければ立てないのだが）、講演を（聖書の）することに内定している。福音の本義を語る。私のおきみやげの言である。写真にとってもらうつもりである。ここの牧師さんも私の信仰の内容には驚いているからです。

○蓼科は楽しかった由、よかったね。来年の夏を楽しみにしています。姉さんの皮のジャンパー買えたら買うけれども、かなり高いのでちょっと考えるね。２００マルクはどうしても出さねばならないからね。

○暖房がいいので、家の内は絶対に楽です。むしろ春や秋の方が寒い。ねるときも春や秋より薄着です。ただ外は寒いから充分着ます。あの皮の帽子はもって着てよかった。あれがあれば大丈夫。２０分あるけば耳をやられるが、あれなら大丈夫です。９月１０月はとても天気がよかったです。１１月は一年中で一番不愉快なそうだけれども、まだわかりません。

○中村さんが来られたらよろしく。たまにはにぎやかなのもいいさ。

○明１１月２日に冬学期のうちあわせ会。多分実際は来週１１月６日あたりから始まることになろう。

（――以下親展――）

○おばあチャンによろしく。お元気で何より。何しろ強気の人は大したもんだ。

○三神君のお嫁さんに、いつかちょっと順子に語った幕屋の小彬さんどうかね。適宜に順子がとりなしてみてごらん。さきに小彬さんに話してみた方がいいでしょう。気がすすむようだったら、三神君に語ったらいいだろう。両方でよさそうだったら、僕から便りをしてもいい。具体的には私が帰国してから。父の三神君が私によろしくとかつて語っていたから、ちょっと気にかかっているわけです。箱根の写真をみてもあの子は性格のよさそうな三神君にあいそうな女性だと思う。あまりグズグズしていない方がいい。三神君から手紙をもらったから、よろしく感謝を伝えて下さい。即ち、自分の住所氏名は左上に小さく書くこと。右下は不可。そしてドイツだから宛名にはHerrn Prof.〔～教授〕をつけることを忘れないように！　中川さんが楽しく暮らしていて何より！　中川さんにもよろしく。

○そのうちドイツのクリスマス用のローソクをみつけて、幕屋のクリスマスに間に合う様におくりたいと思っています。１２月２４日（日）にクリスマスをしなさい。ドイツ式なおちついた飾りで。

○アルバムにはすっかり書き込んで送るばかりにしましたが近日中に。

○第３６号、今週の金曜くらいにとどくでしょう。待っています。

○１１日の集会の人たちに一部ずつ、市川、藤田両女史にも中村さんにも進呈しなさい。私と順子の名をしるして。

○発送及び会計報告（幕屋の誰かからの）も待っています。５日の日曜にはテープ、正転、逆転両方ともきかせて下さい。

○手島氏が８ミリのフィルムを３本置いていった。肝腎の機械がないから仕方がない。日本からもってくればよかった。しかし、まぁこれでよい。ドイツでは５万円以上する。すべて高価です。

【発信１９６１年１１月１５日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

愛する順子！　写真はいつも胸のうちかくしに入れてある。こんな手紙は誰にも見せてはダメだよ。中村さんはまだ遊んで居られるかな。１２日の婦人会はどうだったかな。日曜集会のあとで聞いたのかね。女中がいないのでなかなか多忙のほどお察しする。早く帰って手伝ってやりたいと思う。おばあチャンはお元気だね、よろしく。パールは可愛いだろう。ひる間はよくお留守番するかな、おばさんも時々来てくれているのだね、よろしくつたえておくれ。もうこちらも百貨店ではクリスマスのものを売りはじめている。パウルス婦人がクリスマスのローソクをお贈りするといっていた。こちらで私がクリスマスは然るべくやるから、東京からおくることは要らない。近影を二枚同封。それからアルバムも１６日（明日）おくる。多分暮の中にとどくでしょう。夏のアルバムはもうすこしあとで。冬学期は月曜と木曜だけ。楽なものです。寒いときはなるべく出あるかない。日本学の教授の人たちとは気持よくやっています。質問にも答えている。１１月は陰鬱なしめっぽい月なのだそうだが、今年は例外的に９月、１０月、１１月と天候がよい。前半が（春夏）わるかったからかな。外気は武さしのの１２月の寒さ。そろそろ冬外套を着ることになろう。赤星さんからおたよりを今日いただいた。当分集会には御無理らしいから、何かお見舞をあげておくれ。第３６号が送ってないらしいので早速送っておあげなさい。腎臓では食べ物はダメだね。何をあげたらいいかな。

日本の歴史を勉強している。楽しい。百人一首も一通り勉強した。順子の好きな、

百しきやふるき軒端のしのぶにもなほあまりある昔なりけり

は１００番目に解説書に書いてあったが、順徳院の御製で、順の字が同じで好きになったのかね。承久の乱で失敗した天皇（第８４代）は佐渡に流されなさった。あの北国に２０余年のわびしい生活を送られ、４６才で崩御とある。

〇入日さす峯の浮雲たな引きてはるかにかへる鳥の一声

〇いかならむ明日に心をなぐさめて昨日も今日もすぐる頃かな

〇その他哀歌的なものが多い。涙をそそる次第だ。百人一首のこの歌は昔の京をしのび、荒れ果てた大宮の古きのきばの忍草を御らんになりながら今昔の感にたえずうたわれたもの、それから佐渡に流されなさった。

〇西ドイツではこんど厚生大臣が婦人シュヴァルトハウプト（黒頭の意）という名の人。首相外２０名。

〇今、室わりはどうやっているのかね。ピアノの室はやはりあのままかね。清子が北海道へゆくまではそれがいいでしょう。

〇物価が高くなって来たそうだが、何とかやっているね。御苦労様。私が帰れば大いにガンバルから、それまで辛抱しておくれ。世界がバクハツするまで大奮闘する覚悟だ！　こんな終末的な世だから、もう大胆に勇ましく生きるがいい。ものすごくファイトがある。子供たちもそれぞれ自分のやりたいことを勇ましくやらせなさい！　順子も大いにやりなさい！　もう夜の１１時３０分、ではお休み、もっともそっちはおはようございますだな！　丸い地球だからしかたがない。ヤケ酒でもたまにはのみたくなる。大論説を書いてドイツにおきみやげとするつもり。第３６号の「サマリヤ人」も独乙文を牧師におくるつもり。

１５日がこちらはホーキュー日。手取り７４０ＤＭ。ボーナスなどはないらしい。味のない国民だ！

【発信１９６１年１１月中旬／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

おたより拝見。この手紙のまんなかの幕屋の部分をきりはなして、誰かに次の集会でよんでもらうように。雑誌が実によくできて感謝。安いといってもコストがかかって５０円では完全に赤字。しかし、み名のための献金と思って、感謝のほかはない。次号は私が帰国してからにする。御苦労様。有権者の会合でもみんなに買ってもらい、読んでもらいたいと思うので、たのむよ。学校はいよいよ昨日からはじまり、昨晩は新領事の招待があって行った。７、８０名来ていた。あの東幼時代の伊藤君ともゆっくり語った。

こちらは室の中はあたたかくて、既に不用のものがあるくらい。何も追送の必要なし。畠山さんからのおくりものも、そちらにとっておいて下さい。お礼はそのように書いておきます、そのうちに。畠山さんがもしクリスマスの頃、東京へ出て来たら、とめてやっておくれ。そのときみつからぬ様に！　しまっておきなさい。何でも田舎で上流の人のところへ泊まりこんでたのしくお手伝いをしている由。田舎が気に入っているようだ。皮のジャンパーは清子はやがて外国へゆくし、歌子も充分そのチャンスがあるから、二人はそれぞれ彼氏から買ってもらえばよろしい。それで二人にはやめた。若い人はむずかしいからね、注文が。両順子さんに買うことにしよう。ただ大きさがわからないから、それを教えて下さい。肩はばでいいんだろうと思うが、専門のことはわからないから、図で示して下さい。色彩は何がいいのか。２枚で５００マルクくらいするから。その金をためるのが一苦労。パリー、ロンドン、アムステルダム、コーペンハーゲンの４つはこれから３月に行きたいし、帰りはローマとイスラエルだけにする。あとはホンコン、羽田とするつもり。おそらくギリギリ。また３００マルクくらい借りることになるかも知れない。こちらの会社員だったら問題はない。それくらいこちらは名ばっかりの大学講師。しかし、祈りをもって勝ってゆく。順子に時計はホンコンでそれでは買うことにしよう。水晶の印は私がドイツへ持って来てしまった。こちらではいらない。しかしそのことをいってうとけれるでしょう。しかし、このはじに捺印しておくから、これを見せて下さい。必要のときは、その他の場合に必要ならおくりますが。

もう半年といっても、２月までにはいろいろの手続きを完うしておきたい。３月は旅行だし、４月には帰途につくので。そうすると、もう今年も１ヶ月半、ぽつぽつ文部省に帰りの旅券を申請しなければならないと思うから、１１月半ごろ青木さんに連絡するから、青木さんから順子へ電話で返事をもらってそれを順子から伝えてもらうことにしよう。彼は忙しい人だから、おそらく手紙は書くまい。ではとりあえず御連絡まで。

ドイツの婦人の毛の帽子もいいけれど、これはやはりサイズがわからないと買えないし、形がくずれるおそれがあるね。

全く室の中はあたたかい。東京の暖房は全く改善しなければ。といってもやはり家のつくりがちがうからね。

学校は昨日からはじまったが、今学期は冬で寒いから学生が南へ行ってしまうと見えて、夏より少ない。気が楽でもある。ある時間は支那語の教授が来年日本へゆくので一人できくという始末。内職をしたいくらいだがね。しかし、ドイツ語で何かを書いて、発送したいと思っている。

ではお元気で。中村さんによろしく。うちのスピッツをもっていきたいなんて言うかもしれないね。みんなによろしく！

【発信１９６１年１２月１５日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

おたより有難う。まず要件から書きます。

〇高島氏、大田区馬込西４丁目

〇その後諸氏へ送って下さって有難う。第３７号は日本で書くから御安心。独乙旅行紀行文は田島秀君から雑誌に是非ほしいといって来たので「茨城歌人」にのせることにした。読者層はちがうけれども、相当あの歌誌は日本でみとめられて来た由で、面白いと思う歌ものせる。秀君がいずれ「歌人」誌関係の特集本として既にでているので。それは日本へ帰ってから。

〇送金のことありがとう。こちらのアタカさんの石山さんは個人的にユーヅーしてくれるので会社から会社というのはめんどうらしい。この頃も３、４万円のことならそうしてもらってもいい。すると石山さんのお留守宅へとどけていただいて石山さんにこちらでそれと相当のガクを融通していただくことになるわけです。石山さんは３００マルクくらいはいつでもユーヅーするようなことをこの間も言っておられました。望月君には別にお礼を書いておきます。

〇こちらにいて俸給があがったにはおそれ入りましたね。ボーナスはこちらではこの間百マルクあっただけ、今日の俸給にはなし。この間新聞で出るの出ないのといっていたが、とうとうドイツ政府は多分軍備へボーナスをまわしてしまった。多少は色をつければ人気も出るのにバカな奴だよ。

〇ベンル先生のところへ遊びに２８日に行く。

〇稔生さんは何だったけね、何かもらったのかね、とにかくクリスマスカードを書いておく。

〇年賀ハガキ御くろうさま、必要と思うところへ出しておいて下さい。先方から来てからでよい。

〇鮎川君からカードをおくって来たから、もし３６号が出してないなら、代筆でドイツからクリスマスカードの感謝にと書いて、贈呈して下さい。鮎川清臣、大阪府大津市。

〇歯がういたり、足の筋がはれたり、少々故障かと思えば、ホルモンの関係のことがあったり、とにかく変調では、こちらも一年以上はのばしていられません。まぁせいぜいお馳走をたべて下さい。子供たちもみんなエイヨーが大切だから、充分エネルギーになるものを食べさせてやって下さい。コーヒーはあまりのまぬ様に。あれは心臓にわるい。私もこちらで牛乳にしています。バター、チーズ、蜂蜜、野菜、人参、ネギの類、牛豚はもちろん。

〇レコードとカレンダーがとどいてよかった。次のもそろそろとどくでしょう。

〇岩内さんにもんでもらっていい気持かね。遠慮なく岩内、川口さんからもんでもらって、然るべく御礼をしておきなさい。川口さんはお金にも困る人ですから。

〇首のかゆみというのは実にしつこいね。眼ぶたのケイレンはスイミン不足、よく眠らぬといけません。この間も書いた様に、然るべくズベリなさい！

〇こちらでは毎週ニュース映画だけはみている。昨日大村君のところでお茶づけの御馳走になった。夜の１１時半までダベッタ。彼は私の書いたものにおどろいている。

〇歌子チャン、もう一学期だね、楽しく勉強しなさい。さむくないようにして。こちらは暖房は完全。外はあの満州帽をかぶっています。

〇信雄君、この間演劇のレキシコーンをみつけたので少しは参考になると思って送りました。大した本ではないけれども。君の演出の劇が演ぜられる由、大したものだね。大いに将来を期待する。身体が大切だから無理をしてはいけない。無理をして身体をこわすより、大学なんか１年くらいよけいにやったってその方がいい。しかしまぁ普通に卒業で結構。必要なベンキョーはしかしちゃんとやっておく様に。

〇照雄君、油がのっている由で結構。暮正月には１週間くらいいきをぬいて、１月６日あたりからまたやるんだね。

では皆さんお元気で。お父さんは名調子。ゴキゲンヨー。

【発信１９６１年１２月１６日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

──親展──

〇「キリスト新聞」社に「曠野の愛」を進呈してくれたね。こちらへ新聞社から直接に「キリスト新聞」が来ていますが（送料１５円）、６週間かかっているので、新聞が旧聞というわけ（キリスト新聞社からのあて名がきのスペリングがでたらめ、よくこれでとどくと思う）。それで「キリスト新聞」は来年度から自宅へ送ってもらって、順子が一通り目を通したら（不必要なところはカットしてもいいから）「印刷物」として空輸しておくれ。多分、印刷物なら１００円～２００円くらいでくるでしょう。それもこちらにつくのが２月の末まででよい。あとは家においておいて下さい。３月から旅行にでるから。

〇「賀川豊彦全集」全２４巻をとりたいと思う。待晨堂さんにたのんで下さい。第１回配本は来年の秋かららしい。予約〆切は３月末までとなっていたから、なるべくはやく。並製でよろしい。彼は社会的にまた文学的に、科学的になかなかはばの広い人であったから、いろいろ参考になると思うし、無教会のおたかくとまっているインテリとちがって私はあの様な人物の方が人間らしくて好きだね。抑々無教会のポーズがいやになって来た。藤井先生ですらちょっとポーズがある。

〇「キリスト教年鑑」１９６１年版（赤い本）の中の日本のキリスト教の歴史現代までを書いた部分がある。２ヶ所にわかれていたか１ヶ所だったかハッキリしないが、そこを破りとって「印刷物」として空輸至急おねがいします。これはこんどの講演に参考にしたいので。日本のこともある程度語ってもらいたい由なので（大学での講演）。「カクレキリシタン」のことを書いた本で手ごろなのがあったら（北村さんがもっているかも知れない）これも。「教養文庫」のような文庫版にあったような気もする。これも本年中に発送して下さい（空輸）。女子大方面の中村屋のちょっと手前の古本屋、市川さん、のどっちかにならあるでしょう。小さな本の方がいいくらい。

〇銀座へ行って教文館によったら、「曠愛」誌がどれくらい売れているか一寸のぞいてごらん。日本へ帰ったら或はもう雑誌の形式をやめて、１年１冊クリスマスの頃に単行本を出すようにしたいと思う。第３６号はその意味で終刊号となるかも知れない。或は３７号を出してそのことを宣言して、曠愛社はつづけていくが、今後は「聖意体現」誌のていさいの本にすることをしるし、読者に知らせた方がよいと思う。その方が気もらくだし有効であると思う。伝道するときもそれで読者をちゃんとつくれると思う。

〇安藤氏から２度ほど手紙が来て、小城君のことは大いに安心したらしいので、気をよくしている。彼は今、語学科全体の科長となり、独乙語科の科長でもあり、とても忙しいのでボヤイている。正直パウルスさんのところから通うのは来年でよかった。もうしかし、さきが見えてるから勿論ここから通う。市の中で便利がよく、本も相当買えるだけの俸給（手取り１０００マルク以上）ならドイツに停年までいたっていい。１０００マルク以上なら奥さんもよべる。奥田君などは大体その部類です。交換教授のタイグーがなぜこんなにわるいか一寸おかしい。でも決まっていてこれはカンタンに動かせないとベンルさんが言っていた。ドイツ政府は日本へ交換教授にドイツ政府から補助をだしている由。日本の政府はいよいよもってケチである。私はこちらで４月１５日の俸給日にもらってからいよいよ日本への旅にのぼる。４月１６、１７、１８日の三日のうちのどれかにたつことになろう。

〇将来、順子と伊豆半島のどこかで住むことに「大賛成」でうれしい。子供たちにもうれしい避暑地となるにちがいない。兄さんにももちろん来ていただく。こっちもタデシナに遊びにゆく。タデシナは一年の中、夏しか利用できないくらい寒い。伊豆なら一年中です。どうして兄さんが伊豆にしなかったかと残念に思う。タデシナの方の土地をもう買ったなら、それはいずれ然るべきときに売って伊豆の方のにしに出来よう。人生も６０となれば活動よりしずかにして書く方が私の様な身体にはふさわしいだろう。とにかくその前に温泉まわりを少しやろうね。一年間の御辛抱のうめあわせに楽しい時がもてよう！　若がえったそうで結構。こちらの女の子は結婚、婚約までは相当自由な交際をしていることをちょいちょいきく。あぢを知っているのもかなりいるらしい。合理的にそれも考えてやっているわけだ。案外なものだと思った。ハンブルクは有名なあそび場があるので会社関係の人には面白いらしい。

〇クリスマス（家の）のときにはまたみんなからよせがきがくるだろうと楽しみにしています。「見本」というおくり方（ドイツの）は一番やすい。最初のはバカ正直に会話言葉が吹きこんであるなど言ったので、手紙と同様にあつかわれて３、４倍高かった。市内の大きな郵便局ではいそがしいもんだから、そんなことを一々きかないでカンタンでいい。

〇私の手紙はみんな一つの箱に入れてあるね。もう何通になったか随分書いたね。順子のもこちらで一つの箱に入っている。数えてはみないが相当な数である。他日ドイツの思い出を書くときの資料として大切なのである。

◎さて今日、私はハッキリ来年２月に行う二つの講演（大学でのと教会での）の主題が定まって、とても気が楽になった。教会ではマルコ伝第１０章の「汝一つを欠く」を主題として展開。大学では「わが福音」（これはパウロのロマ２・１６、１６・２６の言）を題に、副題は「一日本人の告白」と題して語る。それで日本のキリスト教史にもふれたいわけなので、おねがいするわけ。無教会のことにもふれる勿論。それで三一書店のあのパンフレットの石原兵永さんの「無教会史」、私の書斎にあるはず（小さい本）がみつかったら、表記なんかははがしていいから（軽くするため）空輸して下さい。とてもいい講演になりそうだ。今から楽しい。これなら、所謂神学的な講演でないかいら、学者も歯がたたない。それでいて自由に神学的なことも語れるというもの。どうだい大した秘訣だろう。また日本人が何を語るかと思ってききにもくるだろう。これは是非、印刷にしてもらうつもり。ザンシン的且つおかすべからざる権威をもって語る。

〇別便、幕屋あてにクリスマスのための最後のたよりをする。

〇万一それがおそくとどいたときは、この最後に書いた主旨をみんなに語っていい。但し幕屋のそとで語ってはならないとつけ加えて下さい。御キゲンヨー。

【発信１９６１年１２月２６日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

──親展──

〇順子！　２０日のおたより２４日に早くもつきました。先ず要件から。手紙やテープがとどいて安心。クリスマス予定通り楽しくくらしたと信じ感謝。ハレルヤ。家のクリスマスは今日２５日かね。これも私が今これを書いているときは日本では終っているわけ。

〇ボーナスは案外よかったのでうれしい。しかし物価があがっているので平素の１０万くいだね。それでもよかった。必要なものにつかって下さい。こちらへおくる必要はない。私の旅費の補助はいずれ書きますが、５万円この間のおかねから。ボーナスにはふれないで、ボーナスは子供らの学費に。足りないときは兄さんから遠慮なくといって来たから、お願いしなさい。

〇三浦三郎君に３６号をおくり、私の名を代筆し、「新年に御恩寵を祈ります」と書いておくれ。

〇篠田英雄さんにも３６号をおくり「謹賀新年」と書いておくれ。

〇推薦状依頼の大島末男君のたよりが来た。郵送料はそのままでよい。

〇佐藤勲、小枝子、牧の三人の名を書いて感謝状（年賀）と３６号を１部送って下さい。

〇渡辺正雄の本をかえして下さる由。御苦労様。彼とは絶好常態でよい。

〇日本キリスト教学会の会費、こんどは払っておくれ。日本に帰ってから脱会するかを考える。

〇ゲーテ協会のこと有難う。それでよい。

〇矢内原先生の重態にはおどろいた。どういうことか、神知りたもう。

〇小山周次の展覧会のことは１月７日の日曜に長坂、杉本君には話しておいておくれ。

〇淡路三原教会のキフはしなくてよい。ホザナも勿論。

〇有賀教授退職祝会、必要なし。私は別に交際はしていないから。

〇婦選会館のこと前途遼遠とは!?

〇信雄が無理しない様に、かさねてつたえておくれ。もう劇研もカイサンがいいだろう。いろいろな意味で無理でそのために一身をギセイにするは不可。

〇暖房や湯の設備、帰国したら大いに改良しよう。

〇パウルスさんのところのクリスマスは２４日の晩。クリスマスプレゼントをパウルス夫人から一丈敷きほどの手織りジュータンをもらった。この次の手紙のとき感謝のことを書けばパウルス夫人につたえる。子供たちから本とローソク。私は夫人に三越のローケツの紙入れ、おばあさんに香水、子供たちみんなに上等なイギリス製のワイン１本（２０マルク）をおくった。子供たちはパウルス夫人からいく通りももらった、オーヴァーやワイシャツ、普段かっておいてゴソッと出すわけだ。そういう話は帰国してからゆっくりする。

〇ドイツのクリスマスは全く家族的でよい。讃美歌もうたった。本当のローソクを２５本ほどクリスマスツリーにつけ、あとは金の玉をたくさんぶらさげてあった。

〇２２日に奥田君とエーデル・ワイスで一泊。奥さんと女の子を空港にむかえた。奥田君は子ボンノーで、子供中心だからそれからはロクにはなしもできなかった。この点はドイツ人の子供の育てかたに学ばねばならない点があると思った。２３日には、石坂君がアムステルダムからくるし、二人の友人を適宜に応接するのに気をつかったが、うまく時間の利用もできて、どちらも満足していた。２４日は夕方、ティリッケさんを見舞ったら、もう元気になっておられ、教会へ同道した。教会は普段の十倍で超満員。クリスマス信者がこんなにいるかと思って、なさけなくもおもった。いずこも同じ秋の夕暮、ただ武さしのはチガウ、たしかに。２３日（金）の晩は港の船の食堂で日本人会の忘年会、１８０名。奥田君をつれて行った。寄せのまねをクロート的にできる人がいてとても面白かった。芸大出身が二人、ピアノと独唱をした。清子のことを思った。清子もしばらく子供は一人にして、得雄君と外国へ行ったら、レンシューしたらいいと思った。志があるなら、本当は子供は外国から帰ってからの方がよかったと思うけれども、こればかりはやむを得ぬ面もあろう。どうも愛の衝動と愛の果はあたまではどうにもならぬ！　どうか、初子が祝福されるように。清子が福々しくなったそうでうれしく思う。お産は私が帰るころらしいね、たのむよ。

〇ところで日本人会のくじ引きで１８０人の中の一等賞をカクトク、夢の如し！　「ミノックスＢ」という時価１００ドル以上（４００マルク以上）のよし。なにしろポケットに入れてどこにあるかという様な小さな優秀品。アナウスされてしまったよ！　これからは望月君のはカラーにつかって、ミノックスでとろう。

今日２５日はゼリガー君（２１才）が南から来た。この青年は来年春、日本人の恋人をしたって日本へ行き、日本人の主として美術品の研究。おごってやった。

◎一家のロクオン有難う。みんなによろしく。とてもたのしい。よくうたってくれた。おばあチャンにくれぐれもよろしく！　パウルス一家もよろこんできいたよ。説明をした。

〇この頃ずっとすばらしい天気、寒さもすごく、アルスター湖が氷り、湖上を歩いた。キリストは水の上を。全くケタちがいの主である。

【発信１９６１年１２月２９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

〇１９日付のおたより本日２９日、普段の二倍の日数がかかって到着。これも多分１月１０日ごろつくだろう。有難う。こちらは２０年振りの寒さとか。毎朝樹氷が室からながめられるし、アルスター湖は完全凍結で楽に湖上を歩ける。去年はこんなことはなかった由。１２月はまだ寒さの入口。１月、２月が本格ときくからおそれ入りたり。しかしこんな寒さがそうつづくのでもなかろう。でも、とにかく全体としては特に寒い冬に相違ない。ただ御安心、極めて健勝！　室内は冬知らず、１月、２月は、日、月、木のほかはなるべく外出しないで籠城、ティリッケ博士は病気がなおった。この間、クリスマスのとき見舞ったら、お元気でよろこんだ。本もいただいた。一緒に教会へ行った。多分、私の講演をききに来られるだろう。むしろ聞いてもらいたい。順子にはこちらのことはわからぬかも知れぬが、正直今武さしのの我らの水準は第一流であることをよく自覚して、幕屋のために心からつくしてもらいたい。というのは、無理をして肉体的にはたらいてくれということではない。この福音を心からよろこんで心の協力をしてみんなとよろこびをわかって若い人々をいよいよはげましてもらいたいという意味。

〇北村がバカなことを言ってこまる。彼女は冗談がわからぬ人だ。独身でヒステリーの面もあるのだろう（秘）。「誰もなぐさめてくれない」とは日本からのはなしではない。ドイツ人が総じてかたく、本当に心のあうドイツ人が居らず、それでこちらにはなぐさめがないから、私自信がこのカタイ独乙をやわらげ、つめたいのをあたためて正直居るけれども、教会の人々もいつかも書いた様に「笛吹けどもおどらず」。しかし、言うことは言って帰る。全身にこもるわがキリストの火を投じてだ！　日本からは武さしのの皆さんからたよりをもらって心あたたまっていることは言うまでもない。彼女が冗談も言えないようなトゲトゲしさがあったりするから、ドイツがつめたいという意味でラヴレターを大いに書きなさいと冗談に書いたのにそういうユーモアがわからず、彼女の気持をほどいてやろうとするこちらの気持がわからないのでは書きようもない始末。順子からは最も多くの言外のラヴレター（わかっているね！）をもらっていることは勿論、数えてみないが数十通もらっているし、私は言うまでもなく家にもっとも多く書いている。武さしの幕屋にかくときも、順子方と書いたことはないはず。いつも順子を筆頭に書き中心と考えている。私の深遠なる愛を順子がわからぬはずなし。北村の失礼もはなはだしいものだ。彼女はとりあつかいにくい女性だ。ほかの人たちはみんないい。もっとゆったりした気持にならねば彼女はやはりひとに愛されない。それで結婚もむずかしいんだろう。誰がどうのこうのと我情をつかいすぎる。

〇クリスマスカード、パウルスさんのみんながよろこんでいたよ。織物業だけあって模様の美しいものはすきだね。歌子のドイツ語もまずよろしい。そして順子が書いたということもすべて説明した。御安心。

〇江部さんへクリスマスのあいさつをしておいたよ。

グルシャックさんのもたしかに、イスラエルではグルシャックさんの親戚に会いたいから紹介してくれと書いた。まだ返事はうけとっていない。

〇テープだけは日本の方が高い。「見本品」とすると安心だがね。こちらからの私のは安かったね。

〇中村（九州若松の）からテープが来たけれど、多分お二人の「うたい」でしょう。波長があわず何が何だかわからない者でガッカリ、何とかしてきける様にしたいものだけれど、それにバンドが一まわり大きくてはまりにくい。そのことは既に中村さんへ直接書いた。

〇ボーナスはこの間の１７万円じぁないのかね。普段は１２月の月給が二回にわけられ、月のはじめにボーナスが来て、三回だったと思う。よくたしかめてごらん。

〇田中氏からいつ帰るかしらせてくれ、電話で。それによって帰りの切符を送るといって来た。順子が御歳暮をおくったから（ごくろうさまでした）、こんどは比較的早めにそんな手紙をよこした。勿論、私の問いあわせに対する返事だけれども、それで４月半にこちらをたつが、２月末までに旅券がほしい。船荷を出す関係で、と書いておいた。２月中に来ればと思うが、きっと３月になることだろう。あてにならぬよ文部省なんて。

〇三瓶さんから手袋のお礼もいって来た。彼女は忠実に集会の記録をきれいに書いておくってくれている。クリスマスの感激も数名から言って来て感謝しています。

マル秘、こちらのドイツ人に歌子の写真をみると「とても美しい！」といってほめる。昨日も私が手伝ってあげているDombrady氏に見せたらつくづく見入っていたね。清子はやわらかくて、歌子はあかるいという評判。

ミンナカラのヨセガキアリガトウ！　ノブオのゲキケン、今がカイサンのとき、来年はみっちり内容充実、籠城が最善！

◎駒場の機関紙「学園」に私の文がのっているから、東京大学教養学部学友会、学生部部長室に電話をかけ一部留守宅にもといっておたのみして下さい！

〇山県さんは感心な人だね、おたよりしておきます。心のあつい人だ。清子が教えたからでしょう。

〇手島氏がこんどの号で相変わらずのつくり言を書いている。ブルンナー先生のこと、ティリッケさんのことをあんなに書いては少々問題である。私の交わりもこれではできかねる。

〇無庵氏から順子のところへ１万円と何かお菓子がとどいたでしょう。名前は無庵氏ではなく、ドイツへお菓子製造の修行に１９６４年に来たいといっている青年の家からです。うけとったら、その返事を書いておいて下さい。何も雑費はかかっていないけれど、とりついだ好意に対する感謝として示したあちらの気持を受けとるという意味です。

〇打田君代さんからは手紙をいただきました。御主人が信仰がないのでさびしいらしい。お気の毒である。御主人はさっぱりした人ではあるけれど、頭が自然科学的なのだろう。

〇親戚からは吉彌さんから第３６号を受けとって、いろいろ書いて来た。宏君、野真君に第３６号をよませておくれ。ついでのとき二人に一部ずつ。

〇高橋三郎の本は勿論、彼が私に恵送したから、よんでみんなに紹介したわけ。

◎「日本のキリスト教史」（キリスト教年鑑１９６１年からやぶって）空輸おねがい至急!!

◎石原兵永氏の「無教会史」も一緒に（三一書店の小さなパンフレット）。

〇早大は信雄が御厄介になっているから５０００円でよろしい。日本の大学は全く商業的で困ったものだ。つまらぬ拡大競争。日本の学制は重大問題だね。

〇上田君はそのためのノイローゼか、気の毒だね！

歌子みたいなのがいるとそういうこともおきる。他にもおそらくいるだろう。

【発信１９６１年１２月３１日絵葉書／小池歌子チャン、小池清子サン／小池辰雄（ハンブルク）】

テープ、この間は私の声を入れずに失礼しました。ドイツの若い女の子も中年の婦人も乳母車をひいて電車にのりこんでくる。乳母車や犬をつれている人のための車がチャンとある。階段も誰かに手伝ってもってのぼりおりする。そういうところはドイツの男の人はよく婦人を助ける。電車でも老人が入ってくると、必ず若い男性または女性は立って席をゆずる。そんなところは日本はカラだめだ。やはりキリスト教精神が伝統的に生きているよい面である。子供たちは文句なしに可愛い。大きくなるとどうしてドイツの女性はあんなにいかつくなるかと、その点が合点がゆかぬ。もっとゆっとりした気持が欲しい。何しろお父さんの観察眼は多様性をもっているからね。

おばあチャンによろしく。お元気なお声でした。クリスマスのための歌の録音とてもたのしくききました。やはりひとりできいていると胸が一杯になります。お母さんの声も照雄君のアナウンスぶりもよく入っていました。信雄君がいつも演劇でこまりますね。

パウルスさんのみんなも、とても感心して「プリマ！」といいました。素敵だ！という意味です。みんな声がきれいだといいます。ドイツには大したカードがありません。クリスマス・カードの裏のウタ子チャンの虎の絵を皆がとても面白がっていました。

ではこの辺で。

【発信１９６２年１月３日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

○年末のおたより拝見。内田、岡田、小林の３老嫗が極楽行き。うちのお祖母ちゃんは人生のマラソンのチャンピョンだね、もっとガンバッテもらいたい。今年は猫の同類の寅年だから御祖母チャンは更に元気がでるだろう。冬は御大切に。この間のテープよくきこえたからおばあちゃんにくれぐれもよろしく。お祈りを感謝しますといって下さい。こちらでも祈っています。

○矢内原先生のことをまっさきに知ったのは松岡君のたよりで、そんな猛烈なガンだったとは。告別式のことは齋藤茂君からめずらしくたよりがあって、詳しくきいた。塚本先生の弔辞（前田護郎氏代読）がよかった由。賀屋係長のもいたれりつくせりであった由。非常に神経質な人は癌への可能性があるように直覚するね。酒もたばこものまないでいても癌になるから、どうもそういうものは神経の異常、緊張からではなかろうか。無教会にはゆったりした人が少ないが、塚本先生、黒崎先生、石原さんはゆったり型、内村・藤井・矢内原先生方は緊張型だろう。こちらから弔意のおたよりを奥様へ出しておいた。急いだのでハガキだったけれど。

○塚本先生は目下、平の方に行っておられる由。私が帰京しておうかがいするから、そのときに一緒に行けばいい。とても元気になられた由。

○宏のことは、帰ってから考える。とにかく帰るまでは代講してもらっておこう。宏にあったら、一応５月から私がやるたてまいになっていると言っておいておくれ。宏が昭和の専任教授になるためにドイツ語の時間を多少必要とするなら都合によって半分ゆずり、私が昭和を一日だけゆくことにすれば、まぁ彼も大いにたすかるし、私も昭和とのつながりは一日くらいもっていた方がいいと思う。手取り12,000円をいきなり棒では影響が大きすぎる。半分の6,000円はほしいと思う。

○内田君からたよりが来た。よろしく言っておくれ。とてもいちいち返事がかけないからといって。２月には大学と教会で講演をするので準備に忙しいから、すべてが終わったらおたよりしますと。

○相馬、清野、赤星さんにもプレゼント（留守宅への）の感謝をつたえて下さい。これも書けない。集会のあとでお３人にくれぐれもよろしく。

○その他、岩内、川口、荒井、山田さんたちにも同様のよろしくを。

○小暮さんには近いうちに書いておきます。

○手島氏はお礼だけ書いたね、それでよい。彼は私には好意をみせるのだが、いろいろそのときそのときの手を使うからイヤになる。

○高木君への返礼、それでよい。

○北村さんから人形と本を送って来た。人形はパウルスさんが欲しそうだから、帰りにおいて帰る。本はこんどの講演の参考書。感謝しておいておくれ。

○今日、幕屋一同から湯呑をいただいた。九谷焼「光仙」という銘がやきつけてある、しぶ味ありてまことに優なり。これは集会でくれぐれも感謝の意を表して下さい。これで晩にお茶をのみますと！　幕屋の皆さんを忘れる日は一日もない、それぞれ祈っていますと。

○千鳥まんじゅうと１万円（１万円は感謝の意ならいただくが）、おあずかりの意なら返却なさい（そんなのは少々馬鹿にしたはなしである）。

○金沢正子さんへは３６号を送って下さい。新年おめでとうございます小池、と書いて下さい。ドイツからは書きません。もう今年は春に帰るからたよりはあまりしません。勿論、順子との連絡はこちらを出発するときまで頻繁にします。

○千人以上満員の大教会堂の真ん中での録音（オラトリウム）、案外よく入っているので感心しました。之に反し幕屋のは雑音（機械それ自身の）があってききにくいです。もう帰るまで、そういうものは一切いりませ。非常にこれからやることがあって、読書、研究、執筆にいそがしいです。４月は目の前の感です。

○富田君と上原さんから「名草せんべい」大カンをいただきました。よろしくお礼をいって下さい。ただし、パウルスさんの家庭が何が来たというわけで披露すれば、まず３、４回で食べてしまうです。まぁやむを得ないです。大きなものはかえって食べられてしまうから、小さなものの方がいいです。小さいものだと一人でチョビチョビたのしめるわけなのです。そういうことはこういうお宿の生活の微妙なところです。大きなものがつくと何が来たかといって大騒ぎするからです。

○「聖書より見たるファウスト」「無教会史」「宣教百年」、たしかに本日とどきました。これで参考書がそろったので感謝です。出発のときもう少し時間があれば何もかもちゃんと持って来れたけれど、忙しすぎたのであとからこんな始末、お手数でした。まあしかし、目的が果たせるためには犠牲もやむを得ません。

○信雄にしっかりバンバンといって下さい。照雄にも。

○お母さんとしても二人に聖書を読むようにすすめなさい。こういう世相では結局、皆、精神的にゆきつまります。福音の世界をもたないと。

○まことさんの一家からおたよりが来た。みち子チャンがこわがらないのでおどろいた。ちえ子さんを通してよろしく。

○幕屋の誰からか名前がないのでわからないのが来た。三つの追羽根の絵がかいてある。

◎山本幸チャンからたよりが来た。何か可哀相でならない。集会にくるようにすすめてごらんないさい。私からもこには返事を書いておきます。中野区本町　高田方　山本幸子。３６号を私の名を書いて、新年おめでとうとして贈呈下さい。

【発信１９６２年１月９日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

――親展――　順子！

○武田叔母様の御訃報に涙した。せめても私の帰るときまでとはねがっていたが。しかし、昨年おたずねしたとき何だかうしろがみをひかれるおもいがしないでもなかった。一生を日本婦人らしく暮らされた人であった。ある意味では本当にお気の毒な人であった。信彦君にはバラの花のエハガキで御生前の御恩を謝して書いた。御香典は母のとき武田からどれだけいただいたか、兄さんとのつりあいもあるし、兄さんに相談の上でいい。私の気持では２千か３千と思っている。１千では少ない。よろしくたのむ（お葬式にはまにあわないと思う）。

○お金のはなしのついでに申しておくが、帰るとき５百マルクはこちらで受けとりたいと思う。その方法は石山さんから多分個人的に融通していただいて、それを東京でお留守宅におとどけすることになるでしょう。その他の公的なみちがあれば本当はそれの方がのぞましいけれども、無理の様ですがどうですか。５００マルクは換算してどれくらいになるか（今、１マルクが多分９０円くらいだろう。石山さんに計算していただきます）。２月が終わったら御相談するつもりだから、それだけは用意しておいておくれ。（幕屋から贈られた九谷焼、お茶やお湯をのんだあと、からなのに赤茶化た水が翌日になるとそこにたまるとはどういう現象かな。ヤキが不充分のせいかしら。）

○武田叔母様には『曠愛』誌はお贈りしてあったろうね。もしそうでなかったら残念であった。カードのたばで進呈ばかりの人の名のつらねたなかにあったはずだが。

○松尾君には３６号を１冊、「御夫妻にて世界一周お目でとうございました」と書いて贈呈しておいておくれ。

○クリスマス献金をそんなにもらってすまない。みんなといっても、特別に多額の人々がいるわけだが、内訳を教えて下さい（献金者の名と額とを）。

○「積立」はいつ期限になるか。あれは不便だから普通になおす様に、期限が来たら。

○１２月の俸給とボーナスとで結局どんなことになったのか、その後書かないのでわからない。俸給があがってどういう名称になったか、その額もわからない。

○永井さん、よかったね。ひとりぽっちで可哀相な子だったから。番地がわかったら（姓名と）教えて下さい。

○中村壽さんと君枝さんの録音は友人の回転数が二段になる大きな機械で内容がきけたから、「御丁寧な御挨拶とすばらしいお歌と承りました。心から感謝いたします」とおたよりしてあげておくれ。２月一杯は忙しいので失礼いたします、とつけくわえて。

○私の手紙の内容はみな順ぐりに果たしていてくれるね。

○野間君がとまりこんで、歌子に拍車をかけている由。結構なことです。こちらでも婚約者は平気で泊まりこみをやっている。婚約をすると左の指にリングをはめ、結婚すると右にうつすことになっている。男も女も必ずそうする。婚約までの若い男女の交際は相当自由でキスまでしてかまわないらしいし、もっと深入りしているのもある。とにかく毎日キスの場面は見せられている。電車の中だって平気なものだよ。

○徐君などはうちの幕屋へくればいいのに。酒枝君の教会へ行くんだって。世の中も妙なものだね。

○この春にゼーリガー君という郵便局員が日本のペンフレンドの恋人のところへゆく。岐阜です。私が帰ると東京へ遊びに来ます。

○パウルスさんの子供たちもしきりに日本を見たがって夢物語をやっている。

○今こちらで私が大分手伝っているドンブラデイも来春、客員教授としてくるでしょう（秘）。蕪村、一茶の研究家大したものだよ。ハンガリ系の好人物！　この暮にもハンブルクに来飯した。

○秋には私が保証人になってやったロータームント君が東京へくる。どこか下宿を世話してやらなくては。うちにとめてやれればドイツ語の相談には都合がいいがね。気持のいい青年です。パリーに今いるので、３月に彼に案内してもらってパリを見物します。

○みんなからの梅にうぐいすの広重の年賀状の香水の香りはハガキに香る。これは買うときからしみこませてあったものかね。

○ハンブルクも三寒四温式に変わる。室内は東京よりあたたかいので、衣類は多すぎた。

○元日は総領事館邸で東京式に日本食を味わった。キントンまであったよ。

【発信１９６２年１月１３日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

順子様！　辰雄。

○１月８日のお便り今日１３日（土）にうけとった。４、５日かかるテンポとなった。みんなとにかく元気で感謝。おばあチャンに可愛い猫のお便りをした。野間君がとまっていろいろ手伝ったり、歌子の世話をしたり、また得男君とも親しくなったり、いいことでした。我々の婚約時代には考えられないたのしさです。あのころ泊まったりしたら問題となるうるさいときだったね。こちらでも次男は婚約者とたえず行ったり来たりして泊まっている。野間君と歌子も、清子の場合と同様、二人ともうちの娘は自然に結ばれて幸でした。なるべく歌子もはやく婚約して指輪を左にはめた方が、そこらここらになやみを起こさなくていいだろう。野間君も集会に出る様になるといい。何といっても偉大なるキリストとのたましいの交わりがないと大きくのびない。私が帰京したら来るようにすすめたい。

○いろいろな友人からいろいろなものをもらっていることはみんな、月、日、姓名、品物を書きとめて（別のノートをつくって）おいて下さい。帰京してから、然るべく挨拶をする。こちらから、そのためにいちいちたよりをすることは出来ない。７０ペニヒの郵便代もかさなるとバカにならず。おみやげも買えなくなってしまう。どうしても私信を書かねばならない場合もこれで相当ある。

○武田の叔母様にはもう一度お目にかかりたかったが、人生とはこういうものだ。あの女中さんは本当に珍しい人だ。神のよろこび給う人だ。この先どうするのか気の毒なことにならぬ様に。「ドイツ、ドイツ」といっておられた由。胸があつくなる。叔父様のこととあわせて私をなつかしんでおられたようだ。叔母様がしかしハッキリした信仰の世界にとびこめなくてお気の毒だった。すべては叔父様に殉ぜられた昔風の典型的日本婦人だ。

○斎藤さんには一度、夏おたよりしたと思う。その後、御無沙汰しているが、様子をしらせて下さい。お見舞い状をそのうちに書く。

○ついでのとき、荒井君、渡辺はる子さん、長坂君、赤星さん、高森君に感謝のよろしくを。

○青木の実さんの病気は全く以外。どうしたことかね。老人結核ってどんなものかね、危険なのかね。大丈夫と思う。とにかくお見舞い状を書きます。このウェリングスブュッテル田舎なので、おいそれとエハガキを買いにゆくのも遠すぎるし、何さま市内でないので、いろいろ不便。もう２ヶ月だからすべてはコノママ。

○兄さんには時折出している。ではまた書きます。順子の手紙はみんな一まとめに箱に入れてあります。私の手紙をとき折よみかえして、私のたのんだことを忘れない様に。

○賀川全集を市川君へ申し込むこと。

○高安、徐君には歌子を通してくれぐれもよろしく。おたよりはうれしく拝見したと伝えるように歌子に言って下さい。

○「茨城歌人」から「ドイツだより」をおねがいするといって来たので、昨晩（其１）を書いた。多分３月頃の同誌にのるだろう。夏の旅行記を順に書くことにした。いい記念になる。

○そろそろ、パウルスさんのおくったローソクがとどいたかと思う。この間、富田君と上原さんから上等な大きなおセンベーのカンを贈られた。よろしく感謝を順子から言って下さい。私はこちらからたよりしたから。パウルスさんの人たちと一緒にたべている。

○パウルスさんはおセンベイが案外すきだから。入ふね１カン中くらいの大きさでいい（５００～７００円くらいの）。面倒でなかったら、というのは名店街でドイツへの贈り物をとりあつかってくれるなら、たのみたいね。順子からパウルスさんへとして。とにかく一年厄介になったという意味で。手紙は日本語で書けば、私が訳すから。日本のエハガキがいいでしょう。今おくれば３月にとどく。ドイツは日曜はPostは配達しない。何しろ時間の制限が多く、日本人には不便だよ。

◎４月の中に帰京と腹をきめた。帰京はなるべく４月２８日（土）までと思っている。４月２８日だと正に満１年！　５月連休はゆっくり休む。とにかくみんなに４月２９日の日曜は来てもらう。

○日本語の聖書（新約）送ってくれましたね。未だとどかないけれども。

○２月の講演準備。大体見当はついて来た。これから半月で書きあげます。大学はやりがいがあるが、教会はそれほどに思っていない。聞き手が聞き手だから。何しろこの頃は教会にゆくのもバカバカしくなって来た。よくあんなことでみんな満足できると思う。牧師も結局お説教。たましいの奥からの叫びではない。そこへいくと、長坂、杉本、荒井君たちと一緒にやっている幕屋は貴い集会だ。さっさとドイツをひきあげたくなる。もうしかし、じきだ。うれしいことだ。

○夢庵氏の言いつけで１万円おくった人にはそのまま返却しなさい。そんなお金は要りませんと小池が言ったといって。その青年がドイツへくるのは１９６４年１月のはなし。こちらの菓子舗もあまり先のはなしで笑い出してしまった。とにかく連絡のお役に立って結構でしたという意味を書いてくれればよい。青年は写真ではとても感じのいい青年です。

◎東歯（市川）の責任者は平井さんになったのか、歌子にたしかめておくれ。来学年の挨拶を書くから。では以上、御連絡まで。

【発信１９６２年１月１５日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

順子様！　いつも祈っていておくれ。辰雄（１５日）

◎歌子、信雄、照雄３人の在学証明書を至急送って下さい。１月の俸給からこの３人の証明がないので、税金を余計にとられて７００マルクをちょっと出たくらい。バカゲタハナシだよ。それならそうとサッサとはやく言ってくれればよいのに、不親切な奴だよ。ドイツ人の気のきかなさ加減には少し癪にさわる。紙片３枚（それぞれの学校の印のおした奴）、日本で駒場にとどけたと同じ様なのを送って下さい。これにこちらで翻訳をつけて出すのだそうだ。生年月日もおとさずに書いておいて下さい。

今日は念のために、私は一年間だから４月の俸給ももらえるかをたしかめたところ、それは学年末である２月以降３月、４月に何か学校の仕事をやるならもらえる、などとケチなことを言っていた。教授と講師（外人客員教授なのだが）をその様に別に見ている。もちろん日本学のベンルとおはなしをして、そこは適宜こちらで話し合いをつけておくつもり。こうなると、安藤君の場合のように３月まで仕事をして、４月に入らぬうちにサッサと引き上げようかとも思う。そしてベンル主任教授とはなしあって、４月の俸給を小城君がうけとる様にして、それを小城君がつかい、小城君の留守宅から月賦式に私が安藤君の場合と同じ比率でうけとるのも、小城君のためにもなるし、こちらも何も４月までねばる必要もないとも思う。いずれベンルさんと話してきめる。そして帰りにゆっくりイスラエルを見た方がいい。そうすれば４月２０日頃おそくも２５日までに帰れる。イースターが２２日だから４月１７、１８日頃に帰ったら最善だね。３月末にでればパウルスさんのところに４月を全然はらわないですむ。羽田には日のくれぬうちにつきたい。日本の景色を空から見たいから（まだみんなには言わぬ様に、いよいよきまるまでは）。

○１６日にベンルさんとこの件を話したら、どちらでも私のいいようにするとのこと。小城君に連絡してどちらかにきめる。

○清野さんに御年賀（御自筆のランの絵で字も絵も御上手だ）をいただいたから、くれぐれもよろしく感謝をおつたえして下さい。お返事は失礼するから。

○手島千代子さんから即席五木そばとおみそと米とをおくって来た。

○北村さんからお人形をおくって来た。純日本すがたの。いやはや、いろいろの御親切はありがたいがね。お人形は帰りにパウルスさんにあげてくる。この間の歌っているのも。

○そばの方は大村君と会食にするかな。

○荒井君から（夫妻）おたよりをもらったのでよろしく言って下さい。今、お返事が書けないのであしからずと。建築が次第に順調でよろこんでいますと。準備がすんだら、幕屋にゆっくり書きます、２月のはじめに。

○では冬ののこりをみんなおちついて暮らしなさい。２月７日で満５８才となる。

では、愛する順子、辰雄。

【発信１９６２年１月１６日／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

お手紙拝見しました。母上の日に荻窪へゆくよし。ちょっとこれは間にあいかねるかも知れないけれども、１６日午後出します。一枚、兄と姉とにあげて下さい。カラーでめずらしいから。塚本先生へおうかがいしてよかった。それでは帰国したらおよびするかね。長坂君にくるまをたのんで（往復）夏頃、杉本両君をもまじえてもいい。

都内で集会をもつことは東大をやめるまではやらない。

別便で手紙を書く。兄さんと姉さんによろしく。忙しいのでおたよりできませんので。基君御夫妻にもその旨、実さんやキミチャンにもその旨お伝えください。

斎藤さんお気の毒だね。どうしてそういうことになるかね。タケシさんという人は病気でねているとは知らなかった。どの道、斎藤さんは姉弟だからやむを得ないのか。でも吉祥寺でお身体は楽にしてあげればよいのに。

歌子に東歯への原稿は今は書けないといって下さい。この間、一晩半徹で「茨城歌人」に夏の旅行記の（１）を書いた。これは２月の仕事が終わったら、（２）（３）を書いてまとめあげたい。

◎信雄、照雄、歌子の３人の在学証明書を至急送って下さい。俸給に影響したから。

○歌子も３人ともこから大切な試験、充分栄養をもとって、ガンバリなさい。

○大学院よろしい。志の如く。

日が経つのが早い。

順子様　　　辰雄。

【発信１９６２年１月２５日？／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

順子へ！

○パウルスさんのおくったローソクは、あつい国を船が通るうちにとけたのではないかろうか、すると不着になるかも知れない。

○聖書は送ってくれたね（DANKE２５日に落手）、新約聖書２冊。

○こちらで５００マルクを石山さんから都合をつけていただいて間に合うようだったら、４月の俸給を安藤君の場合のようにして、小城君にこっちで使ってもらって私がその３分の２を東京でうけとるようにしてもいいと考えている。そうすれば日取りをゆっくり旅ができるから（但し未定）。とにかく、４月中に帰ることは確実。２９日は今日第一の集会、イースターとする。

○小城君がパウルスさんへとにかく入りたいと言って来た。３代目、いやはや。

◎東京へ帰ったら、私の最大の唯一の仕事は大詩篇を書いて全世界にむくいる！　烈火の人間となりつつあり。それまでは死なない。

○大学の講演の原稿は既に大半を書いた。金、土、日の三日間で仕上がる。

○教会の方のは来月に書きます。いよいよ、こちらの仕事の最終の月、２月が来る。ハンブルクは今までのところあまり寒くない。東京は寒いらしいね。

○信雄と照雄と歌子と皆、試験でガンバッテいるね。心からのよろしくを。

○信雄の劇研はどうなった。まさか赤字をしょいこんで困っているのではないだろうね。ひとのわるい連中におしつけられない様に用心しなさい。

【発信１９６２年３月１４日？絵葉書／小池順子様／小池辰雄（ハンブルク）】

別便でミノックスでうつした写真等を印刷物としておくります。第３回注射も終わり、１３日は総領事広田氏に個人的なまねきを受け、純日本食の御馳走とモーゼルワイン、とても美味しかった。ここの官邸は昔の貴族の邸宅の様な立派さ。大したものだ。菊の御紋章が正門についている。いよいよ、明後日出発！　すべての道に護られることを確信して帰る。断乎として使命に邁進する。この１年は本当にその意味で有益だった！　再会の日まで。今晩はアタカさんのゴチソー！　みんなによろしく！

【発信１９６２年３月３０日／小池順子様並びに幕屋の皆様／小池辰雄】

３月２９日午前９：３０Paris発、１２：３５Wien着。ロンドンで偶然あった南極探検者に教わったWienのホテルKaiserin Elisabethに投宿。空港Frankfurtで一緒になった人（耳鼻咽喉科医）が私と共に投宿。殆どこの人と行動を共にしています。その晩早くもBurgtheaterという世界的に有名な劇場でJean Amouilh（ジャンヌ・アマイ）というフランス作家の“die Ehre Gottes”「神の栄光」という四幕劇をみる（ドイツ語）。なかなかの熱演。３０日（今日）は午前も午後も遊覧バスでWien見物。Schoenbrunn王城は豪華なもの。Schloss Belvedereも。午後は郊外方面でBeethovenのHeilephen stadt（第５、第６を作曲したところ）の跡もたずねる。その他二つの丘の上にある全Wienのながめもよかった。３１日はStadttheaterで歌劇リゴレットをみることになっている。Wien満喫！

# 「西独ハンブルク生活より」（短歌）

自　１９６１年４月２９日

至　１９６２年３月１６日

飛雁

〇鹿島立ちあわただしかりくさぐさのことも仕事も棄てて出でけり

〇旧き友われと妻子をにて羽田空港へ道しるべせり

── 望月健一君の好意

〇武蔵野の幕屋の友らの歌ひてし「神はわがやぐら」に我れ勇みたり

〇樓上の一角に湧き起りたる「神はわがやぐら」歌声強し

〇飛行機のの上ゆ振り向けばよりの声ぞ身に泌む

〇飛行機の窓べによれど見えわかずそ彼れよりも暗き宵闇

〇見送りの人の姿の見えわかぬのよりなきはなし

〇離陸せりわが人生の前篇にを告げし日本なり

〇わが路を知り給ふ神にゆだねまつる右も左も見えわかぬ我れ

〇見えめぬ白き山々と針葉の林まだらのアラスカの原

〇北極のへ飛びゆく雲の上手にありに陽あり

〇東西の文化をすや月と陽よその融合をすとぞ知る

〇せばの影あり白のとはあやしきことぞ

〇高々度三万七千よりり降りてに突き入る

〇エア・フランス指しかかりたり北ドイツ海岸線は地図さながらに

〇低空の飛行に入れば赤屋根と緑の森のドイツなりけり

〇も音には聞きしドイツ国始めて見たるこのや

〇ジェット機の車輪が大地に触れしとき吾が人生の後篇に入る

〇機上にて親しくなりし隣人が「先生おめでとう」とことほぎくれし

〇つ国に降り立ちて見れば有難しパウルス一家の出迎うるあり

〇をここに過さむわが部屋のに寄れば万感の迫る

〇過ぐる年ワグナー・安藤暮しけると椅子と取りつけベッド

── 先任の交換教授高木卓兄〔筆名〕はワグナー研究の第一人者

〇み霊なる主のみふところに身をゆだね夢路安けく今宵もねん

〇快き獣医の家の客の間にロダンの傑作「接吻」を見る

〇しののめの空に流るるアムゼルの歌にほのぼの旅寝めさむる

〇庭さきの林檎咲き匂ひ小鳥も歌ふの春

〇日本語を学ばんとするゼミナールの若き友らの手びきうれしき

〇教会の鐘のに導かれ道を辿りし初つの礼拝

── ハンブルク市東北部のウェリングスビュッテルのルター教会、1961年5月7日

〇アルスターのにれ往く白帆影冴え冴えと映ゆ緑の丘に

〇波船路はるけく来りけり旅に備へしの本

〇色のしるきアムゼルが芝生に降りて喰ひおり

〇のそぼ降るなかを配り来る新聞売りの乙女に遭えり

〇気まぐれの空なり今晴れてはやくも曇りまた降りきたる

── これは四月から始まるのでハンブルクではこれをアプリル・ヴェッターという

〇外出にかを忘れなば一度や二度の洗礼欠かさず

〇ゆ帰る路々たはむるる金髪の児らげにしけやし

〇髪刈り洗ひ髭剃らせ幾らと問へば五マルクを越ゆ

── 当時日本では百円二百円程度だったから驚いた

〇芝生にてクロッケットに興じけりところ変ればも変る

〇林なす墓のに偲びたり苛烈なりけん空襲の

〇黒石にの横文字刻みたる墓碑は惹きけり旅人の目を

〇多摩よりも広くあるらん浅緑かがやふ墓地オールスドルフ

〇逞しき樫の巨木をうち仰ぎに偲ぶ宗教改革

〇そそりたつ樫の葉蔭に咲く小花宇宙の心ここにこぼるる

〇朝陽さし緑したたるの樹のの下路を踏みしめて往く

〇路の辺の草に交りて咲く花にの如きほほ笑みのあり

〇牧場にてのんびり草む牛どものただ中を今日は始めて通る

〇林間に蜂のをすておきて翁ただひとりに憩ふ

〇ぶんぶんと飛び交ふ蜂を子らの如で飼ふ翁の心嬉しむ

〇ひをゆく路をなみ踏み迷ひ草わけ越え牧場よこぎる

〇胡月亭の夕の窓ゆうち見れば虹は二重に空を彩る

── ハンブルクの日本料亭

〇たのしみはみ空はるけく東より飛びて舞ひ込むをよむとき

〇たのしみは仕事を終へてはるかなる親しき友らにを書くとき

〇たのしみは古書店歩きで念願の古書を見出でて手にしたる時

〇ヘブル語とルタードイツ語対照の聖書見出でし古書店帰り

〇観念の壁を破りて語りてし真理に異郷の友ら欣ぶ

〇ゆくところいづこなりとも胸襟を開きて語れば主の愛は勝つ

〇路のべに乙女こごみて何すらん手負ひのをいたはりており

〇朝日かげ匂ふ緑葉々し底ひもあらず澄めるみ空に

〇日本使命は重し祈り入りキリストに生きん真理に生きん

〇「一切の秘訣を得たり」と語りけるパウロの心は旅の身に沁む

〇力ある愛のわが主に身を托し愛の化身と我れならまほし

〇旅に来てつらつら知れりの幕屋の路のなりしを

〇賜りしこのを限りなく価値あらしめん聖力にらん

〇聖霊よわれを火となせ風となせいのちのみ霊のたらん

〇焦点は十字架されて聖霊のバプテスマ受くる信仰にあり

〇なく五十路の峠を迎へたるがこの日を此処に憶ゆる

── 順子五十歳の５月２５日に

〇まめやかに励みて迎へしこの峠くつろぎ憩めよ子らと睦みて

〇聖手により旅路つづけん相助け幕屋張りつつ神の山まで

〇ただ独り街を巡りてゆく我れの旅の心の影は映らず

〇わびしらの旅のもありがたしみたまのにぞ湧く

〇れ易きこのよみ霊なるいのち宿さでなどか生き得ん

〇われはげに八方破れの幕屋なり扉無ければ霊光のさす

〇武蔵野の幕屋の友らよひたぶるにわれらにびしこの道を往け

〇武蔵野のペンテコステを想ひつつ時空を越えて祈りてありし

〇栄光のみ霊臨みて武蔵野のペンテコステにめぐみ満ちけん

〇贖罪の十字架の主に身をまかせ聖霊のバプテスマ受くるうれしさ

〇使徒たちのみ霊の道は杜絶えたり草を分けつつ路を開かん

〇わが涙神のみぞ知る思ひやり深きみ胸にり入りて泣く

〇半世紀経ちにけるかも「愛ちゃん」のみまかりし日よ星夜に祈る

── 高師附属小学２年生のとき地を去りし妹愛子の日、６月５日に

〇愛こそはいのちのいのち我れはただ愛のいのちを頒たんと念ふ

〇愛は勝つ愛のみぞ勝つ我はただ曠野に愛の花を咲かせむ

〇いつにても祈り心に帰り伏し主を念ずれば路の開かる

〇主にありて愛する友らよ祈りせよ祈りは胸のにてこそあれ

〇祈らずば心曇らん祈らずばいのちれなん祈らでやはある

〇「義」なる字は羊の我と書くなれば主命信従を義とはいふなり

〇みたまなるイエスを胸に宿さではいかでかのをなし得ん

〇この身には仔細はあらずあるがまま往かざるを得ずの一路を

〇とはいかなるものかと厳密にめんとする「神学」やあはれ

〇「神学」は細筆をもて緻密なる画をくに似たり通はず

〇血の通ふ神学ぞ在るいつの日かわれ書きて見ん太き筆にて

〇「無教会神学論」はその緒なり我には教会・無教会も無し

〇キリストの使徒らの次元に突き進み霊のを告白すべし

〇使徒的な霊信失せたる教界なればわれは、たらむ

〇驚けり千数百の会衆は早くも堂にを待ち居り

── １９６１年６月１８日 ミカエリス教会に於けるティリッケ教授の日曜講演

〇壇上の月の輪とのティリッケ教授の姿ものめづらしや

〇渾身の力と智慧をぎ出だし聖言を説く勇まし

〇ルターの「良心宗教」をうけ継ぎてりに「決意」を説きてありけり

〇パウロなりパウロの霊信いづくにかあるパウロを相手にわれは往くなり

〇カイザルの貨幣は彼に返しつつ神のものなるこの身は神に

〇ミリエルの僧の心に通ひ来てわが胸かろし神のなり

〇我れを無みし世を無みひたぶるに祈りぬく身に霊泉の湧く

〇われはただ主のふところに眠るなり目さむる朝けの力うれしき

〇終末の愛に生きてぞ貫かん一つの旅の果てまで

〇わが心今や決せり情熱を傾け尽くして大詩ものせん

〇天来のみ霊よわれを貫きて一大叙事詩を世に投ぜしめよ

── １９６１年６月２５日

〇さるにてもは永しカイロスの迫るときまで筆は執らざり

〇マタイなる福音の読みけば主と一つなりみ霊の

〇夕暮れて集ひ来れる学徒らに「わが福音」の粋を聴かせぬ

〇霊風を腹に孕みて語りける「わが福音」に驚きあへり

〇語るまにまに形式のに飽きたる顔びぬ

〇カトリック、プロテスタントのわかちなきわが証言に胸うたれしか

〇観念か御利益の信かパリサイか霊徴か否主に在らんのみ

〇「われに居れさらば祈りは成るべし」とげにありがたし心安けし

〇沈黙の雄叫びをあげて聖名をよび主の聖力に満つる歓び

〇小夜更けて冥目しつつはるかなる友ら慕ひて祈るひと時

〇船ならば羅針盤なり飛行機のレーダーなるぞの祈りは

〇夏学期終るや否や学生と白帆かかげて乗り出でにけり

〇夏雲に映えて美はし湖のヨットの帆影夢の如くに

〇をかすむるを帆に孕みあげつつ波わけてゆく

〇ゆくりなく友の来りて馳せエルベ河畔のたのしむ

〇デンマーク、ドイツは北部、オランダの連なるあたりは果てなき原野

〇「な懼れそ我は汝と共に在り」の奥に聖声の聞こゆ

── ニコライ聖歌隊合唱、イザヤ41･10､43･1

〇いやはてに耳朶をうちたるみ言にわれ抱かれぬ「れはわが」

〇降りしきる夜更けの路をすべを無み帰り来たればぬれ鼠なり

〇七夕のなりけりにてヘルマン夫妻をひけるは

〇七夕の夜路を独り辿りつつつをじっと仰ぎし

〇ドイツには美人居らずと誰の言ふやよたまさかに生きヴェヌス居り

〇の犬を両手にあやつりてゆくの影おもしろや

〇ゆくりなく紅燈の巷に出でし夜に遊女と語りし主をば想へり

〇あさまだき夢路往きつつ若人に終末論を説きしたり

〇ぞひの芝生の上の鴨の仔ら親に追はれて跳び込みにけり

〇教会の聖餐式にある朝けつらなりたりき心ひらきて

〇照りつくる初夏めづらしやエルベ河畔に天幕の村

〇初夏の光を浴びて砂浜に横たふ人魚の水衣のすがた

〇あどけなし汀に遊ぶ子供らののすがたはパラダイス

〇大いなる汽船の上り下りするエルベの流れにじっと見入りし

〇帆船も汽船のかげを滑りゆくエルベの船路賑はしきかな

〇鉄骨のドックの姿いかめしきドイツの玄関ハンブルク港

〇夕映の原野に群れて三葉む羊群をる牧人の影

〇野の草を喰みてありけん仔鹿二頭人跫を聞きて林にかくる

〇紫の匂ふエーリカの咲く野趣ゆたかなり立ち去り難し

〇建築の大設計に余念なくたのしみいそしむシュタイン技師かな

〇一流の建築技師にふさはしき設計室に感服しけり

〇ミヒャエリス教会塔の上に立ち霧姻る港市を眺む

〇天つ風吹きくるなべにるのを伝へしバッハ

〇年若きヴィオリニストのブランディスその精魂を傾けて弾く

〇散るよ散るの葉衣綻びてさらさらひらひら秋の風情よ

〇たらちねの母は在まさず異国にて「母の日」迎へて昔偲ばゆ

── 母は米寿を迎へてのち１９５７年１月１９日に召天

〇母上のみまかりてより五星霜この日迎へて独り涙す

── １９６２年１月１９日

〇人の世の無常にうたた思ひ佗ぶ帰り来らぬ過ぎしよ

〇母上の形見はいづこにとどむらんわがなる「精神一到！」

〇失明の後半生を偲ぶれば断腸の念また新たなり

〇ほかほかと冬の陽ざしのやわらかき障子のかげにり給ひき

〇あたたかく光やふ日なりけり母のを営みし日は

── １９５７年１月２２日を偲びて

〇母上よ御照覧あれ母上よ我必ずや御恩に応へん

── 以上八首母の命日に異国にて五年前の母の召天を偲びて

〇父上よ想ひ出はげに乏しかれど父の情感わが衷に生く

〇とは彼岸なり此岸に遺るは風雲の二龍

〇血をわかつの恩愛忘れでやはある恵まれし我れ

〇相共に遺れるの恩義にも応へでやはある使命ある我

〇キリストのみ言み業いづれにも燃えて尽きざるはみ霊の生命

〇わが胸に燃ゆるみ霊のこの炎吹くとも消ゆることなし

〇み霊なる主はこの胸に在ますなりいかでか道を伝へでやはある

〇節分に「汝は我に従ひてわが群をへ」主はたまへり

〇日の本のの歴史の此の危機を突破せよと主は宣たまひぬ

── １９６２年２月７日 誕生日ハンブルクにて

〇かがなべて五十と八つの生誕をここに迎へて大望の湧く

〇わが神よなほ藉し給へを三つの使命貫徹すべし

〇伝道と神学論文、大詩篇三相一如のわが使命なり

＊

# 「西独周遊旅行にて」（短歌）

自　１９６１年８月　７日

至　１９６１年８月２６日

飛雁

〇旅人のわびしき胸をやはらげしリューネブルクのエーリカの波

〇広場には泉ありけりその中におとぎの国の乙女見出でつ

〇なつかしや「ハルツ」に読みたりしをそぞろあるきぬ

〇河沿ひに弧を描きゆく列車よりあかず眺めし変転の景

〇学問の歴史を誇る々にドイツのさをしみじみと知る

〇聖餐をル・ツの二人の諍ひし城の室にて吐息つきたり

── マールブルクの城中のルター・ツヴィングリの聖餐論諍

〇その昔水戸高校に学びてし「ウェルテル」の里をべに想ふ

〇カンパニアの廃墟に憩ふゲーテなりゲーテに憩ひて去りがてなりし

── フランクフルト美術館にて

〇万象をじっと見詰めて本質をつかみしゲーテのに見入る

〇オランダの巨匠の描きしサムソンの劇的捕縛に息をこらしぬ

〇若人の教会連合の集りに証しの言ぶちまけたりき

〇半円に夏草をいだく城壁の中に苔むす望楼のあり

〇は包字形なり城楼と望楼一つ夏草の中

　　── デイールスベルク古城址

〇城山の横穴深くまさぐれば城の真下の真洞の泉

〇美しき自然の中にも攻防の城跡はあり嗚呼人の世や

〇名にし負ふ城の地下なるあなぐらの大酒樽に瞠目しけり

〇青春の日より久しくあこがれしハイデルベルク夕景かなし

〇羊腸たるネッカール沿ひの街道を上り上りてウィンペンに着く

〇僧院の小暗き土間に佇めば修道の壁神さびてあり

〇僧院の中を巡ればいにしへの修道の霊気ひたひたと寄す

〇獄中に霊想しつつ筆を執るパウロの背びらに霊光のさす

── シュツットガルトの美術館にて

〇信仰の使徒の徴の霊刀はの如く並びて立てり

〇南独の人情あつきもてなしに一夜の眠り安けかりしも

〇貧しかるシラーの生家のゆかしさよ自由の灯火ここにれり

〇ドナウ河畔世界最高の塔そびゆノイウルムなる大聖堂の

〇その八十路を越ゆる師の君が杖を曳きつつ出迎へ給ふ

── 日本学の泰斗ウィルヘルム・グンデルト博士

〇主の中に生くるの乏しかるキリスト界を師も嘆きたり

〇食前の祈りの言は慕はしきテルシュテーゲンの讃歌なりけり

〇ひたぶるに『碧巌録』に明け暮るる師の訳業のすがた貴し

〇『碧厳録』第一巻と『讃美歌集』記念に賜ふ感涙のわれ

〇師の君と語り交せばはてしなし三十路あまりの語り草なれば

〇駅頭に帽子振り振りいつまでも見送り給ふ「」

〇この別れ再た会ふ日までは彼岸まで延期されたり噫人生！

　　── 後日の作

〇東西に遠く伸びゆく湖の真っただ中を中字に横ぎる

〇西陽さすボーデンを横ぎりて往くに鴎飛び交ふ

〇少年をいたはる姿の銅像は愛の権化のペスタロッチぞ

〇清らけき自然の胸に育ちたる賢者の心は神に通へり

　　── スイスのヒルティーのこと

〇ブルンナー博士の書斎に招かれてヴァイマール版の「ルター」に会ふ

〇「アルプスの乙女」にゆかり浅からぬ湖畔に詩情を味はひてけり

〇スピリーがしばし住まひし湖市なればなつかしみつつ橋を渡れり

〇沿ひの町々の灯に人の世の有情しのびし船路かなしも

〇雷鳴は山に湖面にして走るの上かな

── 正にウィルムヘルム・テルの序曲の如し

〇日本とは勝手なる発車ゆえふとまちがへし汽車はベルンヘ！

〇溪川のせせらぐ谷間をのぼりつつ水郡線の眺め偲びし

〇ヴェンゲンの崖ゆ東西眺むれば雲払ひたりメンヒの

〇憧れしは白雲のをかい巻き垣間見えしも

〇山かげを流るる川は音を無み夕映雲の色に溶けたり

〇ヴェンゲンもルッェルンにも宿はなく辿りつきしはメンツィンゲン

〇料亭の扉を叩き入りぬれば今しビールの円陣

〇更けて突然訪ねし旅人は「オー・ヤパナー」と迎へらたり

── 「ヤパナー」とは日本人のこと

〇の刻に夜食をとればこはブルドッグ侍りてを鳴らす

〇ラテン語の古書の宝庫と謂はん哉ザンクトガレンの

〇キリストの四本柱なり集ひ立つ使徒の面目げに躍如たり

── ピナコテーク美術館のデュラーの四使徒

〇祭壇を縁の下より双肩に荷ふの不動の自像

〇美しき森にそびえて今もなほ昔を語るコーブルク城

〇朝毎に三時間ほど祈りして「詩篇」と「預言者」訳せし城ぞ

── ルターはこの城で旧約の翻訳をつづけていた

〇ゆくりなく森に出遇ひし二少年慕ひまとひて遂に駅まで

〇鳥寵や時計やを相手どり独り演ずる劇を見てけり

──ドイツ最小の門塔劇場にて女優アントニア・シュタインの独り芝居

〇きよらけき愛のこぼるる眸にて祈るマリアの木彫かぐはし

── ヘルゴッツキルヘのリーメンシュナイダーの傑作

〇中世のさながらとどめてぞ旅人を呼ぶローテンブルク

〇くさぐさの伝説をもつ両岸のさびたりラインの流れ

〇若き日のあこがれなりしローレライを目のあたり見るこの船路かな

〇屋根裏の小部屋にれし楽聖のつらだましひをじっと偲びき

── ボンのベートーヴェン・ハウスにて

〇岩山のドライヴたのしその心優しき二人の婦人と共に

〇岩山の上にのひと時を味はひながらラインを眺む

　　── ペータース・ベルクにて

〇来て見れば聞きしにり巨大なりケルンのドーム天そそり立つ

〇天を指すケルン・ドームのこそ今世紀への警告なれや

〇旅の果てにエルベの上を渡りつつ夕陽に語る旅情果てなし

＊

# 「帰路点描」（短歌）

自　１９６２年３月１６日

至　１９６２年４月１９日

飛雁

**コペンハーゲン**

〇終へ今日は父の日に飛び立てりああハンブルク、アルスター湖よ

──一 年間のハンブルク大学での日本学講義を終えて

〇パウルスのロッテさんありがたうのお世話忘れませんよ

〇人魚姫おの波間の岩の上恋の王子はアンデルセン！

〇日航の人魚の如き社員らと旅は道伴れクローンボーへ

── ハムレット伝説のクローンボー城へ

〇キリストと十二使徒らの立像はトルワルゼンの傑作と見し

〇ヴィーナスとの女神美しや愛の薫の漂ふすがた

**オランダ**

〇オランダはの国よその中にりて見れば木の歯車よ

〇人々のあるがままなるすがたをばきて妙へなりレンブラント

〇民衆に道を説く主のみすがたに漂ふ光画面より出づ

〇明闇のコントラストの現実を神秘に描く巨匠なる哉

〇日曜日晴すがたの乙女らとスナップ撮れり旅のなぐさみ

〇外海を限りて走る長堤の中に立てば夕景の中

〇北海に沈みゆく陽を眺めつつ日本海の夕陽偲べり

**ロンドン**

〇漱石の「ロンドン塔」を偲びつつ忍び歩きし亡霊の廓

〇名にし負ふウェストミンスターに踏み入れば星と輝くの殿なり

〇宮殿の衛兵交替その影はお伽の国の兵隊さんか

〇ブリテンの博物館の古文書のシナイ写本に魅せられし哉

**パリー**

〇エトアール凱旋門はナポレオンの象徴なるか歴史は語る

〇歓楽の夜のパリーを経めぐればムーラン・ルージュのもめぐれり

〇ルーヴルの博物館は美の国よわが眼も心もただ魅せられぬ

**ウィーン**

〇音楽の都ウィーンに来て見れば自然も人も春景色かな

〇名にし負ふブルク・テアーテルへば舞台もも美人ばかりぞ

〇「美泉」てふ名をもつ城を訪ぬればパラダイスかとあやしむばかり

〇シューベルト、べートーヴェンとモーツアルト彼らの遺跡に奪はれぬ

**ツューリヒ**

〇すぐる夏見物したるスイスなればツューリヒ湖畔をそぞろ歩けり

**ローマ**

〇空路にて首都より首都へ渡り来て今日は七度目ローマに降りぬ

〇古都ローマ名所旧跡数あれど圧倒されしはミケランジェロぞ

〇天井画、最後ののカペラにてもも吸ひつけられぬ

── カペラ・システィーナの中にて

〇カタコンベ迷宮の如き地下道のに消えせぬ信徒の

〇地上にて迫害したる権力者今は地獄の洞の鉄鎖に

**ナポリ**

〇機上よりナポリ・ヴェスヴィオせば靴のイタリア地図さながらに

**ギリシャ**

〇紺碧のエーゲ海の上を飛び残照しきアテネに着けり

〇ヴィーナスのかともふ美女の影ギリシャ神話をとなせり

〇碧空に神然と立つパルテノン、ギリシャ文化の象徴と見る

〇半島の南のスニオンの夕焼けの眺め絶景なりし

〇「神の中に生き動きまた在るなり」のアレオパゴスに我れは立ちたり

── 使徒行伝17･28参照

〇コリントの伝道の遺跡にみて大使徒パウロの心偲びぬ

**イスラエル**

〇キリストが乾坤両断の祈りせし橄欖山をまなかひに見る

〇キリストが十字架されしゴルゴタを指呼の間にじっと見つめて

〇キリストの本願を胆に受けまつりみ霊の力に満つ

〇ガリラヤのに孤舟を乗り出し昔を今の波にささやく

〇ガリラヤの湖心に舟の舟板を枕して見れば月天心にあり

〇そのかみのペテロもかくやと思はるる漁夫のありけりをふ

〇キリストが大告白をし給ひし丘にのぼりて草に端坐す

〇み声あり「貧しかれわが僕われは親しくがうちに在り」

── １９６２年４月

**香港**

〇の帰路の旅路のいやはてに香港に寄り友に迎へらる

〇浦島の太郎にあらねど海の幸ゆたけき夕に歓を交はせり

**羽田空港**

〇新鋭のルフト・ハンザにうち乗りて最後のコースを快翔したり

〇たそがれて羽田空港に降り立てば無量の感謝全身に満つ

── １９６２年４月１９日夕暮